

武蔵国分寺跡発掘調査概報

37

—昭和 50 ～ 55 年度 僧寺寺院地内等の調査—

2011年3月

国分寺市遺跡調査会
国分寺市教育委員会



第 88 次調査 SI197 竪穴住居遺物出土状況（西から）



第 10・88 次調査出土 緑釉陶器・灰釉陶器

序

武蔵国分寺跡の調査は、国分寺市教育委員会より委託を受けた国分寺市遺跡調査会が担当して実施してきた。すでに国分尼寺跡の発掘調査を行い、かねてから問題のあった伽藍の状態などについて究明し、史跡整備を果たしてきた。尼寺跡に次いで僧寺跡の発掘調査を史跡整備を念頭におき、既往の調査成果を参照しつつ実施し、僧寺の寺域確認を試みて相応の結果を挙げた。それらの成果の一端については、その都度「年報」「概報」において報告してきた。

僧寺の寺域内にはすでに公有化された伽藍の中枢堂塔跡地域のほかに多くの私有地があり、伽藍地内はもとより広く寺域内における遺構の存否、遺物包含層状況の把握が求められてきた。それは僧寺の宗教的・社会的・政治的な歴史的背景を考え、国分二寺の本来の機能を考える上に避けて通ることのできない課題であった。

よって、伽藍地内さらには寺域内における下水道敷設・道路改修などの公共事業、住宅の建設・改築などに伴う民間工事にあたっては、恒常的に発掘を実施し、記録保存の趣旨に基づいた対応を試みてきたのである。

「概報」37は、昭和50～55年度に僧寺の寺院地区内とそこに隣接する周辺地区対象に実施した発掘調査の報告を収録した。

収録した発掘地の面積は、12 m²～928 m²と一様ではないが、それは発掘調査の目的が以上の要因に存するからである。調査期間は、2日～60余日と一定していないが、これも同様の理由による。それにより検出された遺構には掘立柱建物・竪穴住居・土坑など、出土遺物は僅少であり、発掘地の状況を示している。遺構の希薄、遺物の僅少さは、対象とされた地域が、僧寺の活動期間中における空間的なありかたも端的に示しており、それなりに学問的な意義を共有する資料となった。このような所見は、華々しい成果とは一見無縁ではあるが、僧寺の調査と研究に対して決して等閑視することの出来ない成果であったと言える。

調査の実施にあたり、ご理解・ご協力を頂いた関係各位に対し、改めて感謝の意を表させていただきます。

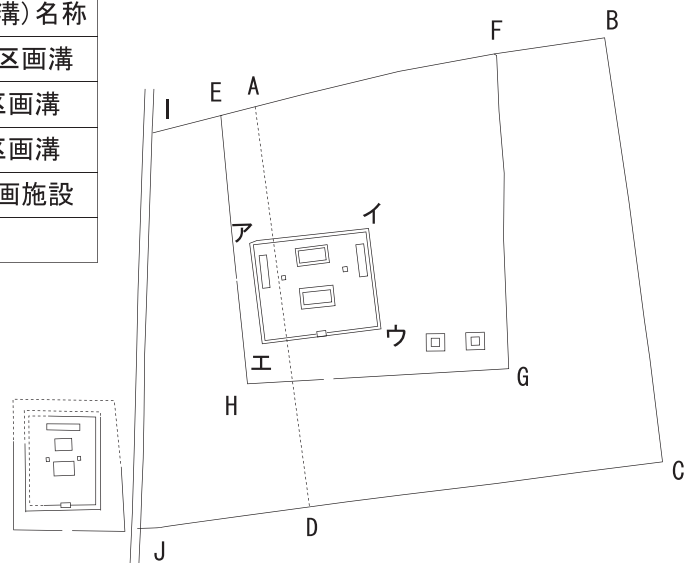
平成23年3月

国分寺市遺跡調査会
会長 坂詰 秀一

例 言

1. 本書は東京都国分寺市西元町・東元町に所在する武蔵国分寺跡において、昭和 49 年以来実施されている発掘調査の内、昭和 50 年度から昭和 55 年度までに行った住宅建設等に伴う記録保存のための緊急調査で、主に僧寺寺院地内の調査成果をまとめたものである。調査に係る費用は国庫補助により負担した。
2. 本書の作成作業は平成 22 年 4 月 1 日から国分寺市遺跡調査会で行い、平成 23 年 3 月 31 日の刊行とした。
3. 本書の執筆・編集は、坂浩秀一調査団長・依田亮一主任調査員の指導の下、各調査区の担当調査員の所見に基づいて小野本敦が行い、上敷領久・立川明子・中道誠・増井有真・坂上恵梨がこれを助けた。
4. 本書の挿図・表等の作成、全体の編集は小野本が行った。本書の作成にはマイクロソフト社「ワード」「エクセル」、アドビ社「イラストレーター」「フォトショップ」「インデザイン」の各ソフトを用いた。
5. 遺物観察表の作成は立川が行った。
6. 本書のトレース・版下作成作業は小野本の指示の下、主に藤崎努・島田智博・桂弘美・佐藤令・佐藤緋佐子・小林幸江が行った。
7. 本遺跡の出土遺物、調査記録、データは国分寺市教育委員会が保管している。
8. 武蔵国分寺の規模・構造にかかわる名称は、以下のように統一している。

区画範囲	名称	区画施設(溝)名称
ABCD	古寺院地	古寺院地区画溝
IBCJ	寺院地	寺院地区画溝
EFGH	伽藍地	伽藍地区画溝
アイウエ	中枢部	中枢部区画施設
周辺集落分布域	寺地	



第 1 図 武蔵国分寺の構造と名称

9. 武蔵国分寺の盛衰については、昭和40年代からの調査事例の累積によって、次のような変遷を辿ることが判明しており、本書においても以下の時期区分を使用する。

【第Ⅰ期】8世紀中葉の創建期を中心とする時期。七重塔を中心とする区画①を取るⅠa期と、区画①の西辺を埋め戻して金堂・講堂を中心とする区画②に変更し、尼寺の造営も開始されるⅠb期、二寺の造営が完了するⅠc期に細分する。

【第Ⅱ期】僧寺寺院地を西へ拡張して東山道武蔵路と接続する区画③を取る時期。承和12年(845)の七重塔再建に伴う寺院の整備・拡充期と捉えられ、おおむね9世紀代に相当する。

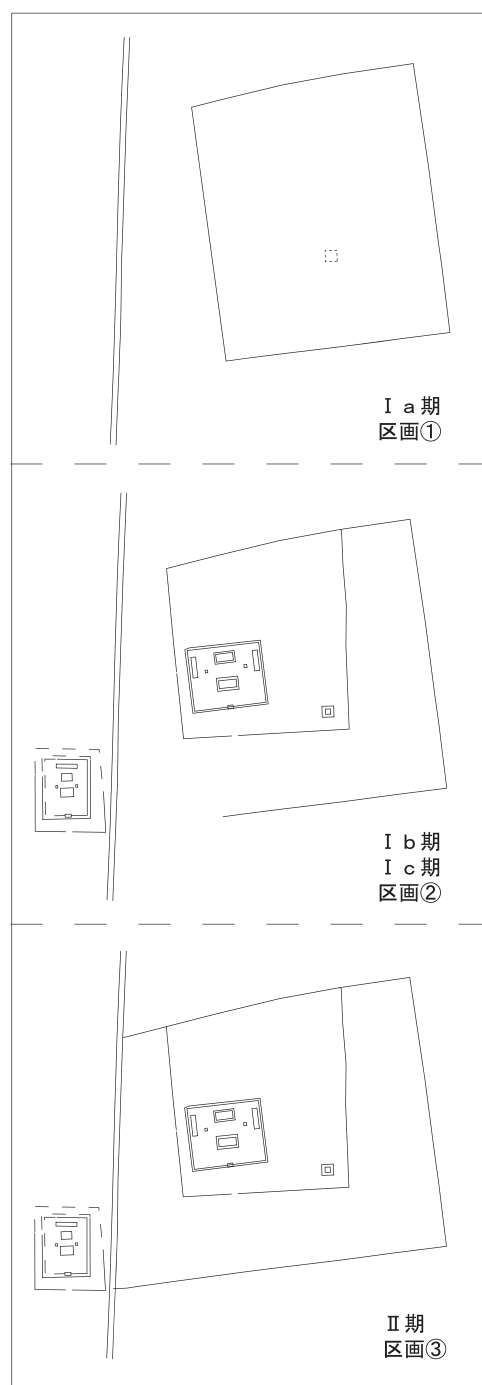
【第Ⅲ期】区画変更は行われず、寺院地内に竪穴住居跡が増加する衰退期。10・11世紀代に相当する。

10. 本書に収録した発掘調査の原図には、測量値が不明なものがあり、当時の日誌等をもとにできる限り補正したが、標高値など一部確認できないものについては空欄のまま掲載した。

11. 報告書作成にあたっては下記の方々にご協力、ご教示を賜った。記して感謝の意を表する次第である(敬称略、五十音順)。

二宮修治(東京学芸大学)

根本 靖(所沢市埋蔵文化財センター)



第2図 武蔵国分寺変遷図

凡 例

1. 遺構は遺跡をとおしてほぼ発見順に連続番号を付し下記の遺構記号を冠して表示し、縄文時代の遺構は末尾にJを付した。

SB 掘立柱建物 SI 竪穴住居 SD 溝 SK 土坑

SX 性格不明遺構（地業遺構） P 小穴

2. 遺物は各調査において種別毎に連続番号を付し、下記の遺物記号を冠して表示する。

土器類

PH 土師器 PK 須恵器 PL 土師質土器 PN 灰釉陶器 PP 緑釉陶器

瓦類

KA 鏡瓦 KB 宇瓦 KC 男瓦 KD 女瓦

石製品類

GL 砥石 GM 紡錘車

金属製品

MT 鍔帯金具

自然遺物

ND 炭化種子








石器類

AN スタンプ形石器（縄文時代）

3. 遺物の記述については一覧表とした。表は調査次数順にまとめ、原則として図面番号順に列記してある。遺物一覧表の表記方法は次項を参照のこと。

4. 遺構断面図表示の数字は水系レベルで海拔高を示す。ただし、一部原図に示されていないものは空欄とした。








5. 遺構のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

 III b 層	 III c 層	 IV・V 層
 柱穴跡	 硬質面	
 カマド粘土	 受熱部分	

6. 遺構図面の縮尺は次のとおりに統一し、逐一スケールバーで示した。また、いずれも特記のない限り図面上が座標北である。

遺構配置図 1/200・1/500 遺構個別図 1/40・1/60・1/80

7. 遺物のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

	灰釉陶器（施釉部分）		灰釉陶器（断面）		
	緑釉陶器（断面）		黒色処理		
	墨書		朱墨書		石器磨面

8. 遺物図面中の数字は、（上段）枝番号・遺構名・調査次数 - 遺物番号、（下段）図版番号の順とした。

9. 遺物図版中の数字は、（上段）枝番号・遺構名・調査次数 - 遺物番号、（下段）図面番号の順とした。

10. 遺物の縮尺は図面・図版とも次のとおりに統一し、図面では逐一スケールバーで示した。

土器類 1/3 瓦 1/4 石製品 1/3 金属製品・自然遺物 1/2 石器類 1/3

出土遺物一覧表の表記方法

(1)各遺物共通

- イ. 出土位置の「カマド」はカマド構築土・崩壊土およびカマド覆土、「床直」は床面直情出土を示す。
- ロ. 計測値は、重さはg、長さはcmで表す。記号なしは完数値、(())は復元数値、()は残存数値、-は計測不可を示す。

(2)土器類

イ. 種別 土：土師器 須A：還元焰焼成須恵器 須B：酸化焰焼成須恵器 土師質：土師質土器 灰：灰釉陶器 緑：緑釉陶器

(3)瓦

鑑瓦

- イ. 中房の形状
 - A 中房が凸型のもの
 - A1 断面方形のもの
 - A2 断面半球形のもの
 - B 中房の輪郭を凸線で表わすもの
 - B1 内部が平坦なもの
 - B2 内部が半球形に盛り上がるもの

- ロ. 弁の形状
 - S 素弁
 - A 弁の輪郭線(凸線)がなく、全体が盛り上がるもの
 - B 弁が輪郭線(凸線)のみで表わされるもの
 - C 弁の輪郭線(凸線)があり、内部全体が盛り上がるもの
 - D 弁の輪郭線(凸線)があり、内部が盛り上がるものの中房側が凹むもの
 - T 単弁

ハ. 外区文様 a=素文、b=珠文、c=その他、などがあり、内・外縁の区別がないものは外縁側に記入。

- 二. 製作技法
 - A 接着技法
 - B さしこみ技法
 - I 一般的なもの
 - II 瓦当部が二段重ねで分厚く作られるもの
 - C 一本作り技法
 - I 瓦当裏面の布目にしぼりがあるもの
 - II 瓦当裏面の布目にしぼりがないもの
 - D はめこみ技法
 - I 半截後の男瓦広端側にはめこむもの
 - II 半截前の円筒の広端側にはめこみ、不要部分を切り落とすもの

宇瓦

- イ. 内区文様 G=重弧文、KK=均整唐草文、HK=偏行唐草文、H=へら書文、K=格子文、J=縄文、M=無文、0=その他
- ロ. 上・下区、脇区文様 a=素文、b=珠文、c=長円珠文、d=圏線文、e=鋸歯文、f=凸線文、g=その他

- ハ. 製作技法
 - A 接着技法
 - B さしこみ技法
 - C 折り曲げ技法
 - D 貼り付け技法 女瓦凸面に粘土を貼り付け瓦当部を作るもの
- 二. 顎の形態
 - A 直線顎
 - a 瓦当凸面を調整するもの
 - b 瓦当部と女瓦部の境部分のみ調整するもの
 - c 不調整のもの
 - B 段顎
 - B1 瓦当凸面と凹面が平行するもの
 - a 瓦当凸面および瓦当裏面を調整するもの
 - b 瓦当凸面のみ調整するもの
 - c 瓦当裏面のみ調整するもの
 - d 不調整のもの
 - B2 B1・B3以外のもの
 - B3 瓦当凸面が円みを持つもの
 - C 曲線顎
 - C1 一般的なもの
 - a 瓦当凸面を調整するもの
 - b 瓦当部と女瓦部の境部分を調整するもの
 - c 瓦当凸面および女瓦部の境部分を調整するもの
 - d 不調整のもの
 - C2 やや直線的なもの

男瓦・女瓦

- イ. 製作技法

<ul style="list-style-type: none"> 男瓦 <ul style="list-style-type: none"> I 1-A1技法 有段粘土紐桶巻き作り I 1-B技法 有段粘土板桶巻き作り I 2-A1技法 無段隅落し粘土紐桶巻き作り I 3-A1技法 無段粘土紐桶巻き作り I 3-B技法 無段粘土板桶巻き作り 	<ul style="list-style-type: none"> 女瓦 <ul style="list-style-type: none"> I-A1技法 粘土紐桶巻き作り I-B技法 粘土板桶巻き作り II 1-A1技法 凸面型粘土横紐一枚作り II 1-A2技法 凸面型粘土縦紐一枚作り II 1-B技法 凸面型粘土板一枚作り II 2-B技法 凹面型粘土板一枚作り
--	---

ロ. 布目本数 3cm四方内での側端縁に並行する糸数と狭・広端縁に並行する糸数を表す

ハ. 縄叩き本数 3cm四方内での縄数を表す

- 二. 糸の撚り
 - L 縄圧痕が右上がり左下がりの傾斜をなすもの
 - R 縄圧痕が左上がり右下がりの傾斜をなすもの

ホ. 粘土板合せ目 佐原分類のS・Zによる(佐原1972)

ヘ. 布合せ目 ホに準ずる

- ト. 叩き締め円弧
 - A 叩き締め円弧が一方方向
 - B 叩き締め円弧が「ハ」字状をなすもの

目 次

本文目次

序	i
例言	iii
凡例	v
第1章 調査地区の概観	1
1. 調査地区の位置・立地	
2. 層序	
第2章 発掘および整理の経過	5
1. 調査の目的	
2. 調査基準点について	
3. 整理作業に至る経緯	
第3章 調査の概要	8
第4章 小結	23
1. 検出遺構について	
2. 出土遺物について	
第5章 総括	30
参考文献	32
国分寺市遺跡調査会組織	33
報告書抄録	34
出土遺物一覧表	35

挿図・表目次

第1図 武蔵国分寺の構造と名称	iii
第2図 武蔵国分寺変遷図	iv
第3図 国分寺市の地理的環境	1
第4図 基本土層図	2
第5図 遺跡の位置	3
第6図 調査区の位置	4
第7図 調査基準線の設定	5
第8図 棚状施設に瓦を置く 竪穴住居	24

第9図	SI197 竪穴住居と東カマド脇に置かれた瓦	25
第10図	SX9 地業遺構	25
第11図	SD23 溝	26
第12図	市内出土の腰帯関連遺物	28
第13図	「月」とヘラ書された瓦	28
第1表	調査次数一覧	7

図面目次

図面1	第10・11・21・26・34次調査 遺構配置図
図面2	第46・53・55・56・61・63次調査 遺構配置図
図面3	第64・66・74・76・88・89次調査 遺構配置図
図面4	第90・92・96・97・98次調査 遺構配置図
図面5	第102・105・108次調査 遺構配置図
図面6	第106・115・118・119・120次調査 遺構配置図
図面7	第121・124・125次調査 遺構配置図
図面8	第10次調査 SI82 竪穴住居・SK91 土坑実測図
図面9	第21次調査 SK133 土坑 第26次調査 SI113・114 竪穴住居 第46次調査 SK196 土坑実測図
図面10	第53次調査 SK230・235 土坑 第55次調査 SD60 溝・SK253 土坑 第63次調査 SK285J 土坑実測図
図面11	第64次調査 SX9 地業遺構 第74次調査 SI181 竪穴住居・SK321 土坑実測図
図面12	第74次調査 SI181 竪穴住居カマド 第76次調査 SD91 溝実測図
図面13	第88次調査 SI197 竪穴住居実測図
図面14	第88次調査 SI197 竪穴住居カマド実測図
図面15	第88次調査 SI197 竪穴住居遺物出土状況
図面16	第88次調査 SI198 竪穴住居・SD87 溝 SK387・388 土坑実測図
図面17	第89次調査 SD23 溝 第92次調査 SI202 竪穴住居実測図
図面18	第96次調査 SD104 溝 第98次調査 SD108 溝 第108次調査 SD124 溝・SK536・ 537 土坑実測図
図面19	第97次調査 SD49 溝・SI211 竪穴住居実測図
図面20	第97次調査 SK416～421 土坑実測図
図面21	第102次調査 SI225 竪穴住居実測図
図面22	第102次調査 不明落込み 第106次調査 SK515・530・531 土坑・不明落込み実

測図

- 図面 23 第 106 次調査 SI226 竪穴住居実測図
図面 24 第 118 次調査 SB63 掘立柱建物・SK556・557 土坑実測図
図面 25 第 120 次調査 SB65 掘立柱建物・SK565 土坑実測図
図面 26 第 124 次調査 SD128 溝・SK579・580 土坑 第 125 次調査 SK582 土坑実測図
図面 27 第 10・11・21 次調査出土遺物
図面 28 第 26 次調査出土遺物
図面 29 第 46・53・56・74 次調査出土遺物
図面 30 第 55 次調査出土遺物
図面 31 第 88 次調査出土遺物 (1)
図面 32 第 88 次調査出土遺物 (2)
図面 33 第 88 次調査出土遺物 (3)
図面 34 第 88 次調査出土遺物 (4)
図面 35 第 88 次調査出土遺物 (5)
図面 36 第 88 次調査出土遺物 (6)
図面 37 第 88 次調査出土遺物 (7)
図面 38 第 88 次調査出土遺物 (8)
図面 39 第 88 次調査出土遺物 (9)
図面 40 第 88 次調査出土遺物 (10)
図面 41 第 88 次調査出土遺物 (11)
図面 42 第 89・92 次調査出土遺物
図面 43 第 97・106 次調査出土遺物
図面 44 第 102 次調査出土遺物 (1)
図面 45 第 102 次調査出土遺物 (2)

図版目次

卷首図版

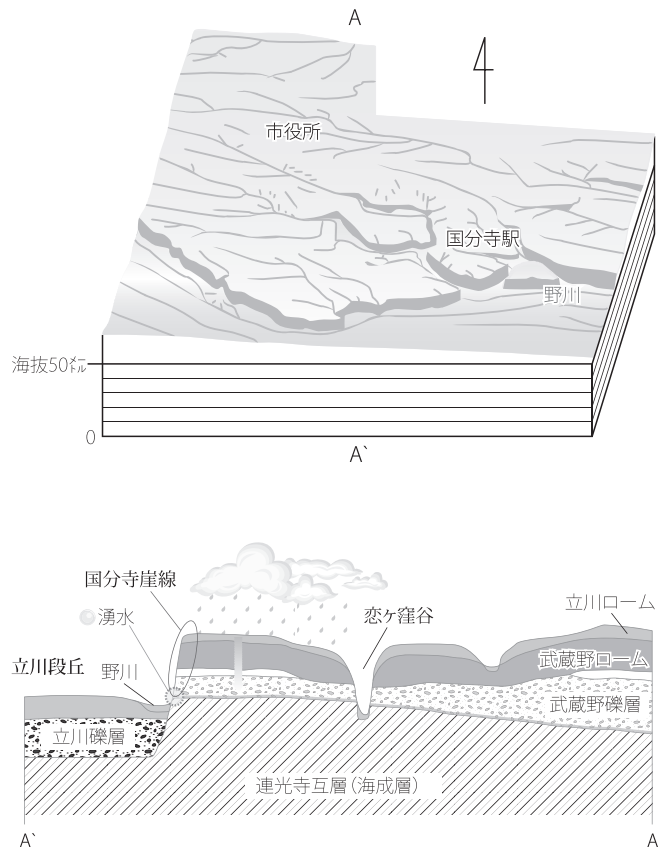
- 図版 1 第 10・11 次調査
図版 2 第 21・26 次調査
図版 3 第 34・46・53 次調査
図版 4 第 55・56 次調査
図版 5 第 61・63・64・66 次調査
図版 6 第 74・76 次調査

- 図版 7 第 88 次調査 (1)
- 図版 8 第 88 次調査 (2)
- 図版 9 第 88 次調査 (3)
- 図版 10 第 88 次調査 (4)
- 図版 11 第 89・90・92 次調査
- 図版 12 第 96・97 次調査
- 図版 13 第 97 次調査 (2)
- 図版 14 第 98・102 次調査
- 図版 15 第 105・106 次調査
- 図版 16 第 106 次調査 (2)
- 図版 17 第 106 (3)・108・115 次調査
- 図版 18 第 118 次調査 (1)
- 図版 19 第 118 次調査 (2)
- 図版 20 第 118 (3)・119 次調査
- 図版 21 第 120 次調査 (1)
- 図版 22 第 120 次調査 (2)
- 図版 23 第 121・124・125 次調査
- 図版 24 第 10・11・21・46・53・55 次調査出土遺物
- 図版 25 第 26 次調査出土遺物
- 図版 26 第 88 次調査出土遺物 (1)
- 図版 27 第 88 次調査出土遺物 (2)
- 図版 28 第 88 次調査出土遺物 (3)
- 図版 29 第 88 次調査出土遺物 (4)
- 図版 30 第 88 次調査出土遺物 (5)
- 図版 31 第 88 次調査出土遺物 (6)
- 図版 32 第 88 次調査出土遺物 (7)
- 図版 33 第 88 次調査出土遺物 (8)
- 図版 34 第 89・92・97 次調査出土遺物
- 図版 35 第 102・106 次調査出土遺物
- 図版 36 文字・記号集成 (1)
- 図版 37 文字・記号集成 (2)
- 図版 38 文字・記号集成 (3)

第1章 調査地区の概観

1. 調査地区の位置・立地

国分寺市は、通称「ハケ」と呼ばれる国分寺崖線を境に南北に分けられる。国分寺崖線は武蔵野台地を古多摩川が浸食することで形成された崖で、崖上を武蔵野段丘、崖下を立川段丘と呼称する。現在、国分寺崖線沿いには、付近の湧水を集めた野川が東流しているが、段丘面形成期には武蔵野段丘側からこれに注ぐ複数の流れがあり、本多谷・殿ヶ谷戸谷・さんや谷・恋ヶ窪谷などのいくつもの開削谷を残している。武蔵野台地はこれらの谷によって本多面・恋ヶ窪面・内藤面に分けられる。こうした起伏に富む豊かな自然環境のもと、国分寺市内には旧石器・縄文時代の生活痕跡が多数残されている。しかし、弥生時代以降、武蔵国分寺造営までの間、市域での土地利用痕跡は希薄となる。



第3図 国分寺市の地理的環境

武蔵国分寺跡は、国分寺市西元町1～4丁目を中心に東西2km・南北1.5kmの範囲に広がる。僧寺・尼寺とも伽藍の主要部分は立川段丘面上にあるが、僧寺寺域を区画する溝は武蔵野段丘面まで伸びている。また、僧寺と尼寺の間には、上野国新田郡で東山道の本道から分岐して武蔵国に至る（『続日本紀』宝亀二年十月己卯）東山道武蔵路が南北に通過している。

今回報告する調査は、第74・90・108・120・121次調査区が武蔵野段丘面上に立地し、それ以外は立川段丘面上に立地する。また、僧寺寺院地との関係においては、武蔵野段丘面上の上記5地区と第10・64・66・88・97次調査区を除き寺院地内にあり、特に第11・26・46・56・106・124次調査区は伽藍中枢部に位置する（第6図）。

2. 層序

国分寺市遺跡調査会で用いる層位区分は、表土（Ⅰ層）下の黒色土を2枚に細分し、これをⅡ層・Ⅲ層と呼称している。そのため、黒色土をⅡ層とし、Ⅲ層以下をローム層にあてる一般的な立川ローム層の区分とは呼称にズレが生じている。

今回報告する調査区は武蔵野段丘面と立川段丘面とに存在するが、堆積土は下記の通りほぼ共通した層序を示す。

Ⅰ層 表土および耕作土。

Ⅱ層 黒褐色土。粒子が粗い。しまりやや弱い。粘性弱い。歴史時代の遺構内の堆積土に似る。

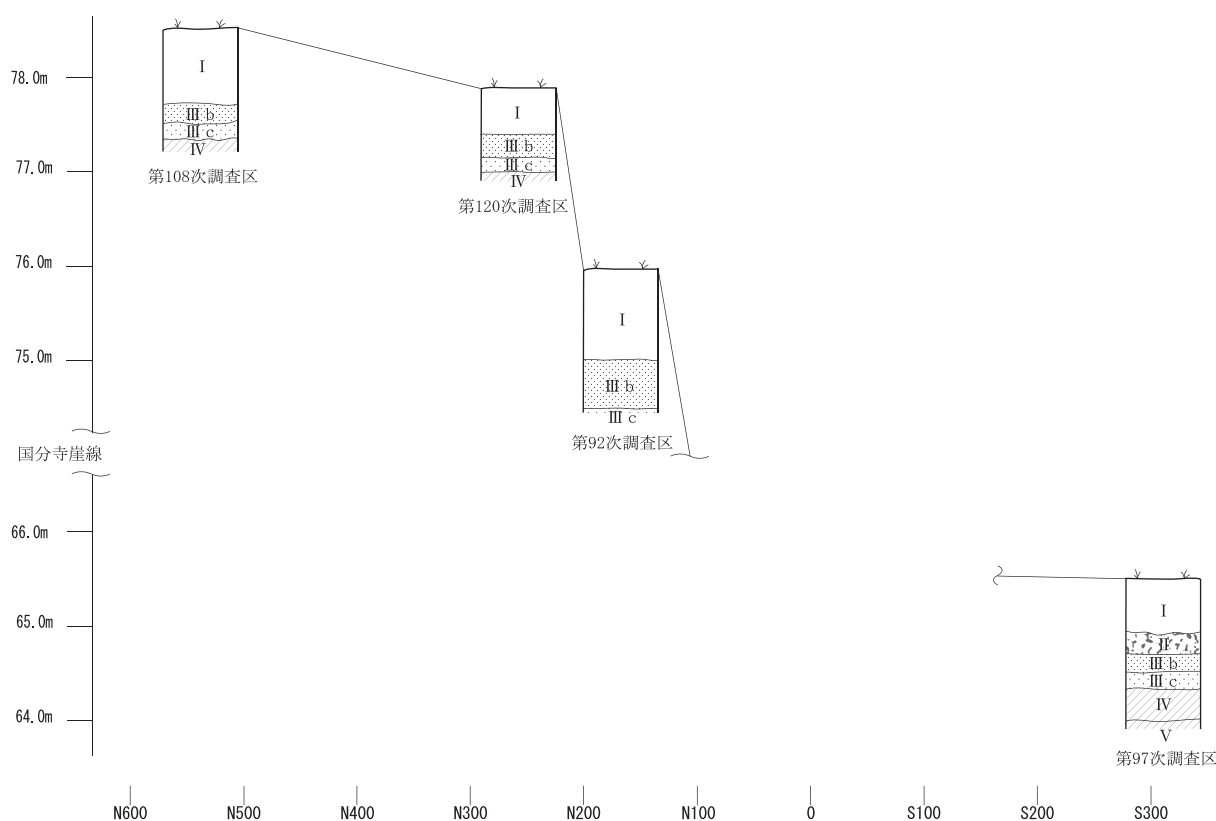
Ⅲ a 層 暗褐色土。粒子はやや粗い。粘性やや弱い。Ⅱ層・Ⅲ b 層との境は漸移的。

Ⅲ b 層 暗褐色土。Ⅲ a 層より明度高い。本層の上面で歴史時代の遺構が検出しやすくなる。縄文時代の遺物を包含する。

Ⅲ c 層 茶褐色土。ローム漸移層。本層の上面で縄文時代の遺構が検出しやすくなる。上部に縄文時代の遺物を包含する。

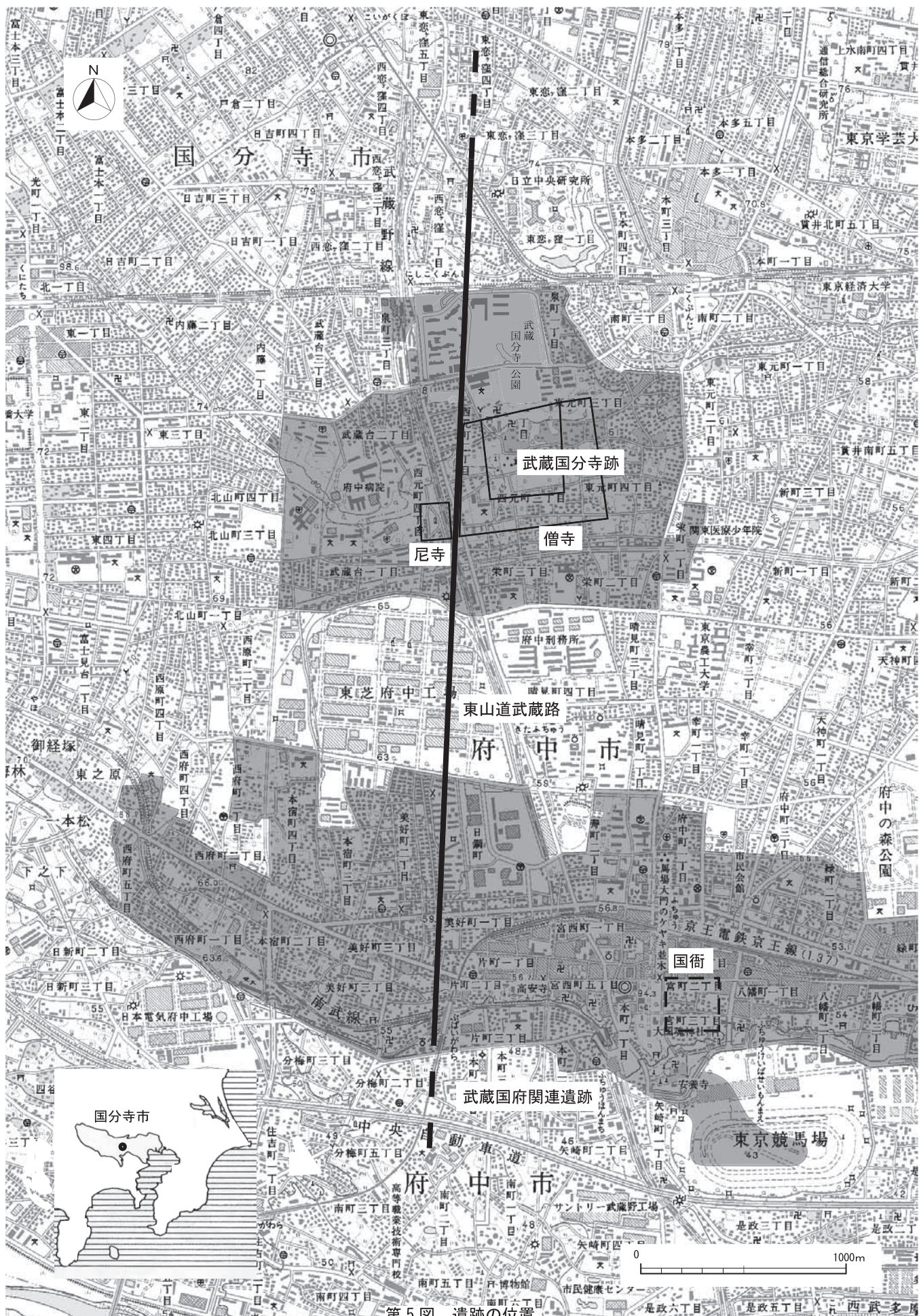
Ⅳ層 暗黄褐色ローム。ソフトローム。

Ⅴ層 黄褐色ローム。ハードローム。

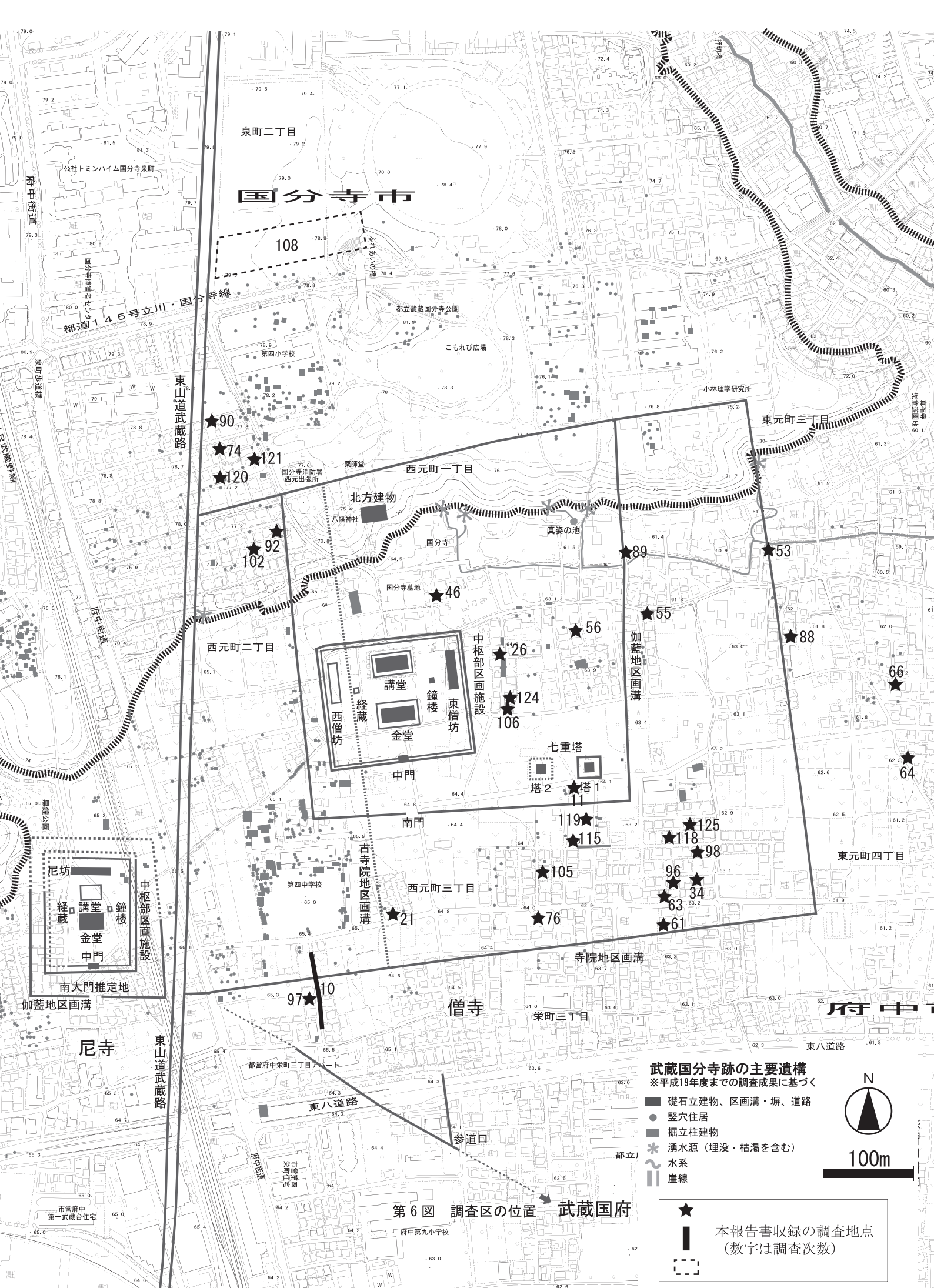


第4図 基本土層図

調査地区の概観



第5図 遺跡の位置



国分寺市

108

90

74

121

120

92

102

46

26

124

106

56

89

55

53

88

66

64

119

115

125

118

98

96

34

63

61

21

76

105

97

10

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

76

第2章 発掘および整理の経過

1. 調査の目的

武蔵国分寺遺跡調査会は、昭和49年に市立第四中学校建設問題を契機として、武蔵国分寺跡の恒常的調査機関として発足した。以後、昭和60年までの12年間で武蔵国分寺の寺院地・伽藍地を確定するための確認調査を32地区において実施してきた（第1期調査）。昭和61年に恋ヶ窪遺跡調査会と一本化し、国分寺市遺跡調査会に改組して以降は、武蔵国分寺跡の史跡整備に先行する第2期調査を継続している。

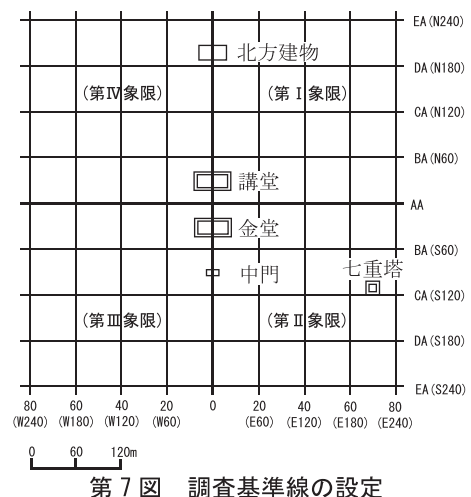
また、上記の学術目的の発掘調査と平行して、開発等によりやむを得ず破壊を受ける遺跡の記録保存のための緊急調査も行っている。これらを合わせた発掘調査件数は平成22年度末までに660件を超え、第1図および第2図に示したような寺院地の規模や変遷を明らかにするに至っている。

今回の報告は、昭和50年度から昭和55年度までに行った住宅建設等に伴う記録保存のための緊急調査のうち、主に僧寺寺院地内の調査成果をまとめたものである。なお、該当年度の調査のうち、遺構・遺物ともに検出されなかった3地区（第95・110・123次調査区）はすでに『平成16・17年度 国分寺市埋蔵文化財調査年報』の付編にて報告済である。また、昭和51年度～昭和53年度および昭和55年度に行った僧寺の寺域確認に伴う調査成果については、それぞれ『武蔵国分寺遺跡調査会年報Ⅱ』および『武蔵国分寺跡発掘調査概報25』に収録している。

2. 調査基準点について

武蔵国分寺跡では、僧尼寺の広大な範囲を統一して調査するため、僧寺の伽藍中心軸線を基準に、金堂心の北26.276mの中軸線上の点（コンクリート埋設）を座標原点とする局地座標系を用いている。僧寺中軸線は、真北から $7^{\circ}07'01''$ 、磁北から $0^{\circ}37'01''$ それぞれ西偏する。

本文中および遺構配置図表示（グリッド）の数字は、発掘基準線中心点からの距離を表す。最小の発掘区は $3\text{m} \times 3\text{m}$ とし、その南と西に接する基準線に与えた記号



の組み合わせにより呼称する。東西基準線はアルファベット 2 文字で表す。1 文字目は原点を A として 60m 毎に以下 B・C・D・・・とふり、2 文字目はその内を 3m 毎に 20 区に分け A～T までふる。南北基準線は数字で表す。原点を 0 とし、以下東西とも 3m 毎に 1・2・3・・・とふる。このようにして発掘区を呼称すると、中軸線 AA と 0 に接する区を除き、4 つの象限に同一名称があることになるので、調査地区の記号に象限を入れ MK（武蔵国分寺跡の略）I～IV と呼んで区別する。本報告では中心点からの距離を N・S・W・E で表し、併用する。

3. 整理作業に至る経緯

今回報告するいずれの調査区においても、現地発掘終了後ただちに整理作業に入り、基礎的な整理を終えていた。しかし、急増する開発や下水道敷設に伴う緊急調査を優先せざるを得ない状況が続いたため、報告書の刊行が遅れていた。

国分寺市教育委員会では、こうした未報告の過年度発掘調査について、国および東京都の補助を受けて平成 18 年度より報告書の刊行を行っている。報告書刊行のための整理作業は、国分寺市教育委員会から委託を受けた国分寺市遺跡調査会が行った。

整理作業は、平成 22 年 4 月 1 日から 11 月までを遺構図面のトレース、遺物の実測・トレース、図版の選別等の作業に充て、その後、編集作業を経て平成 23 年 3 月 31 日の報告書刊行とした。

発掘および整理の経過

	調査年度	調査回数	調査地番	調査期間	調査面積 (㎡)	検出遺構	遺物 箱数	担当 調査員
1	S50	10次	西元町三丁目2190	5. 23～5. 30	20	竪穴住居1軒、土坑1基	3	有吉
2		11次	西元町三丁目2004-14	6. 19～6. 21	15	なし	4	有吉
3	S51	21次	西元町三丁目2160-6	9. 14～9. 29	99.51	竪穴住居4軒、土坑2基	4	西脇 福田
4		26次	西元町三丁目31-11	10. 5～10. 18	32	竪穴住居2軒	2	福田
5		34次	西元町三丁目16-12	3. 3～3. 4	12	なし	1	福田
6	S52	46次	西元町一丁目1598-3, 4	5. 23～6. 28	108	土坑1基	5	有吉
7		53次	東元町三丁目1540	8. 25～9. 6	16	溝1条、土坑2基	1	福田
8		55次	西元町三丁目1531-11	11. 30～12. 13	50	溝1条、土坑1基	5	福田
9		56次	西元町三丁目1524-1	12. 14～12. 23	20.6	竪穴住居1軒、土坑1基	2	有吉
10		61次	西元町三丁目1917	3. 14～3. 15	21	なし	1	有吉
11	S53	63次	西元町三丁目1915-14	4. 4～4. 11	64	縄文時代土坑1基、小穴2基	1	有吉
12		64次	東元町四丁目1758	4. 4～4. 10	6.6	地業遺構1基	0	渡辺
13		66次	東元町四丁目1793-6	4. 24～4. 28	38	小穴7基	1	有吉
14		74次	西元町二丁目2544-33	7. 5～7. 15	56.8	竪穴住居1軒、土坑1基	3	西脇
15		76次	西元町三丁目2171-1	8. 22～8. 29	30.8	溝1条	1	有吉
16		88次	東元町四丁目1538-7	1. 31～4. 3	77.3	竪穴住居2軒、溝1条、土坑2基、小穴23基	13	福田 平田
17		89次	東元町三丁目1560	2. 27～3. 8	15	溝1条	6	上村
18		90次	西元町二丁目2544-9	3. 5～3. 22	53	なし	1	福田
19		92次	西元町二丁目2546-8	3. 23～4. 9	40	竪穴住居1軒、小穴2基	3	上村
20	S54	96次	西元町三丁目1915-21	6. 26～7. 10	76.215	溝1条	1	福田
21		97次	西元町三丁目2192-2, 2191-9	7. 10～8. 10	133	竪穴住居1軒、溝1条、土坑6基、小穴53基	4	福田
22		98次	西元町三丁目17-11	8. 1～8. 9	35.5	溝1条、土坑1基、小穴2基	1	有吉
23		102次	西元町二丁目2546-23	2. 4～3. 5	48	竪穴住居1軒	2	上村
24		105次	西元町三丁目2056-11	2. 20～3. 5	27	小穴2基	1	福田
25		106次	西元町三丁目1578-1	3. 10～4. 10	95	竪穴住居1軒、土坑3基	1	有吉
26	S55	108次	泉町二丁目6-7	3. 10～5. 14	928.61	溝1条、土坑2基	0	西脇 平田
27		115次	西元町三丁目2046-5	6. 10～7. 21	129.48	なし	1	西脇 平田
28		118次	西元町三丁目1927-4	7. 25～8. 13	96.42	掘立柱建物1棟、土坑2基、小穴2基	1	有吉
29		119次	西元町三丁目21-12	8. 20～8. 21	5.43	なし	1	有吉
30		120次	西元町二丁目15-5	10. 3～11. 5	46.03	掘立柱建物1棟、土坑2基、小穴1基	1	上村 渡辺
31		121次	西元町二丁目15-42	11. 13～12. 8	38.1	溝1条、土坑1基、小穴24基	1	福田
32		124次	西元町三丁目1578-18	12. 8～12. 26	64.77	溝1条、土坑4基、小穴44基	1	有吉
33		125次	西元町三丁目18-20	1. 13～1. 20	17.26	土坑1基、小穴8基	1	有吉 平田

第1表 調査回数一覧

第3章 調査の概要

第10次調査（図面1）

所在地 国分寺市西元町三丁目 2190

調査面積 20 m²

調査期間 1975. 5. 23 ~ 5. 30（実働7日間）

検出遺構 竪穴住居1軒（SI82）、土坑1基（SK91）

遺物箱数 3

調査担当 有吉重蔵

SI82 竪穴住居（図面8 図版1）

E0・EP-43・44区に所在し、僧寺中心点の南279.6～283.6m、西128.8～131.9mに位置する。平面形は東西3.16m、南北3.41mの方形で、確認面からの深度は28cmである。主軸は僧寺中軸線に対して約1°西偏する。北壁の東寄りにカマドを設ける。

SK91 土坑（図面8）

FF-43区に所在し、僧寺中心点の南312.1～313.7m、西127.3～127.5mに位置する。東側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸1.71m、短軸0.22m以上、確認面からの深度は73cmである。

第11次調査（図面1 図版1）

所在地 国分寺市西元町三丁目 2004-14

調査面積 15 m²

調査期間 1975. 6. 19 ~ 6. 21（実働3日間）

検出遺構 なし

遺物箱数 4

調査担当 有吉重蔵

第21次調査（図面1）

所在地 国分寺市西元町三丁目 2160-6

調査面積 99.51 m²

調査期間 1976. 9. 14 ~ 9. 29（実働5日間）

検出遺構 竪穴住居4軒（SI107～110）、土坑2基（SK133・137）

遺物箱数 4

調査担当 西脇俊郎・福田信夫

SK133 土坑 (図面 9 図版 2)

EF-15 区に所在し、僧寺中心点の南 252.2 ～ 253.3m、西 42.1 ～ 43.2m に位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 1.2m 以上、短軸 1.0m、確認面からの深度は 20cm である。

第 26 次調査 (図面 1・9 図版 2)

所在地 国分寺市西元町三丁目 31-11

調査面積 32 m²

調査期間 1976. 10. 5 ～ 10. 18 (実働 9 日間)

検出遺構 竪穴住居 2 軒 (SI113・114)

遺物箱数 2

調査担当 福田信夫

第 34 次調査 (図面 1 図版 3)

所在地 国分寺市西元町三丁目 16-12

調査面積 12 m²

調査期間 1977. 3. 3 ～ 3. 4 (実働 2 日間)

検出遺構 なし

遺物箱数 1

調査担当 福田信夫

第 46 次調査 (図面 2 図版 3)

所在地 国分寺市西元町一丁目 1598-3, 4

調査面積 108 m²

調査期間 1977. 5. 23 ～ 6. 28 (実働 23 日間)

検出遺構 土坑 1 基 (SK196)

遺物箱数 5

調査担当 有吉重蔵

SK196 土坑 (図面 9 図版 3)

BJ-21・22 区に所在し、僧寺中心点の北 89 ～ 90m、東 64 ～ 69m に位置する。北側は調査

区外へ続く。平面形は不明で、規模は東西 5.0m 以上、南北 0.8m 以上、確認面からの深度は 64cm 以上である。

第 53 次調査（図面 2 図版 3）

所在地 国分寺市東元町三丁目 1540

調査面積 16 m²

調査期間 1977. 8. 25 ～ 9. 6（実働 9 日間）

検出遺構 溝 1 条（SD52）、土坑 2 基（SK230・235）

遺物箱数 1

調査担当 福田信夫

SD52 溝（図面 2）

B0・BP-146・147 区に所在し、僧寺中心点の北 104 ～ 106m、東 440 ～ 443m に位置する。上面幅 1.5m、底面幅 1.3m、確認面からの深度 14 ～ 20cm を測る。検出した長さは 1.7m で東西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線にほぼ直交する。覆土は表土と類似しており、古代以降の所産と思われる。

SK230 土坑（図面 10 図版 3）

BP・BQ-147 区に所在し、僧寺中心点の北 106 ～ 111m、東 441 ～ 443m に位置する。SK235 土坑より上位で検出した。平面形は長方形で、規模は長軸 3.8m、短軸 0.8m、確認面からの深度は 24cm である。

SK235 土坑（図面 10）

BP-147 区に所在し、僧寺中心点の北 107 ～ 108m、東 442m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は楕円形で、規模は長軸 1.1m 以上、短軸 0.6m、確認面からの深度は 30cm である。

第 55 次調査（図面 2 図版 4）

所在地 国分寺市西元町三丁目 1531-11

調査面積 50 m²

調査期間 1977. 11. 30 ～ 12. 13（実働 10 日間）

検出遺構 溝 1 条（SD60）、土坑 1 基（SK253）

遺物箱数 5

調査担当 福田信夫

SD60 溝（図面 10 図版 4）

A0 ～ AR-96 区に所在し、僧寺中心点の北 44 ～ 52m、東 288 ～ 291m に位置する。上面幅 1.0

調査の概要

～1.5m、底面幅30～60cm、確認面からの深度30～50cmを測る。検出した長さは7.5mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線にほぼ平行する。調査区北側の溝の右肩に円形の落ち込みがかかっており、SK253土坑としたが、全体に上面が削平されており、新旧関係や規模は不明瞭である。

第56次調査（図面2 図版4）

所在地 国分寺市西元町三丁目1524-1

調査面積 20.6 m²

調査期間 1977. 12. 14～12. 23（実働10日間）

検出遺構 竪穴住居1軒、土坑1基

遺物箱数 2

調査担当 有吉重蔵

第61次調査（図面2 図版5）

所在地 国分寺市西元町三丁目1917

調査面積 21 m²

調査期間 1978. 3. 14～3. 15（実働2日間）

検出遺構 なし

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

第63次調査（図面2 図版5）

所在地 国分寺市西元町三丁目1915-14

調査面積 64 m²

調査期間 1978. 4. 4～4. 11（実働5日間）

検出遺構 縄文時代土坑1基（SK285J）、小穴2基

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

SK285J土坑（図面10 図版5）

EK・EL-90・91区に所在し、僧寺中心点の南269～272m、東272～274mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は楕円形で、規模は長軸1.8m、短軸1.0m、確認面からの深度は30cmである。

第 64 次調査（図面 3）

所在地 国分寺市東元町四丁目 1758

調査面積 6.6 m²

調査期間 1978. 4. 4～4. 10（実働 4 日間）

検出遺構 地業遺構 1 基（SX9）

遺物箱数 0

調査担当 渡辺克彦

SX9 地業遺構（図面 11 図版 5）

1 トレンチでは全面で検出されたが、2 トレンチでは検出されていない。確認面から基底部分までの深さは約 70cm である。黒褐色土およびローム土を約 10cm～15cm の幅で交互に積んで固めた版築がなされている。出土遺物はなく、時期・性格等は不明である。

第 66 次調査（図面 3 図版 5）

所在地 国分寺市東元町四丁目 1793-6

調査面積 38 m²

調査期間 1978. 4. 24～4. 28（実働 5 日間）

検出遺構 小穴 7 基

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

第 74 次調査（図面 3）

所在地 国分寺市西元町二丁目 2544-33

調査面積 56.8 m²

調査期間 1978. 7. 5～7. 15（実働 8 日間）

検出遺構 竪穴住居 1 軒（SI181）、土坑 1 基（SK321）

遺物箱数 3

調査担当 西脇敏郎

SI181 竪穴住居（図面 11・12 図版 6）

EQ・ER-55 区に所在し、僧寺中心点の北 289～293m、西 163～165m に位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西 2.0m 以上、南北 3.6m の長方形で、確認面からの深度は 35cm である。主軸は僧寺中軸線にほぼ平行する。北壁にカマドを設ける。カマド内には芯材の瓦が 4

点残存しており、直立する1点は支脚と思われる。

SK321 土坑 (図面 11 図版 6)

EQ・ER-55 区に所在し、僧寺中心点の北 290 ～ 292m、西 162 ～ 163m に位置する。東側は調査区外へ続く。平面形は円形で、規模は直径 1.0m、確認面からの深度は 15cm である。SI181 竪穴住居より新しい。

第 76 次調査 (図面 3 図版 6)

所在地 国分寺市西元町三丁目 2171-1

調査面積 30.8 m²

調査期間 1978. 8. 22 ～ 8. 29 (実働 6 日間)

検出遺構 溝 1 条 (SD91)

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

SD91 溝 (図面 12)

EM-42 区に所在し、僧寺中心点の南 273 ～ 276m、東 126 ～ 127m に位置する。上面幅 40cm 以上で、東は調査区外へ続く。検出した長さは 2.5m で南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線にほぼ平行する。

第 88 次調査 (図面 3)

所在地 国分寺市東元町四丁目 1538-7

調査面積 77.3 m²

調査期間 1979. 1. 31 ～ 4. 3 (実働 40 日間)

検出遺構 竪穴住居 2 軒 (SI197・198)、溝 1 条 (SD87)、土坑 2 基 (SK387・388)、小穴 23 基

遺物箱数 13

調査担当 福田信夫・平田貴正

SI197 竪穴住居 (図面 13・14・15 図版 7・8)

AB ～ AD-146・147 区に所在し、僧寺中心点の北 5.6 ～ 9.3m、東 439.6 ～ 443.8 m に位置する。平面形は東西 3.43m、南北 2.86m の長方形で、確認面からの深度は 44cm である。主軸は僧寺中軸線に対して約 1° 西偏する。北壁と東壁にカマドを構築しており、東カマドのほうが新しい。東カマドの左肩部分に 1/4 大の女瓦片が凸面を上にして 6 点置かれており、そのうちの 1 点の下から銚帯の裏金具が出土した。

SI198 竪穴住居 (図面 16 図版 9・10)

AC・AD-148～149区に所在し、僧寺中心点の北8.3～11.3m、東445.6～450.0mに位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は東西3.92m、南北2.98m以上の長方形で、確認面からの深度は41cmである。主軸は僧寺中軸線に対して約91°東偏する。東壁の南寄りにカマドを設ける。

SD87 溝 (図面 16)

AB～AD-148・149区に所在し、僧寺中心点の北4.4～11.2m、東446.4～447.6mに位置する。上面幅0.44～0.86m、底面幅0.24～0.62m、確認面からの深度15cmを測る。検出した長さは6.54mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対して約4°東偏する。SI198より新しい。

SK387 土坑 (図面 16 図版 10)

AB-148・149区に所在し、僧寺中心点の北3.1～4.5m、東446.4～447.3mに位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形で、規模は長軸1.40m、短軸1.12m、確認面からの深度は28cmである。

SK388 土坑 (図面 16 図版 10)

AC・AD-148区に所在し、僧寺中心点の北7.5～9.1m、東444.3～445.5mに位置する。平面形は隅丸方形で、規模は長軸1.63m、短軸1.45m、確認面からの深度は13cmである。

第89次調査 (図面 3)

所在地 国分寺市東元町三丁目 1560

調査面積 15 m²

調査期間 1979. 2. 27～3. 8 (実働8日間)

検出遺構 溝1条 (SD23)

遺物箱数 6

調査担当 上村昌男

SD23 溝 (図面 17 図版 11)

CB～CD-89～91区に所在し、僧寺中心点の北124.0～130.0m、東266.8～276.1mに位置する。上面幅8.4m以上、底面幅7.9m以上、確認面からの深度160cm以上を測る。検出した長さは6mで南北および西は調査区外へ続く。僧寺寺院地東辺区画溝である。

第90次調査 (図面 4 図版 11)

所在地 国分寺市西元町二丁目 2544-9

調査面積 53 m²

調査期間 1979. 3. 5～3. 22 (実働12日間)

検出遺構 なし

遺物箱数 1

調査担当 福田信夫

第92次調査（図面4 図版11）

所在地 国分寺市西元町二丁目2546-8

調査面積 40 m²

調査期間 1979. 3. 23 ~ 4. 9（実働13日間）

検出遺構 竪穴住居1軒（SI202）、小穴2基

遺物箱数 3

調査担当 上村昌男

SI202 竪穴住居（図面17 図版11）

DE・DF-37・38区に所在し、僧寺中心点の北192.1～195.1m、西109.1～111.7mに位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西2.64m以上、南北2.35m以上の長方形で、確認面からの深度は38cmである。主軸は僧寺中軸線に対して約15°東偏する。北壁にカマドを設ける。

第96次調査（図面4）

所在地 国分寺市西元町三丁目1915-21

調査面積 76.215 m²

調査期間 1979. 6. 26 ~ 7. 10（実働10日間）

検出遺構 溝1条（SD104）

遺物箱数 1

調査担当 福田信夫

SD104 溝（図面18 図版12）

EC・ED-93～95区に所在し、僧寺中心点の南244.3～247.1m、東281.9～287.1mに位置する。上面幅0.94～1.39m、底面幅1.12m、確認面からの深度25cmを測る。検出した長さは5.84mで東西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対して約60°西偏する。

第97次調査（図面4）

所在地 国分寺市西元町三丁目2192-2, 2191-9

調査面積 133 m²

調査期間 1979. 7. 10 ~ 8. 10（実働23日間）

検出遺構 竪穴住居1軒（SI211）、溝1条（SD49）、土坑6基（SK416～421）、小穴53基

遺物箱数 4

調査担当 福田信夫

SI211 竪穴住居 (図面 19 図版 12)

FK-47・48 区に所在し、僧寺中心点の南 328.1～329.3m、西 139.3～142.4m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は東西 3.13m、南北 1.22m 以上の長方形で、確認面からの深度は 47cm である。主軸は僧寺中軸線に対して約 2° 西偏する。カマドは北壁に存在すると思われる。

SD49 溝 (図面 19 図版 12・13)

FN・FO-44～49 区に所在し、僧寺中心点の南 336.7～340.3m、西 130.7～144.7m に位置する。上面幅 1.44～2.12m、底面幅 27cm、確認面からの深度 1.2m を測る。検出した長さは 13.98m で東西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対して約 83° 東偏する。覆土には 2 時期の重複が認められる。

SK416 土坑 (図面 19 図版 20)

FH・FI-44・45 区に所在し、僧寺中心点の南 319.9～321.2m、西 131.5～132.9m に位置する。平面形は隅丸方形で、規模は長軸 1.40m、短軸 1.29m、確認面からの深度は 25cm である。

SK417 土坑 (図面 20)

FH-45・46 区に所在し、僧寺中心点の南 319.5～319.9m、西 134.7～137.0m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 2.19m、短軸 1.85m、確認面からの深度は 83cm である。

SK418 土坑 (図面 20)

FH-47 区に所在し、僧寺中心点の南 319.5～319.8m、西 138.2～139.7m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は円形で、規模は東西 1.2m 以上、南北 24cm 以上、確認面からの深度は 31cm である。

SK419 土坑 (図面 20 図版 13)

FK-46・47 区に所在し、僧寺中心点の南 328.3～329.3m、西 137.6～139.1m に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 1.55m、短軸 1.0m、確認面からの深度は 24cm である。

SK420 土坑 (図面 20 図版 13)

FK・FL-47 区に所在し、僧寺中心点の南 329.4～330.8m、西 138.6～140.2m に位置する。平面形は隅丸方形で、規模は長軸 1.60m、短軸 1.48m、確認面からの深度は 8cm である。

SK421 土坑 (図面 20 図版 13)

FK-47 区に所在し、僧寺中心点の南 328.1～328.9m、西 139.6～140.8 に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 0.80m、短軸 0.72m、確認面からの深度は 30cm である。

第 98 次調査（図面 4）

所在地 国分寺市西元町三丁目 17-11

調査面積 35.5 m²

調査期間 1979. 8. 1～8. 9（実働 7 日間）

検出遺構 溝 1 条（SD108）、土坑 1 基、小穴 2 基

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

SD108 溝（図面 18 図版 14）

D0-103～106 区に所在し、僧寺中心点の南 220.7～221.7m、東 309.8～318.4m に位置する。上面幅 0.58～1.01m、底面幅 0.38～0.53m、確認面からの深度 27cm を測る。検出した長さは 8.57m で東西は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対して約 88° 西偏する。

第 102 次調査（図面 5）

所在地 国分寺市西元町二丁目 2546-23

調査面積 48 m²

調査期間 1980. 2. 4～3. 5（実働 20 日間）

検出遺構 竪穴住居 1 軒（SI225）

遺物箱数 2

調査担当 上村昌男

SI225 竪穴住居（図面 21 図版 14）

DA-46・47 区に所在し、僧寺中心点の北 180.0～182.9m、西 136.7～140.6m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は東西 3.08m、南北 2.95m の長方形で、確認面からの深度は 36cm である。主軸は僧寺中軸線に対して約 108° 東偏する。東壁のほぼ中央にカマドを設ける。

第 105 次調査（図面 5 図版 15）

所在地 国分寺市西元町三丁目 2056-11

調査面積 27 m²

調査期間 1980. 2. 20～3. 5（実働 9 日間）

検出遺構 小穴 2 基

遺物箱数 1

調査担当 福田信夫

第 106 次調査（図面 6）

所在地 国分寺市西元町三丁目 1578-1

調査面積 95 m²

調査期間 1980. 3. 10 ～ 4. 10（実働 23 日間）

検出遺構 竪穴住居 1 軒（SI226）、土坑 3 基（SK515・530・531）

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

SI226 竪穴住居（図面 23 図版 15・16）

AM・AN-39・40 区に所在し、僧寺中心点の南 33.2 ～ 37.3m、東 117.3 ～ 120.8m に位置する。西側は調査区外へ続く。平面形は東西 2.89m 以上、南北 4.15m 以上の長方形で、確認面からの深度は 17cm である。主軸は僧寺中軸線に対して約 100° 東偏する。東壁の南寄りにカマドを設ける。

SK515 土坑（図面 22）

AM-40 区に所在し、僧寺中心点の南 34.4 ～ 35.2m、東 121.4 ～ 122.5m に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は長軸 1.08m、短軸 0.85m、確認面からの深度は 14cm である。

SK530 土坑（図面 22 図版 17）

AK-40 区に所在し、僧寺中心点の南 28.8 ～ 29.4m、東 121.6 ～ 122.7m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形で、規模は東西 1.09m、南北 0.88m 以上、確認面からの深度は 20cm である。

SK531 土坑（図面 22 図版 17）

AL・AM-40 区に所在し、僧寺中心点の南 32.8 ～ 33.3m、東 121.9 ～ 122.9m に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 1.15m、短軸 0.93m、確認面からの深度は 10cm である。

第 108 次調査（図面 5）

所在地 国分寺市泉町二丁目 6-7

調査面積 928.61 m²

調査期間 1980. 3. 10 ～ 5. 14（実働 41 日間）

検出遺構 溝 1 条（SD124）、土坑 2 基（SK536・537）

遺物箱数 0

調査担当 西脇敏郎・平田貴正

SD124 溝（図面 18 図版 17）

IE・IF-46・47 区に所在し、僧寺中心点の北 492.5 ～ 495.4m、西 136.0 ～ 138.2m に位置する。上面幅 1.20 ～ 1.30m、底面幅 0.20 ～ 0.60m、確認面からの深度 48cm を測る。検出した長さは 2.90m で、L 字状に屈折し、調査区外西と南へ続く。

SK536 土坑 (図面 18 図版 17)

IG-35・36 区に所在し、僧寺中心点の北 498.0 ～ 499.0m、西 103.6 ～ 105.5m に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は長軸 1.84m、短軸 1.10m、確認面からの深度は 8cm である。

SK537 土坑 (図面 18 図版 17)

IH-35 区に所在し、僧寺中心点の北 501.0 ～ 502.3m、西 102.0 ～ 104.0m に位置する。平面形は不整楕円形で、規模は長軸 1.70m、短軸 1.10m、確認面からの深度は 13cm である。

第 115 次調査 (図面 6 図版 17)

所在地 国分寺市西元町三丁目 2046-5

調査面積 129.48 m²

調査期間 1980. 6. 10 ～ 7. 21 (実働 22 日間)

検出遺構 なし

遺物箱数 1

調査担当 西脇敏郎・平田貴正

第 118 次調査 (図面 6 図版 18)

所在地 国分寺市西元町三丁目 1927-4

調査面積 96.42 m²

調査期間 1980. 7. 25 ～ 8. 13 (実働 13 日間)

検出遺構 掘立柱建物 1 棟 (SB63)、土坑 2 基 (SK556・557)、小穴 2 基

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

SB63 掘立柱建物 (図面 24 図版 18 ～ 20)

DF ～ DH-93 ～ 95 区に所在し、僧寺中心点の南 193.7 ～ 199.0m、東 281.1 ～ 287.5m に位置する。桁行 1 間以上×梁行 1 間以上の掘立柱建物である。柱間から東西棟建物と考えられる。梁行方向は僧寺中軸線に対して約 4° 西偏する。柱穴は直径 1.13 ～ 1.38m の隅丸長方形を呈し、確認面からの深度は 70 ～ 95cm を測る。桁行の柱間寸法は 4.8m、梁行の柱間寸法は 3.9m である。桁行 4.8m は国分寺市内検出の掘立柱建物柱間としては最長であるが、現状では一棟の建物としておく。

SK556 土坑 (図面 24)

DF・DG-93 区に所在し、僧寺中心点の南 193.8 ～ 195.8m、東 279.8 ～ 280.8m に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 2.07m、短軸 0.85m、確認面からの深度は 23cm である。

SK557 土坑 (図面 24)

DF・DG-93 区に所在し、僧寺中心点の南 194.0 ～ 196.3m、東 280.7 ～ 282.0m に位置する。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸 2.40m 以上、短軸 1.19m、確認面からの深度は 31cm である。SB63 掘立柱建物柱穴 1-2 より新しい。

第 119 次調査 (図面 6 図版 20)

所在地 国分寺市西元町三丁目 21-12

調査面積 5.43 m²

調査期間 1980. 8. 20 ～ 8. 21 (実働 2 日間)

検出遺構 なし

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

第 120 次調査 (図面 6 図版 21)

所在地 国分寺市西元町二丁目 15-5

調査面積 46.03 m²

調査期間 1980. 10. 3 ～ 11. 5 (実働 17 日間)

検出遺構 掘立柱建物 1 棟 (SB65)、土坑 2 基 (SK563・565)、小穴 1 基

遺物箱数 1

調査担当 上村昌男・渡辺克彦

SB65 掘立柱建物 (図面 25 図版 21・22)

EG～EI-54～56 区に所在し、僧寺中心点の北 258.8 ～ 265.1m、西 159.1 ～ 165.1m に位置する。桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。柱間から南北棟建物と考えられる。桁行方向は僧寺中軸線に対して約 1° 西偏する。柱穴は直径 0.67 ～ 0.85m の円形または楕円形を呈し、確認面からの深度は 52cm ～ 86cm を測る。柱は抜き取られていない。桁行総長は 5.55m で、柱間寸法は南から 2.55m + 3.0m である。梁行総長は 5.1m で、柱間寸法は 2.55m の等間である。

SK565 土坑 (図面 25)

EG-54 区に所在し、僧寺中心点の北 258.5 ～ 259.5m、西 159.6 ～ 160.7m に位置する。南側は調査区外へ続く。平面形は楕円形で、規模は長軸 1.1m 以上、短軸 0.95m、確認面からの深

度は11cmである。SB65掘立柱建物柱穴3-1より古い。

第121次調査（図面7 図版23）

所在地 国分寺市西元町二丁目15-42

調査面積 38.1 m²

調査期間 1980. 11. 13～12. 8（実働16日間）

検出遺構 溝1条、土坑1基、小穴24基

遺物箱数 1

調査担当 福田信夫

第124次調査（図面7 図版23）

所在地 国分寺市西元町三丁目1578-18

調査面積 64.77 m²

調査期間 1980. 12. 8～12. 26（実働14日間）

検出遺構 溝1条（SD128）、土坑4基（SK579・580・他2基）、小穴44基（うち縄文時代4基）

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵

SD128 溝（図面26）

AH～AJ-39・40区に所在し、僧寺中心点の南18.0～24.7m、東119.9～121.2mに位置する。上面幅0.62～0.88m、底面幅0.23cm、確認面からの深度14cmを測る。検出した長さは6.68mで南北は調査区外へ続く。主軸は僧寺中軸線に対して約3°東偏する。

SK579 土坑（図面26 図版23）

AH-41区に所在し、僧寺中心点の南18.4～20.0m、東122.9～124.2mに位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸長方形で、規模は長軸1.63m以上、短軸1.18m、確認面からの深度は21cmである。

SK580 土坑（図面26 図版23）

AH・AI-42区に所在し、僧寺中心点の南18.7～21.3 m、東126.1～127.6mに位置する。平面形は長方形で、規模は長軸1.71m、短軸1.41m、確認面からの深度は12cmである。

第125次調査（図面7 図版23）

所在地 国分寺市西元町三丁目18-20

調査面積 17.26 m²

調査の概要

調査期間 1981. 1. 13 ~ 1. 20 (実働 6 日間)

検出遺構 土坑 1 基 (SK582)、小穴 8 基

遺物箱数 1

調査担当 有吉重蔵・平田貴正

SK582 土坑 (図面 26 図版 23)

DD-102 区に所在し、僧寺中心点の南 187.8 ~ 188.6m、東 307.8 ~ 308.8m に位置する。北側は調査区外へ続く。平面形は隅丸方形で、規模は東西 1.03m、南北 0.85m 以上、確認面からの深度は 34cm である。

第4章 小結

1. 検出遺構について

今回報告の調査で検出された遺構は、確認のみにとどめたものを含めて掘立柱建物2棟・竪穴住居15軒・溝11条・土坑34基・特殊遺構1基・小穴170基である。本節ではこれらのうち、武蔵国分寺やその周辺に広がる集落の様相を考える上で重要な知見が得られた3件の遺構について述べる。

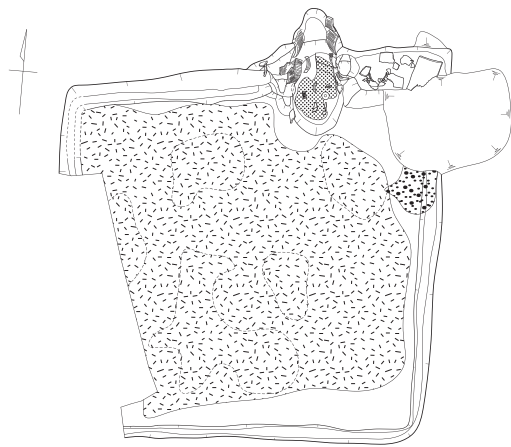
SI197 竪穴住居 第88次調査で検出されたSI197竪穴住居は、北壁と東壁にカマドを構築しており、調査所見によると東カマドが新しい。東カマドの左側には、6点の女瓦が置かれていた。女瓦が出土したのは竪穴外であるが、いわゆる「竪穴外居住空間」と把握される位置にあたり、竪穴住居機能時には柵状施設としての役割を果たしていたと考えられる（桐生2005）。

武蔵国分寺周辺において柵状施設に瓦を置く事例は、市域では武蔵国分寺跡SI508竪穴住居（上敷領ほか1999）・SI808竪穴住居（小野本ほか2010）があり、府中市域の武蔵台遺跡（河内ほか1995）、武蔵台東遺跡（坂東ほか1999）、武蔵国分寺南西地区（坂誥ほか1999）にも認められる（第8図）。武蔵台遺跡69号住居は9世紀前半、武蔵国分寺跡SI808竪穴住居は10世紀代に位置付けられ、特定の時期に集中する現象ではないようである。SI808竪穴住居では柵状施設とカマド内の瓦に接合関係が認められることから、柵状施設に置かれた瓦はカマド構築時に芯材として使用した瓦の残片であり、カマドの修復などに備えて保管されたものと考えられる。

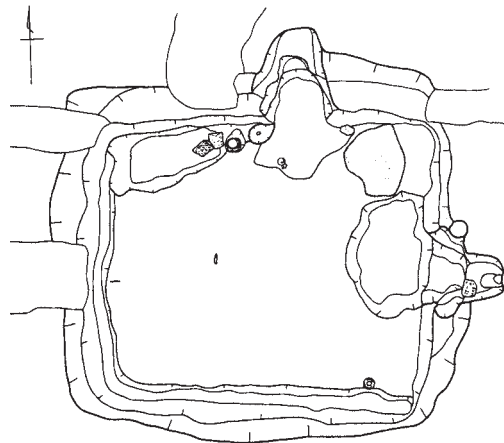
SI197竪穴住居においても、KD08は柵状施設とカマド内に接合関係が認められる。KD08の接合関係は、明らかに完形の瓦を中央から4分割後、aをカマド内で使用し、b・cを柵状施設に保管したことを示している。つまり、竪穴住居内に存在しないdは瓦Aの分割後に住居外へ持ち出されたことになる。

残るKD06・09・13・14はKD08のa～dとほぼ同大であり、特にKD06を除く3点は四隅の一角を有する点も類似しており、意図的にこの大きさの瓦片を集めたことを推測させる。これらはSI197竪穴住居出土遺物の中に接合破片や同一個体と考えられる破片が存在しないため、カマドの補修用に分割された状態で入手し、未使用に終わった瓦片と理解される。1/4サイズの女瓦はカマドの煙道などに使用される例が多く、使用にも保管にも手頃な大きさであったと思われる。

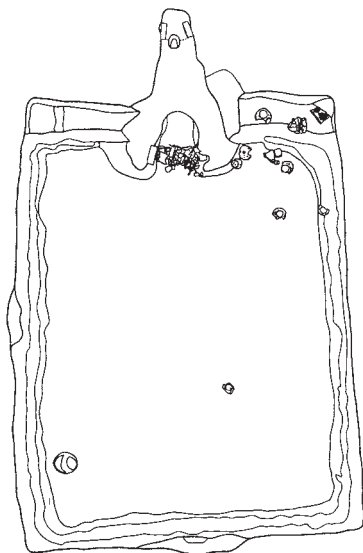
以上のように、SI197竪穴住居はカマド構築材としての瓦の入手から加工・使用・保管の過



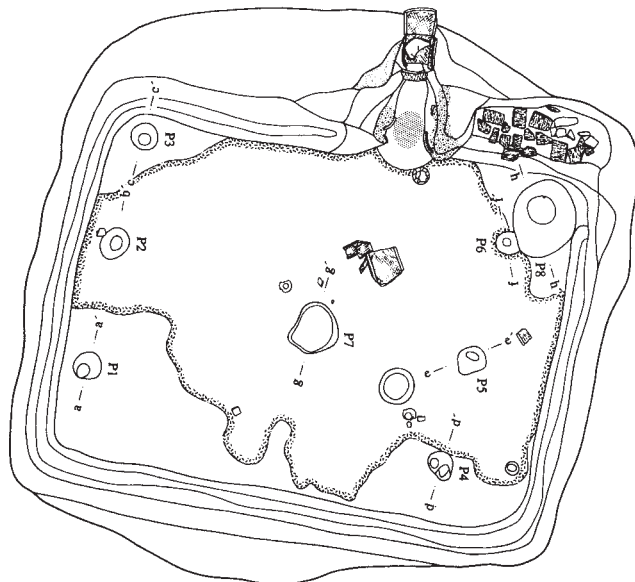
武蔵国分寺跡S1808



武蔵国分寺跡S1508



武蔵台遺跡69号住居



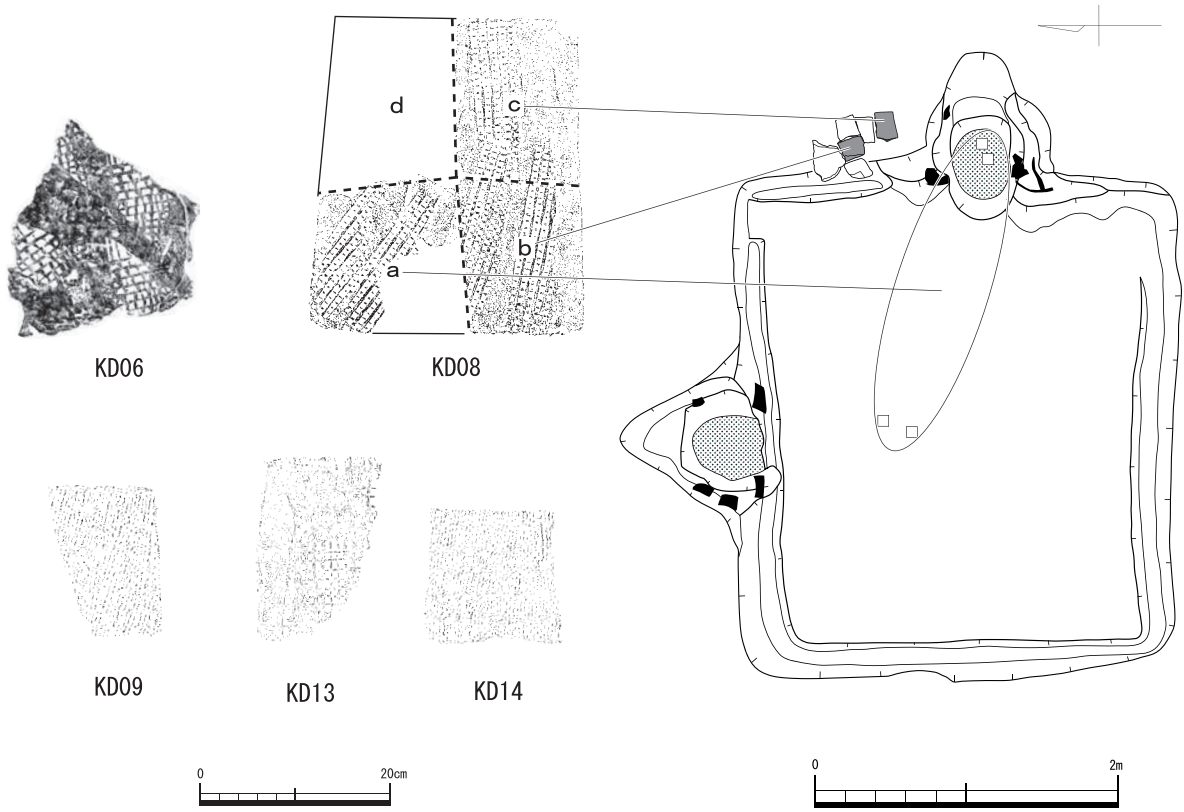
武蔵国分寺跡南西地区S1-3



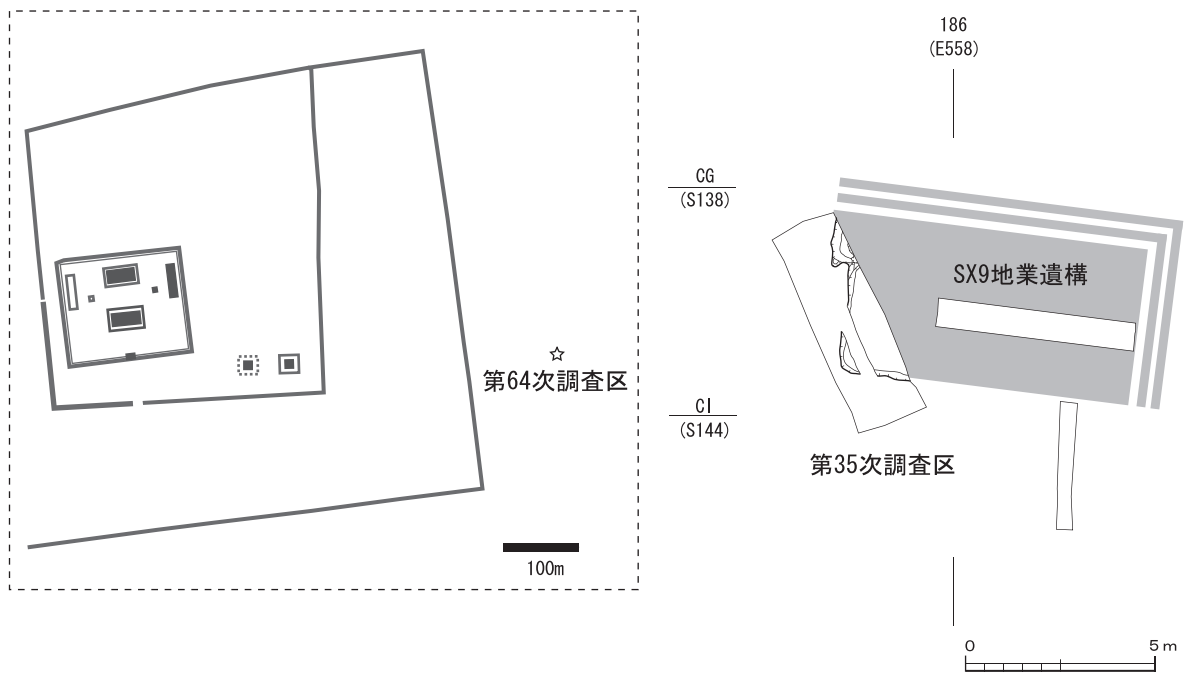
第8図 棚状施設に瓦を置く竪穴住居

程を復元できる重要な事例と言える。

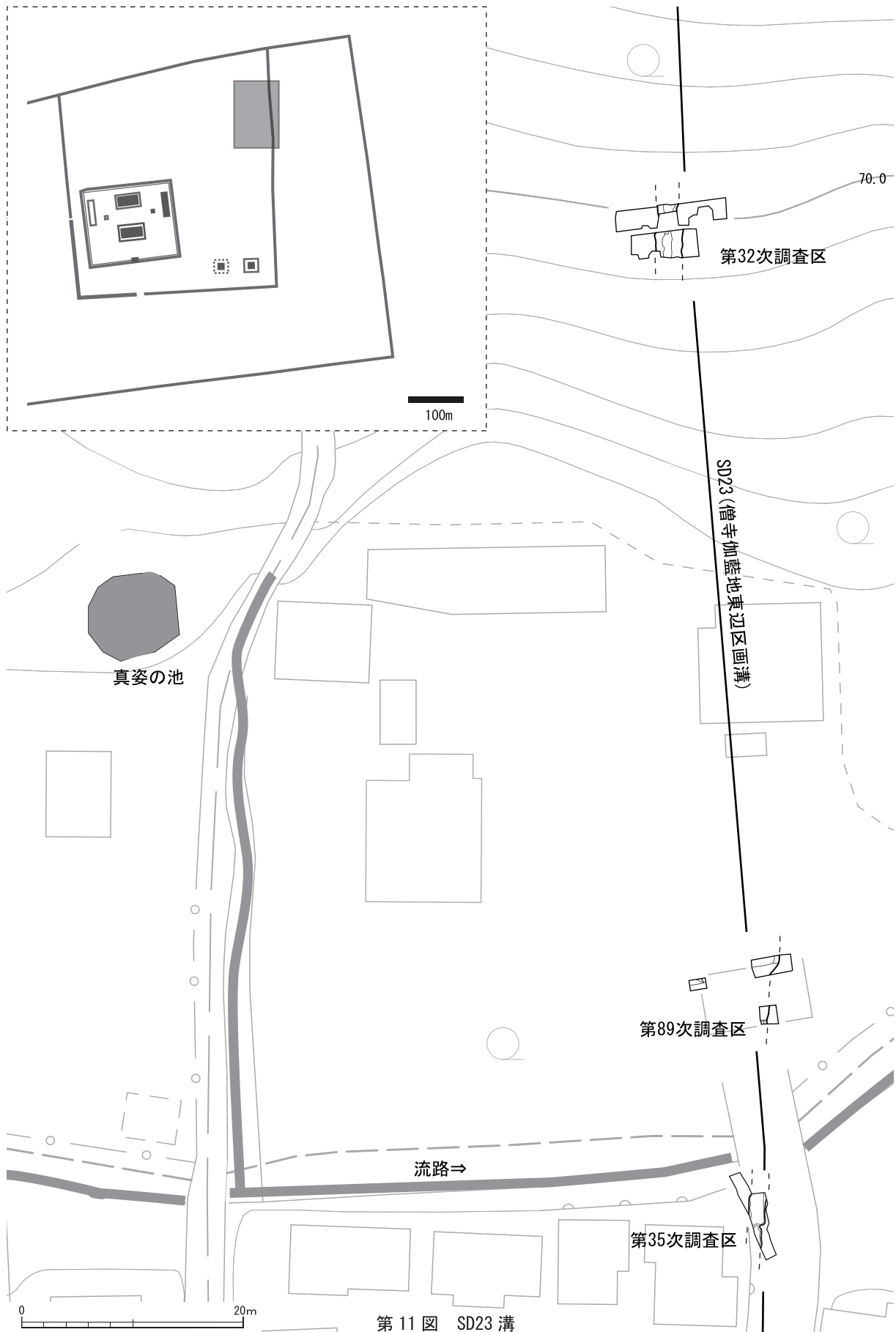
SX9 地業遺構 第64次調査で検出されたSX9地業遺構は、調査区内で遺構の範囲を把握することができなかった。しかし、隣接する第35次調査区において同一遺構の一部が検出されており、これらの成果を総合すると、東西7.7m以上、南北4.0m以上を測り、南北方向が僧寺主軸に対して約7°東偏する遺構であることが判明する(第10図)。SX9地業遺構からは、第35次調査区を合わせても遺物が出土しておらず、構築時期は不明である。伽藍の中枢部からは離れるものの、かなり大規模な地業であり、遺構の性質の解明は今後の課題としたい。



第 9 図 SI197 竖穴住居と東カマド脇に置かれた瓦



第 10 図 SX9 地業遺構



第11図 SD23 溝

SD23 溝 第 89 次調査で検出された SD23 溝は僧寺伽藍地東辺区画溝であり、周辺では当該調査区の北約 70m（第 32 次調査区、有吉ほか 1984）と南約 20m（第 35 次調査区、上村 1988）で確認されている。第 32 次調査区は国分寺崖線の中腹に位置し、第 35 次調査区と第 89 次調査区の間には国分寺崖線から湧出し野川の源流の一つとなる元町用水が流れている（第 11 図）。第 89 次調査区での遺構確認面は第 35 次調査区に比べて約 3m 低い。また、SD23 溝の覆土には、他地点の区画溝に通有な溝底部のローム土の埋め込みがみられず、粘質土や酸化鉄を含む土が堆積しており、かつ溝幅が広く底面からの立ち上がりは緩やかである。こうした点は、第 89 次調査区周辺が湧水によって低湿地状を呈し、区画溝が絶えず湧水の影響を受けていたことを示しており、悪条件下においても区画溝を通していたことが確認できた。

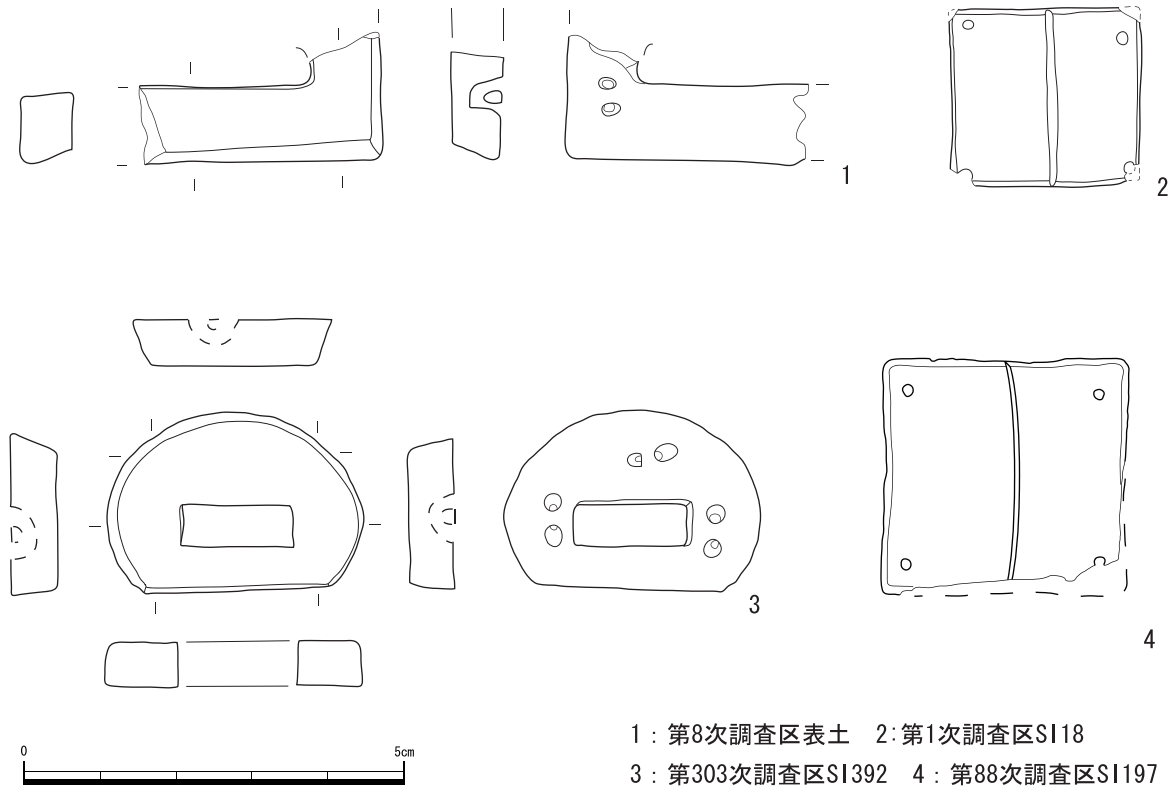
2. 出土遺物について

今回報告の調査においては、遺物コンテナ 74 箱分の遺物が出土した。第 88 次調査区の遺物が最多の 13 箱分あり、その多くは上述の SI197 堅穴住居からの出土である。出土遺物の詳細は遺物観察表に記述しているので、本節では特筆すべき遺物として鍔帯裏金具・緑釉陶器・灰釉陶器および文字を記した資料を取り上げる。

鍔帯裏金具 第 88 次調査で SI197 堅穴住居から出土した鍔帯裏金具は、第 1 次調査区（有吉・西脇 1981）に次いで市域では 2 例目となる。いずれも巡方の裏金具で、第 1 次調査区出土例が縦 2.4cm × 横 2.5cm なのに対し本例は縦 3.1cm × 横 3.2cm とやや大ぶりである。市域では銅鍔の出土例はなく、石製の巡方（第 8 次調査区）と丸鞆（第 303 次調査区、小野本ほか 2009）が各 1 点あるのみである（第 12 図）。

以上 4 点の革帯関連遺物はそれぞれ単独で存在し、第 88 次調査出土例を除く 3 点は遺構に直接伴わないため、革帯本体から分離した後、これらがどのように扱われていたかは定かでない。一方、第 88 次調査出土例は、上述の SI197 堅穴住居の棚状施設から出土している。すなわち、鍔帯裏金具は住居内に保管されていたのであり、本来の役割を終えた鍔帯裏金具に何らかの価値が認められていたことを示唆する。鍔帯裏金具が住居内に保管される要因としては、銅銭のように祭祀具的に扱われた（深澤 2003）、あるいは鑄潰して再利用するためなどの可能性が考え得るが、いずれにしても興味深い事例であり、今後も検討を要する。

緑釉陶器・灰釉陶器 緑釉陶器の皿が第 10・55 次調査区から各 1 点（図面 27-2・図面 30-2）、灰釉陶器の高台付壺が第 46 次調査区から 1 点（図面 29-1）・第 88 次調査区から 2 点（図面 32-4・5）・第 97 次調査区から 1 点（図面 43-3）・第 106 次調査区から 1 点（図面 43-9）、壺が第 88 次調査区から 2 点（図面 32-6・図面 40-8）、手付短頸瓶が第 88 次調査区から 1 点（図面 40-9）出土している。第 97 次調査区出土の壺は、高台の形状や丸みを帯びる胴部下半、三



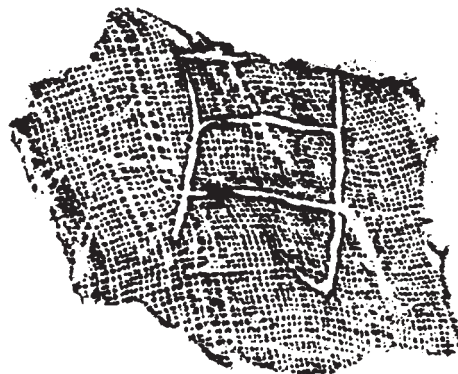
1：第8次調査区表土 2：第1次調査区SI18
3：第303次調査区SI392 4：第88次調査区SI197

第12図 市内出土の革帯関連遺物

又トチンの使用などから K-14 窯式に位置付けられ、これ以外はおおむね K-90 窯式と考えられる。第88次調査区の SI197 竪穴住居のカマドから出土した灰釉陶器高台付碗はほぼ完形であり、出土位置も加味すると遺構に伴うものと判断できる。SI197 竪穴住居から出土した須恵器坏は南多摩窯跡群の G25 窯式に位置付けられ、灰釉陶器と在地産須恵器の良好な共伴事例である。第88次調査区の SI198 竪穴住居出土の手付短頸瓶は、これとほぼ同形・同大のものが第68次調査区 SI194 竪穴住居（渡辺ほか 2003）から出土している。



92-KC01



第45次調査区 SD34



第13図 「月」とへら書された瓦

文字資料 文字や記号を記した資料は図版 36～38 に集成した。10-PL01（図版 36-1）の墨書「山」は、山田郷を表すと理解される。山または山田と墨書された土器は尼寺伽藍地とその周辺に集中的に分布することが知られ、入間郡山田郷が国分寺造営に

関与したことを示す可能性が指摘されている（福田 2001）。

須恵器の底部外面にヘラ書を行う 88-PK21（図版 36-5）はヘラの動きから「水」と考えられる。胎土の特徴から東金子窯産の可能性が高いが、類例はない（根本靖氏のご教示による）。

瓦では、92-KC01（図版 38-4）にヘラ書された「月」は類例が少なく、これまでの出土例は僧寺講堂（日本考古学協会 1985）・尼寺周辺の第 45 次調査区（有吉ほか 1989）・出土地不明（国分寺市教育委員会 1987）の 3 点を数えるのみである。本例を含め、出土地不明を除く 3 点が男瓦の凹面に記入されている。本例と第 45 次調査区 SD34 溝出土例は字形がよく類似している（第 13 図）。

第5章 総括

昭和50年度～55年度にかけて実施された武蔵国分寺跡の寺院地区内及びその周辺地域の緊急発掘の結果によって得られた所見中、とくに注視すべき2点について概括しておきたい。

(1) 僧寺の伽藍地東辺区画溝の検出

第89次調査により、僧寺の東辺を画する溝が検出された。南北方向に主軸をもつこの溝は、上面の幅8.4m以上、底面の幅7.9m以上、深さは確認面から約1.6mであった。発掘によって追究された南北長は約6mであった。この溝は、検出地点、溝の形状、走行主軸などの検討により、僧寺伽藍の東辺を画するものであることが明らかになった。

検出地は、僧寺伽藍の東辺ラインと想定されていた区域であるが、付近一帯が低湿地状の土地であったため、東辺溝の存在について議論されてきた。発掘調査の結果、かねてから想定されていた東辺ラインとほぼ重なる地で南北に約6mの幅員をもつ大溝の存在が明らかにされたのである。

かかる溝の発掘により、低湿地にあたる地域においても伽藍地を区画する溝が掘削されていたことが知られ、僧寺の企画性が実行に移されていたことが明確に把握された。

(2) 僧寺・寺院地東辺の外側より竪穴住居発掘

僧寺寺院地の東辺外側地域の第88次調査により竪穴住居跡1基と土坑2基などが検出された。竪穴住居(SI197)は、東西3.4m、南北2.9mの長方形、確認面からの床面深度は約44cmであり、東西壁の南北方向は僧寺中軸線から西偏1度内外を示している。カマドは当初北壁に敷設されていたが、後に東壁に移築された状態が把握された。注目されるのは東カマドの左部分に4分の1大の女瓦6点が検出され、その下から銚帯裏金具1点が発掘されたことである。

竪穴住居に付設されたカマドのなかには、瓦塼を粘土の芯として用いられたものがあり、かつて「瓦心粘土製竈を有する竪穴住居跡」(『古代学研究』37、1964)において、若干の私見を披歴したことがあったので、私なりに注目された。

武蔵国分寺跡においては、僧寺北辺の台地上から発掘された正形状の竪穴住居跡6基の北壁付設カマド付近から鏡・宇・男・女瓦が見出された例が知られている。それらは創建時の完形鏡瓦を含む瓦であった。このたびの報告例とは出土状態が異なり、また、寺院地を区画する北辺溝の内側に存在する竪穴住居跡からの出土であった。それらは粘土カマドの心として用いられたものであり、構築材であった。

武蔵国分寺跡に限らずこのような例は東日本に多く見受けられるが、それは瓦葺建築遺構の至近地からの検出のほか、瓦窯跡付近からの発掘例もある。寺院跡の至近地から見出される場

総括

合、寺院と竪穴住居との時間的同時期、非同時の検討が必要であり、あわせて両者の空間的あり方も考慮することが求められよう。至近地に同時存在したことが明らかにされれば「寺奴」との関係が検討の一として浮上してくるし、時間差の存在が認められたときには廃瓦利用が提起されるであろう。

今後とも武蔵国分寺跡における該例の存在については、武蔵国分寺の法灯の展開と密接に関連するものとして検討の対象とされるべき事例として捉えられるのである。

(調査団長 坂詰秀一)

参考文献

- 有吉重蔵・上敷領久・滝島和子 1989 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 XIV』 国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 有吉重蔵・上村昌男・高林和恵 1984 『武蔵国分寺遺跡調査会年報 II』 武蔵国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 有吉重蔵・西脇俊郎 1981 『武蔵国分寺遺跡発掘調査概報 V』 武蔵国分寺遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 小野本敦・上敷領久・富田健司 2010 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 36』 国分寺市遺跡調査会
- 小野本敦・立川明子 2009 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 34』 国分寺市遺跡調査会・国分寺市教育委員会
- 上敷領久 1994 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 XX』 国分寺市遺跡調査会
- 上敷領久・吉田美弥子 1999 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 XXIII』 国分寺市遺跡調査会
- 上村昌男 1988 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 XII』 国分寺市遺跡調査会
- 河内公夫・田中祥介 1995 『武蔵台遺跡 II—資料編 (3)—』 都立府中病院内遺跡調査会
- 桐生直彦 2005 『竈をもつ堅穴建物の研究』 六一書房
- 国分寺市教育委員会 1987 『武蔵国分寺跡調査報告—昭和 39～44 年度—』
- 坂詰秀一 1999 『武蔵国分寺南西地区発掘調査報告』 武蔵国分寺関連 (府中都市計画道路 3・2・2 の 2 号線) 遺跡調査会
- 坂東雅樹・坂詰秀一・早川 泉・西野善勝・佐瀬拓野 1999 『武蔵台東遺跡 I』 都宮川越道住宅遺跡調査会
- 佐原 真 1972 「平瓦桶巻き作り」『考古学雑誌』 58 - 2
- 日本考古学協会 1985 『武蔵国分寺跡遺物整理報告書—昭和 31・33 年度—』
- 深沢靖幸 2003 「古代東国の堅穴建物と銭貨」『府中郷土の森紀要』 13
- 福田信夫 2001 「僧尼寺伽藍内外の様相」『多摩のあゆみ』 103 財団法人たましん地域文化財団
- 渡辺克彦・有吉重蔵・上敷領久 2003 『武蔵国分寺跡発掘調査概報 27』 国分寺市遺跡調査会

国分寺市遺跡調査会組織

平成23年3月現在

——役員および監事——

会 長	坂誥秀一	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	関口雄基臣	国分寺市文化財保護審議会副委員長
理 事	星野信夫	国分寺市長
理 事	内田 修	国分寺市教育委員会委員長
理 事	松井敏夫	国分寺市教育委員会教育長
理 事	星野亮雅	元国分寺市社会教育委員
理 事	北原 進	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	坂本克治	国分寺市文化財保護審議会委員
理 事	遠藤慈郎	国分寺市文化財保護審議会委員
専務理事	小菅政治	東京都教育庁地域教育支援部管理課長
監 事	本橋信行	国分寺市教育委員会教育次長兼教育部長
監 事	榎戸 潔	元国分寺市社会教育委員
監 事	岡崎完樹	東京都教育庁地域教育支援部管理課埋蔵文化財係学芸員

——武蔵国分寺跡調査・研究指導委員会——

委 員 長	坂誥秀一	(考古学)	立正大学名誉教授
委 員	藤井恵介	(建築史)	東京大学大学院工学系研究科教授
委 員	佐藤 信	(古代史)	東京大学大学院人文社会系研究科教授
委 員	酒井清治	(考古学)	駒澤大学文学部教授
委 員	松井敏也	(保存科学)	筑波大学人間総合科学研究科講師

——事務局——

事務局 長	福田信夫	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課長
事務局 員	勝山俊也	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係長
事務局 員	井田美紀	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託
事務局 員	佐々木徳明	国分寺市遺跡調査会

——調査団——

団 長	坂誥秀一	立正大学名誉教授
主任調査員	依田亮一	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係長
調 査 員	上敷領久	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係主任
調 査 員	小野本敦	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係
調 査 員	中道 誠	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託
調 査 員	立川明子	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課史跡係嘱託
調 査 員	増井有真	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託
調 査 員	坂上恵梨	国分寺市教育委員会教育部ふるさと文化財課文化財保護係嘱託

報告書抄録

ふりがな	むさしこくぶんじあとはくつちょうさがいほう37							
書名	武蔵国分寺跡発掘調査概報37							
副書名	昭和50～55年度 僧寺寺院地内等の調査							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	国分寺市遺跡調査団（団長 坂詰秀一） 小野本敦 立川明子							
編集機関	国分寺市遺跡調査会							
所在地	〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10 国分寺市教育委員会内 TEL042-300-0073							
発行年月日	2011年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	。 / ' "	。 / ' "			
むさしこくぶんじあ と 武蔵国分寺跡	とうきょうと 東京都 こくぶんじし 国分寺市 にしもとまち 西元町 ひがしもとまち 東元町	13-214	10・19	35° 41' 6" ～ 35° 41' 48"	139° 28' 1" ～ 139° 29' 3"	昭和50年 5月23日 ～ 昭和56年 1月20日	2516㎡	個人住宅建設等 に伴う緊急調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
武蔵国分寺跡	寺院跡 集落跡 道路跡	奈良・ 平安時代	掘立柱建物 竪穴住居 土坑 地業遺構		土師器・須恵器 土師質土器・灰釉陶器 緑釉陶器 瓦 石製品 金銅製品		第88次調査区の SI197竪穴住居 から金銅製の銚 帯裏金具が出土 した。	

出土遺物一覽表

10次調査 土器一覽														
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考								
27-1 24-1 PL01	土師質土器 坏	SI82 覆土	((11.2)) 4.2 ((5.6))	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。	ロクロ調整。	遺存度 1/5。橙色。やや硬質。砂粒微量混入。体部外面墨書「山」あり。文字部分図版 36-1。								
27-2 24-2 PP01	緑釉陶器 皿	SI82 覆土	((13.3)) 2.6 7.3	底部から体部上半にかけて内湾気味に立ち上がる。口縁部外反。高台部ハの字状に広がり、断面角形。	ロクロ調整。底部糸切り後、高台部貼り付け。	遺存度 2/3。暗灰黄色。硬質。釉調深黄緑色。全面ハケ施釉。								
11次調査 鏡瓦一覽														
図面 図版 遺物番号	出土 位置	直径	内区				外区					全長	備考	
			中房径 形態	蓮子 数	弁区径 弁幅	弁数 形態	幅	内縁		外縁				
								幅	文様	幅	高			文様
27-3 24-3 KA01	遺構外	(8.7)	(3.1)	(2)	(7.8) 3.7	(3) SC	(0.9)	-	-	-	0.4	-	(4.5)	製作技法A。灰色。硬質。砂粒少量混入。瓦当裏面ナデ調整。
11次調査 女瓦一覽														
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚 さ	成・整形の特徴						備考				
				凹面			凸面		端面					
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴					
27-4 24-4 KD01	遺構外	- (5.8) (19.3)	2.7	粘土紐	24×17	へら書「久」あり。	斜格子	-	-	技法II 1-A1。黄白色～暗褐色。やや軟質。胎土緻密。文字部分図版 37-3。				
21次調査 土器一覽														
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考								
27-5 - PH01	土師器 甗	SI110 覆土	((20.4)) (4.2) -	頸部緩やかなコの字状に外反。	頸部横ナデ後、指オサエ。	遺存度口縁部 1/8。暗橙色。やや硬質。雲母やや多量混入。								
27-6 24-5 PK01	須恵器A 坏	SI110 覆土	- (2.1) 5.5	-	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度底部残存。橙色。やや硬質。雲母少量混入。								

26次調査 土器一覽						
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
28-3 25-2 PK01	須恵器 A 坏	SI114 覆土	((11.2)) 3.8 ((5.6))	底部から口縁部にかけてやや内湾気味に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/4。黒褐色～灰色。硬質。砂粒少量混入。
28-4 25-3 PK02	須恵器 A 坏	SI114 覆土	((10.8)) 2.7 ((6.0))	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/3。灰白色。硬質。砂粒微量混入。
28-5 25-4 PK03	須恵器 A 坏	SI114 覆土	((9.4)) 3.1 ((5.0))	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/3。淡橙白色。硬質。砂粒やや多量混入。
28-6 25-5 PK04	須恵器 A 坏	SI114 覆土	((11.2)) 3.1 ((6.0))	底部から口縁部にかけてやや内湾気味に立ち上がり、口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/5。淡橙色。やや硬質。小石・砂粒少量混入。
28-7 - PL01	土師質土器 高台付埴	SI114 覆土	- (2.7) ((5.8))	高台直線的に垂下、断面逆三角形。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。高台貼り付け。	遺存度底部残存。橙色。やや軟質。雲母少量混入。高台高 1.2。
28-8 25-6 PL02	土師質土器 高台付埴	SI114 覆土	- (3.9) 6.5	底部から直線的に立ち上がる。高台やや外反し、断面角形。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。高台貼り付け。	遺存度体部下端～底部残存。暗茶褐色。やや硬質。砂粒少量混入。高台高 0.6。

26次調査 宇瓦一覽														
図面 図版 遺物番号	出土 位置	上弦弧幅 下弦弧幅 弧深	厚さ	内区		外区				脇区		文様 深さ	全長	備考
				厚 さ	文 様	上		下		幅	文 様			
						厚 さ	文 様	厚 さ	文 様					
28-9 25-7 KB01	SI114 覆土	(6.6) (13.1) (2.0)	(5.5)	3.2	KK	0.7	b	(1.6)	b	1.3	b	0.1	(10.5)	製作技法 D。頸の形態 B1-C。灰褐色～暗灰褐色。硬質。小石・砂粒やや多量混入。

26次調査 女瓦一覽														
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚 さ	成・整形の特徴							備考			
				凹面			凸面		端面					
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴					
28-1 25-1 KD01	SI113 覆土	- - (14.0)	2.1	-	30×30	不明摸骨あり。	縄目 L10 本	-	-	-	-	-	-	灰褐色。硬質。小石・砂粒やや多量混入。文字部分図版 37-1。
28-2 - KD02	SI113 覆土	- - (4.8)	2.1	-	23×23	へら書「×」?あり。	縄目 L4 本	-	-	-	-	-	-	淡橙色。やや軟質。砂粒微量混入。
28-10 25-8 KD03	遺構 外	- (12.6) (11.9)	2.2	-	17×14	-	縄目 L13 本	狭端縁一面へら削り。	狭端面へら書「廿」?あり。	-	-	-	-	灰黄白色。硬質。砂粒やや多量混入。文字部分図版 37-4。

46次調査 土器一覽										
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考				
29-1 - PN01	灰釉陶器 坏	遺構外	- (1.4) ((7.6))	高台断面三日 月形。	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、無調整。高台貼り付け。	遺存度底部 1/4。灰白色。釉調薄黄緑色。硬 質。胎土緻密。高台高 0.9。				
46次調査 男瓦一覽										
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
29-2 - KC01	遺構外	- - (6.4)	1.4	-	16×22	不明朱墨痕あり。	-	-	-	灰色。硬質。胎土緻密。
46次調査 女瓦一覽										
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
29-3 24-6 KD01	遺構外	- - (6.9)	2.5	-	-	へら書「父」 あり。	正格子	-	-	灰褐色。硬質。砂粒やや多量混 入。文字部分図版 37-5。
53次調査 女瓦一覽										
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
29-4 24-7 KD01	遺構外	- - (9.2)	2.4	粘土紐	20×19	側端縁一面へ ら削り。へら書 「豊」あり。	縄目 L11 本	-	側端面一面 へら削り。	技法Ⅱ1-A1。灰色。硬質。 砂粒少量混入。文字部分 図版 37-6。
55次調査 土器一覽										
図面 図版 遺物番号	種別器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考				
30-1 24-8 PP01	緑釉陶器 皿	SK253 覆土	- (1.5) ((7.6))	高台断面三角 形。	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、無調整。	遺存度底部 1/2。素地暗灰白色。釉調黄緑色。 硬質。胎土緻密。高台高 0.6。				

55次調査 宇瓦一覽														
図面 図版 遺物番号	出土 位置	上弦弧幅 下弦弧幅 弧深	厚 さ	内区		外区				脇区		文様 深さ	全長	備考
				厚 さ	文 様	上		下		幅	文 様			
						厚さ	文様	厚さ	文様					
30-3 24-9 KB01	遺構外	(15.3) (17.3) 4.9	5.5	3.3	H	1.2	a	1.0	a	1.5	a	0.2	(9.9)	製作技法D。顎の形態B1-C。 灰褐色～暗灰褐色。硬質。 小石・砂粒多量混入。

55次調査 男瓦一覽													
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚 さ	成・整形の特徴						備考			
				素材	凹面		凸面		端面				
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴				
30-4 - KC01	遺構外	- - (5.2)	1.6	-	31×28	側端縁一面へラ削り。 不明へラ書あり。	縄目 L10本	-	側端面一面へラ 削り。	淡灰色。硬質。胎土緻密。 凹面不明。			

55次調査 女瓦一覽													
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚 さ	成・整形の特徴						備考			
				素材	凹面		凸面		端面				
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴				
30-2 - KD01	SK253 覆土	(17.1) - 30.3	2.8	粘土紐	-	狭・側端縁 一面へラ削 り。	斜格子	押型「佳」 あり。	狭・側端面一 面へラ削り。	技法II 1-A1。灰色。硬質。 小石・砂粒やや多量混入。 文字部分図版 36-13。			
30-5 24-10 KD02	遺構外	- - (8.4)	2.4	-	((18×24))	押印「入瓦」 あり。	縄目 L11本	-	-	灰色。硬質。砂粒少量混入。 文字部分図版 36-7。			
30-6 - KD03	遺構外	- - (7.6)	2.6	-	20×((21))	へラ書 「十」?あり。	縄目 L7本	-	-	灰色。硬質。砂粒少量混入。			

56次調査 鏡瓦一覽														
図面 図版 遺物番号	出土 位置	直径	内区				外区					全長	備考	
			中房径 形態	蓮子数	弁区径 弁幅	弁数 形態	幅	内縁		外縁				
								幅	文様	幅	高			文様
29-5 - KA01	遺構外	(5.8)	-	-	- 2.7	(1) SC	-	0.2	a	-	0.5	-	(2.7)	灰赤褐色。硬 質。胎土緻密。

74次調査 土器一覽													
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考							
29-6 - PH01	土師器 高台付坏	SI181 カマド	- (4.2) ((7.6))	底部からやや内湾気味 に立ち上がる。高台断面 台形。	体部下端横ナデ。高台貼り付け。	遺存度底部～体部下端 1/5。橙色。 雲母少量混入。高台高 1.0。							

74次調査 女瓦一覽

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
29-7 - KD01	SI181 覆土	- - (5.2)	2.1	-	22×29	不明ヘラ書あり。	縄目 L14本	-	-	灰赤白色。硬質。砂粒やや多量混入。

88次調査 土器一覽

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
31-1 26-1 PH02	土師器 甕	SI197 覆土	((13.6)) (7.7) -	口縁部くの字状に外反し、口唇部つまみ上げ。	頸部指オサエ。体部縦位ヘラ削り。	遺存度口縁部～体部上半1/3。暗橙色～暗褐色。やや硬質。胎土緻密。
31-2 26-2 PH03	土師器 甕	SI197 北カマド内	((19.8)) (9.1) -	口縁部ややコの字状に屈曲。	頸部指オサエ。体部横位ヘラ削り。	遺存度1/2。橙色。やや軟質。雲母少量混入。
31-3 26-3 PH07	土師器 甕	SI197 覆土	((20.0)) (21.7) -	口縁部～頸部コ字状に屈曲。体部上端やや張る。	口縁部～頸部強くヘラ削り。肩部横位、体部縦位ヘラ削り。	遺存度1/3。橙色～暗褐色。やや硬質。金雲母少量混入。
40-1 32-1 PH09	土師器 坏	SI198 覆土	12.8 4.4 6.6	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がる。	口縁部強く横ナデ。体部下端指頭痕あり。底部外面手持ちヘラ削り。	口縁部一部欠損。橙色。硬質。金雲母やや多量混入。
31-4 26-4 PH10	土師器 坏	SI197 覆土	((17.6)) 4.5 ((8.8))	体部下端から口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	ロクロ調整。体部外面下端回転ヘラ削り。	遺存度1/4。淡橙色～黒褐色。やや軟質。胎土緻密。
31-5 26-5 PK02	須恵器A 坏	SI197 覆土	11.7 4.0 5.4	底部から体部上端にかけてやや内湾気味に立ち上がる。口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度2/3。淡橙色。やや硬質。小石少量混入。
31-6 26-6 PK03	須恵器A 坏	SI197 覆土	(12.0) 3.9 5.0	底部から体部上端にかけてやや内湾気味に立ち上がる。口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度1/3。灰色。硬質。小石やや多量混入。
31-7 - PK04	須恵器A 坏	SI197 覆土	((11.4)) 3.9 ((5.0))	底部から体部上端にかけてやや内湾気味に立ち上がる。口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度1/4。暗灰褐色。硬質。小石・砂粒多量混入。
31-12 27-2 PK07	須恵器A 埴	SI197 北カマド内	((18.8)) (8.2) -	底部から体部上端にかけてやや内湾気味に立ち上がる。口縁部外反。	ロクロ調整。	遺存度1/5。灰褐色。硬質。海綿骨針多量混入。
32-1 27-3 PK10	須恵器A 高台付埴	SI197 貼床	- (2.8) 7.7	高台部への字状に外反し、断面台形。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。高台貼り付け。	遺存度底部のみ。淡灰白色～淡黄白色。硬質。砂粒少量混入。高台高1.0。
40-2 32-2 PK15	須恵器A 高台付皿	SI198 覆土	13.4 2.5 ((5.8))	底部～口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部外反。高台直線的に垂下、断面角形。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。高台貼り付け。	遺存度口縁部一部欠損。淡灰色。硬質。小石・砂粒多量混入。高台高0.8。

88次調査 土器一覽

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
31-8 26-7 PK18	須恵器 A 坏	SI197 覆土	((12.0)) 4.0 ((5.0))	底部～口縁部にかけて内湾して立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/3。暗灰色。硬質。砂粒混入。底部外面へラ書「三」?あり。文字部分図版 36-4。
31-9 - PK19	須恵器 B 坏	SI197 覆土	((12.1)) 3.9 ((6.0))	底部～口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/4。灰黄白色。やや軟質。胎土緻密。
31-10 26-8 PK20	須恵器 B 坏	SI197 覆土	((12.6)) 4.1 ((5.5))	底部から体部上半にかけてやや内湾気味に立ち上がり、口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/2。淡橙白色。やや軟質。胎土緻密。
31-11 27-1 PK21	須恵器 A 坏	SI197 東カマド内	- (1.7) ((6.0))	-	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度底部 2/3。灰色。硬質。砂粒少量混入。底部外面へラ書「水」?あり。文字部分図版 36-5。
40-3 32-3 PK22	須恵器 A 坏	SI198 覆土	12.0 3.6 5.6	底部から体部上半にかけて直線的に立ち上がり、口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	完形。灰色。硬質。口縁部煤付着。
40-4 32-4 PK23	須恵器 A 坏	SI198 覆土	12.6 4.0 5.9	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口唇部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	口縁部一部欠損。淡灰色。硬質。胎土緻密。底部外面へラ書「×」?あり。文字部分図版 36-6。
40-5 32-5 PK24	須恵器 A 坏	SI198 覆土	((12.2)) 4.2 5.4	底部から体部上半にかけて内湾気味に立ち上がる。口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/2。暗赤褐色。硬質。小石少量混入。
32-2 - PL01	土師質土器 坏	SI197 覆土	((12.0)) 4.2 ((5.4))	体部やや内湾気味に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/4。淡橙色。やや軟質。胎土緻密。
32-3 - PL03	土師質土器 坏	SI197 覆土	((12.6)) ((4.3)) 5.4	体部やや内湾気味に立ち上がり、口縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/3。淡橙色。やや軟質。胎土緻密。
40-6 32-6 PL04	土師質土器 坏	SI198 東カマド内	12.2 4.0 6.2	底部から口縁部にかけて内湾気味に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、周縁回転へラ削り。	完形。淡橙色～暗褐色。やや硬質。胎土緻密。
40-7 32-7 PL08	土師質土器 坏	SI198 覆土	((11.8)) 3.7 5.1	底部から口縁部にかけて直線的に立ち上がり、口唇部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	遺存度 1/3。暗褐色～暗橙色。硬質。砂粒混入。体部内面不明朱墨書あり。文字部分図版 36-3。
32-4 27-5 PN01	灰釉陶器 埴	SI197 覆土	((15.6)) 4.7 ((7.6))	底部から体部上半にかけてやや内湾気味に立ち上がり、口縁部外反。高台断面三日月形。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、底部・体部下端回転へラ削り。高台貼り付け。	遺存度 1/4。灰白色。釉調淡緑白灰色。硬質。胎土緻密。内面全面ハケ塗り。高台高 0.7。

88次調査 土器一覽						
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
40-8 32-8 PN02	灰釉陶器 壺	SI198 覆土	- (3.3) 8.4	高台ややハの字状 に広がり断面角形。	ロクロ調整。底部・体部下半回転 ヘラ削り。	遺存度底部 2/3。灰白色。硬質。砂粒 やや多量混入。内面見込み自然釉薬あ り。高台高 0.9。
32-6 27-4 PN03	灰釉陶器 長頸壺	SI197 覆土	- (5.6) -	-	ロクロ調整。頸部張り付け。	遺存度頸部 1/4。灰白色。硬質。釉調 淡深緑白色。胎土緻密。 頸部最少径 5.6。
32-5 27-6 PN04	灰釉陶器 埴	SI197 東カマド内	17.1 5.3 7.5	底部から体部中位 にかけてやや直線 的に立ち上がり、口 縁部外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、 底部周縁・体部下半回転ヘラ削 り。内面重ね焼痕あり。	遺存度口縁部 1 部欠損。灰白色。釉調 淡黄緑色。内面体部・外面口縁部ハケ 塗り。底部外面に不明墨書あり。高台 高 0.7。文字部分図版 36-2。
40-9 32-9 PN05	灰釉陶器 手付瓶	SI198 覆土	4.2 11.6 6.3	体部やや湾曲して 立ち上がる。口縁部 水平に外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、 底部周縁・体部下端ヘラ削り。	口縁部一部・把手部欠損。灰白色。釉 調淡黄緑色。硬質。胎土緻密。肩部か ら体部下半にかけてハケ塗り。

88次調査 男瓦一覽										
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚 さ	成・整形の特徴					備考	
				素材	凹面		凸面			端面
					布目	特徴	叩き	特徴		特徴
32-7 27-7 KC01	SI197 東カマド内	(6.0) (11.8) 35.0	1.8	粘土紐	20×20	側端縁一面ヘ ラ削り。	-	-	広・側端面一 面ヘラ削り。	技法 I 2-A1?。灰黄白 色。硬質。胎土緻密。
33-1 - KC02	SI197 北カマド内	- - (10.8)	1.7	粘土紐	17×28	側端縁一面ヘ ラ削り。不明ヘ ラ書あり。	-	-	側端面一面 ヘラ削り。	技法 I 3-A1。黄灰褐 色。硬質。海綿骨針 やや多量混入。
41-1 33-1 KC03	SI198 東カマド内	9.5 18.1 39.0	1.0	粘土紐	25×32	-	-	-	狭・広・側端 面一面ヘラ 削り。	技法 I 3-A1。灰褐色。 硬質。砂粒微量混入。
40-10 - KC04	SI198 東カマド内	- (5.2) (14.0)	1.7	粘土紐?	32×25	広・側端縁一面 ヘラ削り。	縄目 L((12))本	広・側端縁一 面ヘラ 削り。	広・側端面一 面ヘラ削り。	技法 I 2-A1?。灰黄白 色。硬質。胎土緻密。
33-3 28-1 KC05	SI197 北カマド内	- 18.5 (16.5)	1.9	粘土紐	14×16	側端縁一面ヘ ラ削り。	-	側端縁一 面ヘラ削 り。	広・側端面一 面ヘラ削り。	技法 I 3-A1?。黄灰白 色。やや軟質。胎土 緻密。
33-4 27-8 KC06	SI197 東カマド内	(7.3) - (25.0)	1.8	粘土紐	19×17	側端縁一面ヘ ラ削り。	-	側端縁一 面ヘラ削 り。	側端面一面 ヘラ削り。	技法 I 3-A1?。灰色。硬 質。砂粒やや多量混 入。
33-2 - KC07	SI197 東カマド内	- - (18.5)	2.0	粘土紐	17×19	側端縁一面ヘ ラ削り。	-	-	側端面一面 ヘラ削り。	技法 I 3-A1。灰黄褐 色。硬質。海綿骨針 少量混入。

88次調査 女瓦一覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚 さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
34-1 28-2 KD01	SI197 東カマド内	25.4 - (28.8)	3.0	粘土紐	13 × 12	狭・側端縁一面 ヘラ削り。	斜格子	ヘラ書 「都」あ り。	狭・側端面一 面ヘラ削り。	技法II 1-A1。黄灰白 色。やや硬質。砂粒微 量混入。文字部分図版 38-1。
34-2 28-3 KD02	SI197 東カマド内	24.0 (17.0) 37.0	2.1	粘土紐?	21 × 22	広端縁一面幅 広ヘラ削り。 狭・側端縁一面 ヘラ削り。	斜格子	ヘラ書 「都」あ り。	狭・広・側端 面一面ヘラ 削り。	技法II 1-A1?。黄灰白 色。やや硬質。砂粒多 量混入。文字部分図版 38-2。
35-1 29-1 KD03	SI197 北カマド内	(11.5) (14.3) 37.8	2.7	粘土板	14 × 12	狭・広・側端縁 一面ヘラ削り。	斜格子	左側端縁 一面ヘラ 削り。	狭・広・側端 面一面ヘラ 削り。	技法II 1-B。黄白色。 やや硬質。胎土緻密。
35-2 29-2 KD04	SI197 北カマド内	(17.0) (16.0) 37.0	1.6	粘土紐?	14 × 12	狭・広・側端縁 一面ヘラ削り。	縄目 L6本	-	広・側端面一 面ヘラ削り。	技法II 1-A1?。灰色。 硬質。小石・砂粒少量 混入。
36-1 - KD05	SI197 北カマ ド内	(10.3) - (15.0)	2.0	-	26 × 25	-	縄目 L7本	-	狭・側端面一 面ヘラ削り。	灰白色。硬質。胎土緻 密。
36-3 30-2 KD06	SI197 東カマド脇	- - (26.0)	3.3		15 × 18	ヘラ書「多」?あ り。	斜格子	-	-	灰黄白色。やや軟質。 砂粒やや多量混入。文 字部分図版 37-7。
40-11 - KD07	SI198 東カマド内	- - (12.1)	2.3		25 × 28	不明ヘラ書あ り。	縄目 L11本	-	側端面一面 ヘラ削り。	淡灰黄色。硬質。胎土 緻密。
37-1 30-4 KD08	SI197 東カマド脇	(11.1) 27.2 33.7	2.2	粘土紐	15 × 18	側端縁1面ヘ ラ削り。	正格子	-	狭・広・側端 面一面ヘラ 削り。	灰黄白色。硬質。海綿 骨針やや多量混入。
36-1 30-1 KD09	SI197 東カマド脇	(11.9) - (17.5)	2.0	粘土板?	24 × 26	狭・側端縁一面 ヘラ削り。	縄目 L6本	-	狭・側端面一 面ヘラ削り。	技法II 1-B?。淡橙色。 やや硬質。小石・砂粒 少量混入。
36-4 - KD10	SI197 覆土	(5.3) - (12.0)	1.8	粘土紐	23 × 24	狭端縁ヘラナ デ。側端縁一面 ヘラ削り。	縄目 L6本	-	狭・側端面一 面ヘラ削り。	技法II 1-A1。淡橙色。 やや軟質。胎土緻密。
36-5 30-3 KD11	SI197 東カマド内	(11.7) - (24.1)	1.4	粘土板?	14 × 19	狭・側端縁一面 ヘラ削り。	縄目 L10本	-	狭・側端面一 面ヘラ削り。	技法II 1-B。灰黄白色。 硬質。小石少量混入。
37-2 31-1 KD12	SI197 東カマド内	- (17.5) (16.1)	2.3	粘土板?	20 × 21	狭・側端縁一面 ヘラナデ。	斜格子	-	側端面一面 ヘラ削り。	技法II 1-B。灰褐色。 硬質。砂粒やや多量混 入。
37-3 31-6 KD13	SI197 東カマド脇	(11.6) - (20.0)	3.0	粘土紐	18 × 20	狭・側端縁一面 ヘラ削り。	正格子	側端縁一 面幅広ヘ ラ削り。	狭・側端面一 面ヘラ削り。	技法II 1-A1。灰褐色。 硬質。小石多量混入。

88次調査 女 瓦 一 覧

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
37-4 31-3 KD14	SI197 東カマド内	(12.5) - (14.5)	2.4	粘土紐	14×16	-	縄目 L9本	側端縁 一面へ ラ削り。	側端面一面 へラ削り。	技法II 1-A1。黄灰白 色。やや軟質。胎土 緻密。
38-1 31-4 KD15	SI197 東カマド内	(11.5) - (22.4)	2.0	粘土紐?	27×27	-	正格子	側端縁 一面へ ラ削り。	側端面一面 へラ削り。	技法II 1-A1?。黄灰褐 色。やや軟質。海綿 骨針多量混入。
38-3 - KD16	SI197 東カマド内	- - (19.4)	2.4	粘土紐	-	側端縁一面 へラ削り。	斜格子	-	-	技法II 1-A1。黄灰白 色。やや軟質。胎土 緻密。
38-5 - KD17	SI197 東カマド内	- - (10.2)	2.4	-	19×21	側端縁一面 へラ削り。	正格子	不明押 型あり。	側端面一面 削り。	灰黄褐色。やや硬質。 胎土緻密。
38-2 - KD18	SI197 東カマド内	- (6.8) (13.0)	3.0	-	((18×21))	広・側端縁一 面へラ削り。	斜格子	-	広・側端面一 面へラ削り。	暗褐色。やや硬質。 砂粒微量混入。
39-1 31-5 KD19	SI197 東カマド内	- 23.2 (24.0)	2.5	粘土紐?	17×17	広・側端縁一 面へラ削り。	縄目 L9本	-	広・側端面一 面へラ削り。 広端面隅落 とし。	技法II 1-B。灰褐色。 硬質。小石・砂粒多 量混入。
38-4 31-7 KD20	SI197 北カマド内	(8.3) - (21.5)	2.6	粘土板	21×21	広・側端縁一 面へラナデ。	斜格子	-	-	技法II 1-B。灰色。硬 質。小石・砂粒多量 混入。
38-6 31-2 KD21	SI197 貼床内	- - (14.5)	2.9	-	18×17	不明へラ書 あり。	斜格子	-	-	淡橙色。軟質。砂粒 やや多量混入。文字 部分図版 38-3。
39-2 - KD22	SI197 覆土	- (20.7) (17.5)	2.0	粘土紐?	25×22	広・側端縁一 面へラ削り。 押印「水」? あり。	縄目 L6本	-	広・側端面一 面へラ削り。	灰黄白色。やや硬質。 砂粒少量混入。文字 部分図版 36-8。
41-2 33-2 KD23	SI198 東カマド内	(17.0) - (21.8)	1.4	粘土紐?	17×19	摸骨「上」(逆 字)あり。	縄目 L8本	-	狭・側端面一 面へラ削り。	技法II 1-A1?。灰色。 硬質。胎土緻密。文 字部分図版 37-2。
40-12 - KD24	SI198 東カマド内	- - (7.3)	2.3	-	28×28	-	縄目 L8本	-	側端面一面 へラ削り。	灰黄白色。硬質。胎 土緻密。
41-4 - KD25	SI198 東カマド内	- - (11.3)	2.4	-	23×23	-	縄目 L8本	-	側端面一面 へラ削り。	灰色。硬質。胎土緻 密。
41-3 33-3 KD26	SI198 覆土	(6.0) - (18.3)	2.0	-	19×19	押印「前」あ り。	縄目 L8本	-	-	灰色。硬質。砂粒少 量混入。文字部分図 版 36-9。

88次調査 石製品一覧										
図面 図版 遺物番号	出土位置	寸法			備考					
39-3 31-8 GL01	SI197 覆土	最大長(10.3)、最大幅4.0、最大厚3.0			砥石					
41-5 33-4 GL02	遺構外	最大長(8.3)、最大幅4.6、最大厚1.5			砥石					
88次調査 青銅製品一覧										
図面 図版 遺物番号	出土位置	寸法			備考					
39-4 31-9 MC01	SI197 東カマド脇	縦3.3、横3.3、厚0.1、孔径0.2			銚帯(巡方)裏金具。平面方形。4隅に孔あり。					
88次調査 炭化種子一覧										
図版 遺物番号	出土位置	寸法			備考					
- 31-10 ND01	SI197 覆土	最大長2.5、最大幅(1.5)、最大厚1.3			桃種子か。					
- 31-10 ND02	SI197 覆土	最大長2.4、最大幅1.6、最大厚1.2			桃種子か。					
89次調査 女瓦一覧										
図面 図版 遺物番号	出土位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
42-1 34-1 KD01	遺構外	- - (5.4)	2.9	-	16×18	押印「狛」あり。	正格子	-	-	淡橙色。やや軟質。砂粒少量混入。文字部分図版36-10。
89次調査 石製品一覧										
図面 図版 遺物番号	出土位置	寸法			備考					
42-2 34-2 GM01	遺構外	直径5.0 厚1.6 穿孔径0.8			紡錘車紡輪部。一部欠損。泥岩製。黄褐色。					

92次調査 土器一覽

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
42-3 34-3 PH01	土師器 甕	SI202 覆土	- (5.5) 5.5	底部から直線的に立ち上がる。	体部外面縦位にヘラ削り。	遺存度底部から体部下端残存。淡橙色～暗褐色。やや硬質。雲母やや多量混入。
42-4 34-4 PK01	須恵器A 坏	SI202 覆土	11.2 4.3 5.0	底部から体部上半にかけてやや内湾気味に立ち上がり、口縁部やや外反。	ロクロ調整。底部回転糸切り後、無調整。	完形。淡橙白色。やや硬質。砂粒微量混入。
42-5 34-5 PL01	土師質土器 高台付坏	SI202 覆土	- (3.0) 5.8	高台外反、断面逆台形。	ロクロ調整。回転糸切り後、高台貼り付け。内面へラ磨き調整後、黒色処理。	遺存度底部残存。橙色～黒褐色。やや硬質。雲母少量混入。高台高1.1。

92次調査 男瓦一覽

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
42-6 34-6 KC01	遺構外	- (11.2) (13.8)	1.8	-	29×24	広・側端縁一面へラ削り。へら書「月」あり。	縄目 L6本	-	側端面一面へラ削り。	灰赤褐色。硬質。砂粒微量混入。文字部分図版38-4。

97次調査 土器一覽

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
43-3 34-9 PN01	灰釉陶器 壺	遺構外	((15.8) 5.0 ((7.6)	底部から体部下半にかけて内湾気味に立ち上がり、口縁部外反。	ロクロ調整。回転糸切り後、底部周縁・体部下端回転へラ削り。	遺存度1/6。灰白色。釉調淡黄緑色。内面全面施釉。高台高0.4。

97次調査 宇瓦一覽

図面 図版 遺物番号	出土 位置	上弦弧幅 下弦弧幅 弧深	厚さ	内区		外区				脇区		文 様 深 さ	全長	備考
				厚さ	文 様	上		下		幅	文 様			
						厚さ	文 様	厚さ	文 様					
43-1 34-7 KB01	SD49 覆土	- (1.4) -	(3.6)	(2.7)	H	-	-	(0.9)	-	-	-	0.1	(6.4)	製作技法B。顎の形態B1。灰褐色。砂粒・海綿骨針やや多量混入。
43-4 - KB02	遺構外	(6.3) - -	(5.0)	-	G	-	a	-	-	-	a	0.4	(7.4)	製作技法D。顎の形態B1?-C。灰褐色。硬質。砂粒微量混入。

97次調査 女瓦一覽

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
43-2 34-8 KD01	SD49 覆土	- - (21.5)	3.9	粘土紐	18×18	側端縁一面 へラ削り。	斜格子	押型「荏」あ り。	側端面一面へ ラ削り。	技法II1-A1。灰黄白色。硬質。 胎土緻密。文字部分図版 36-14。

102次調査 土器一覽

図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土 位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考
44-1 35-1 PH01	土師器 甕	SI225 覆土	((12.0)) (6.4) -	口縁部ややコ字状に外反。	口縁部から頸部強く横ナデ。肩 部は横位へラ削り。	遺存度口縁部～肩部1/5。橙色～暗褐 色。硬質。雲母やや多量混入。
44-2 35-2 PK01	須恵器A 坏	SI225 床直	11.4 3.7 6.0	体部下端やや内湾気味に、口 縁部直線的に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、無調整。	遺存度2/3。灰白色～淡橙色。硬質。 小石・砂粒やや多量混入。
44-3 35-3 PK02	須恵器A 坏	SI225 覆土	- (3.0) 6.6	底部から体部下端にかけて 直線的に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、無調整。	灰白色。硬質。海綿骨針やや多量混入。

102次調査 宇瓦一覽

図面 図版 遺物番号	出土 位置	上弦弧幅 下弦弧幅 弧深	厚 さ	内区		外区				脇区		文様 深さ	全長	備考
				厚さ	文様	上		下		幅	文 様			
						厚さ	文様	厚さ	文様					
44-5 35-5 KB01	遺構外	(4.9) (8.7) (1.5)	5.3	4.2	HK	0.2	a	0.9	a	-	-	0.2	(8.0)	製作技法B。顎の形 態C1-C。灰褐色。 小石・砂粒やや多量 混入。

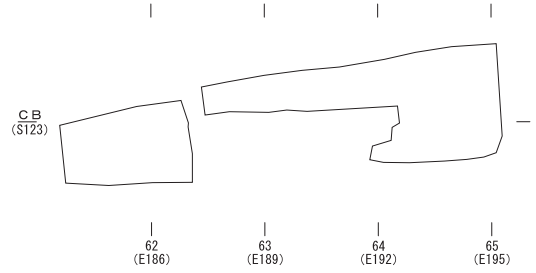
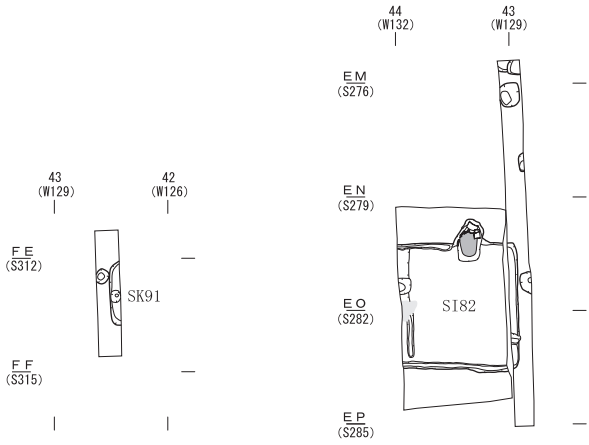
102次調査 男瓦一覽

図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				素材	凹面		凸面		端面	
					布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
44-6 - KC01	遺構外	- - (5.2)	1.5	-	((21×24))	へラ書「入」 あり。	-	-	-	灰色。硬質。砂粒少量混入。

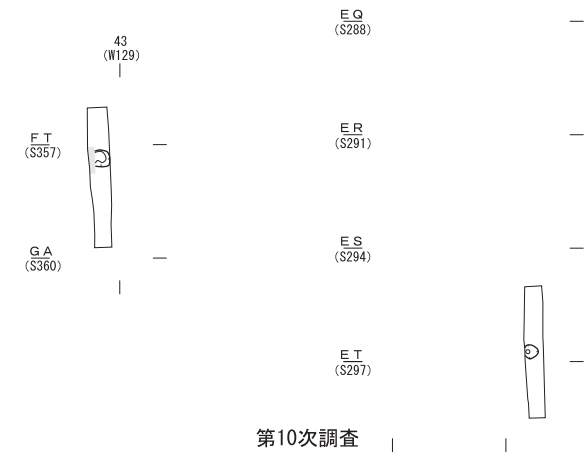
102次調査 女瓦 一覧										
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
44-4 35-4 KD01	SI225 床直	25.5 - (20.0)	2.3	粘土 紐?	20×21	狭・側端縁一面 へら削り。	縄目 L10本	-	狭・側端面一面 へら削り。押印 「中」あり。	技法II 1-A1?。灰褐色。硬質。 海綿骨針やや多量混入。文字 部分図版 36-11。
44-7 35-6 KD02	遺構外	(12.5) - (17.5)	2.1	粘土 紐	((18×21))	側端縁一面へ ら削り。へら書 「豊」あり。	縄目 L7本	-	側端面一面へ ら削り。	技法II 1-A1。灰黄白色。硬質。 海綿骨針・砂粒少量混入。文 字部分図版 38-5。
102次調査 石器 一覧										
図面 図版 遺物番号	種別 形態	出土位 置	最大長	最大幅	最大厚	重量	遺存状態	石材	備考	
45-1 - AN01	スタンプ 形石器	遺構外	13.8	12.2	5.3	1,100	完形	砂岩	両側に挟入。「風」字型。	
106次調査 土器 一覧										
図面 図版 遺物番号	種別 器種	出土位置	口径 器高 底径	器形の特徴	成・整形の特徴	備考				
43-5 - PH01	土師器 坏	SI226 カマド内	- (2.0) 5.9	-	体部下端・底部手持ちへら削り。	遺存度底部残存。橙色。やや硬質。 砂粒やや多量混入。				
43-6 - PH02	土師器 甕	SI226 カマド内	((11.8)) (8.0) -	体部内湾して立ち上がる。口 縁部くの字状に外反。	体部横方向にへら削り。	遺存度体部中端～口縁部 1/8。暗褐 色。やや硬質。雲母微量混入。				
43-7 35-7 PK01	須恵器 A 坏	SI226 カマド内	((13.2)) 4.4 ((6.0))	底部から口縁部にかけて直 線的に立ち上がる。	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、無調整。	遺存度 1/4。灰白色。やや軟質。胎 土緻密。				
43-8 35-8 PK02	須恵器 A 坏	SI226 覆土	- (2.1) 6.6	-	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、無調整。	遺存度底部。淡橙色。やや硬質。胎 土緻密。				
43-9 35-9 PN01	灰釉陶器 皿	SI226 覆土	- (2.0) ((6.8))	高台断面三日月形。	ロクロ調整。底部回転糸切り 後、高台貼り付け。	遺存度底部 1/3。灰白色。釉調薄緑 色。内面全面施釉。硬質。胎土緻密。 高台高 0.6。				
106次調査 女瓦 一覧										
図面 図版 遺物番号	出土 位置	狭端 広端 全長	厚さ	成・整形の特徴						備考
				凹面			凸面		端面	
				素材	布目	特徴	叩き	特徴	特徴	
43-10 35-10 KD01	P-19 覆土	- - (7.6)	(2.7)	粘土紐	20×27	押印「父」あり。	-	-	-	技法II 1-A1。橙色。硬質。砂 粒微量混入。文字部分図版 36-12。

図面

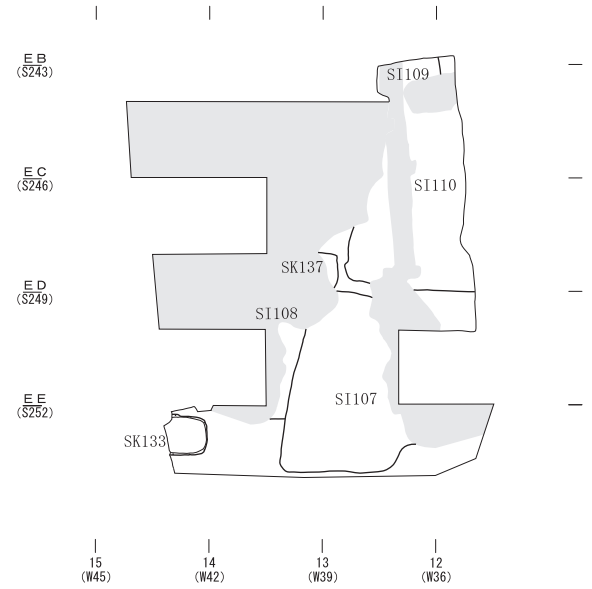
図面1 第10・11・21・26・34次調査 遺構配置図



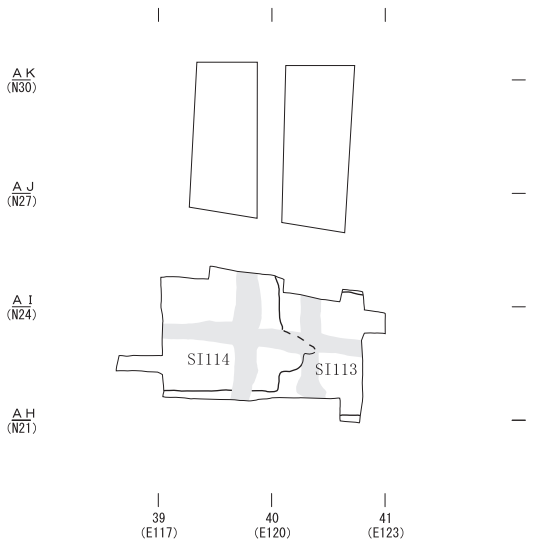
第11次調査



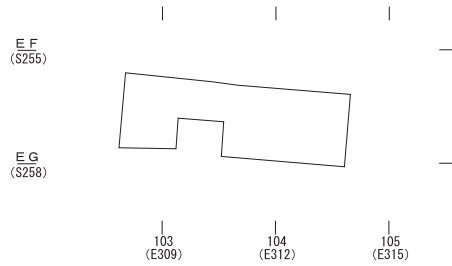
第10次調査



第21次調査



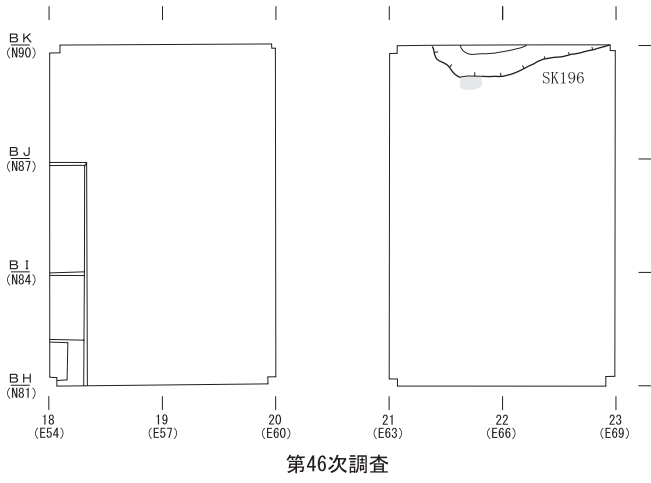
第26次調査



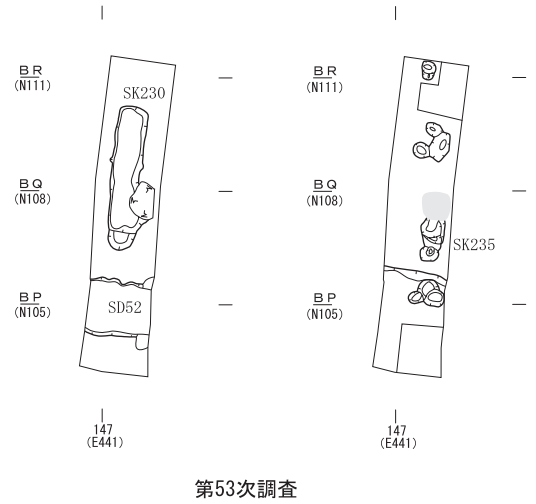
第34次調査



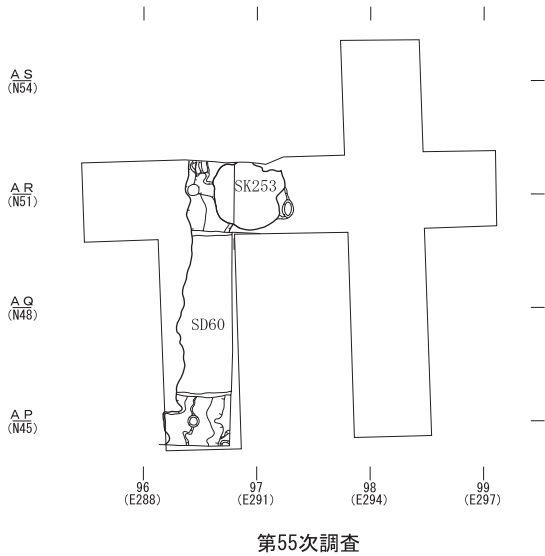
図面2 第46・53・55・56・61・63次調査 遺構配置図



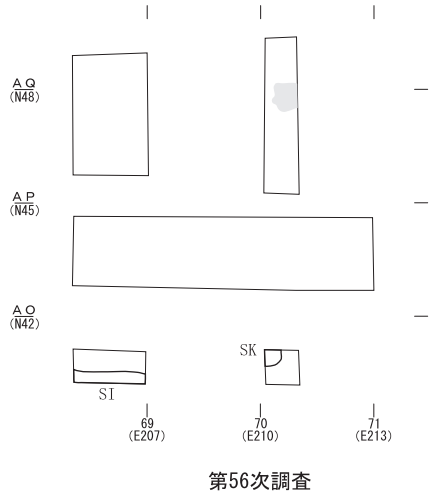
第46次調査



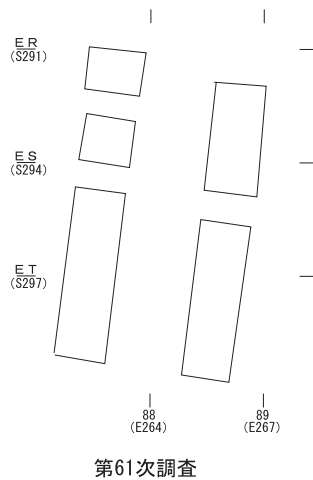
第53次調査



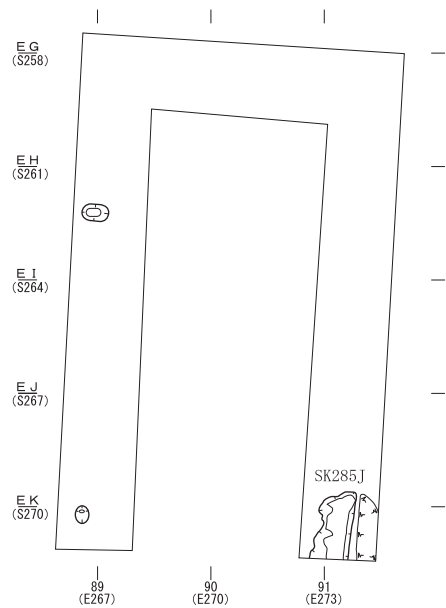
第55次調査



第56次調査



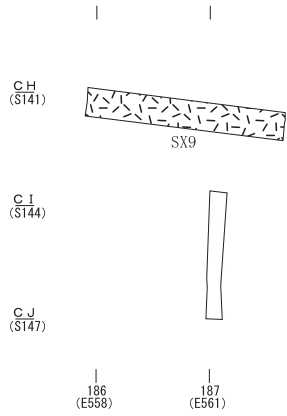
第61次調査



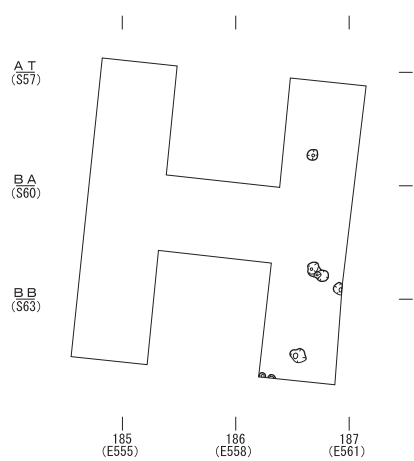
第63次調査



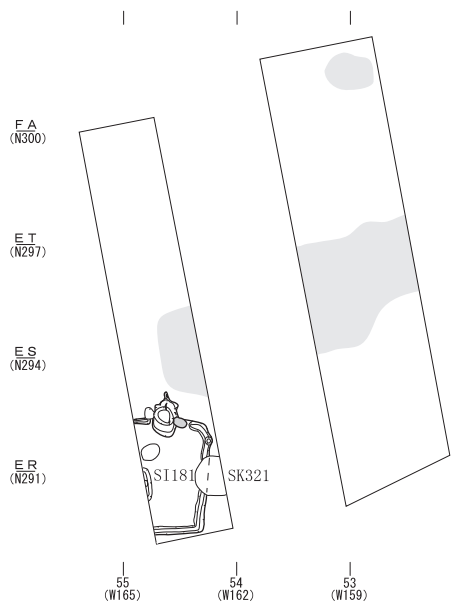
図面3 第64・66・74・76・88・89次調査 遺構配置図



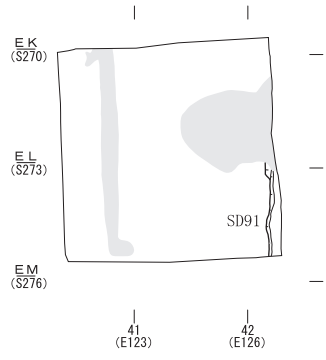
第64次調査



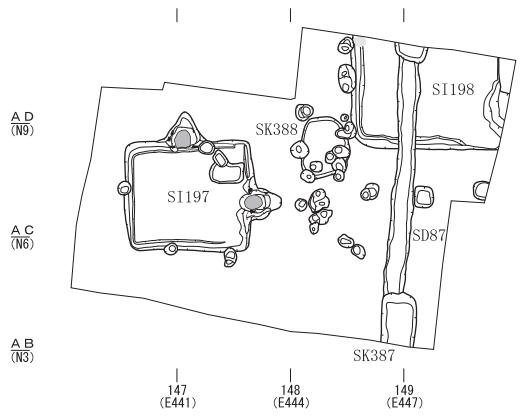
第66次調査



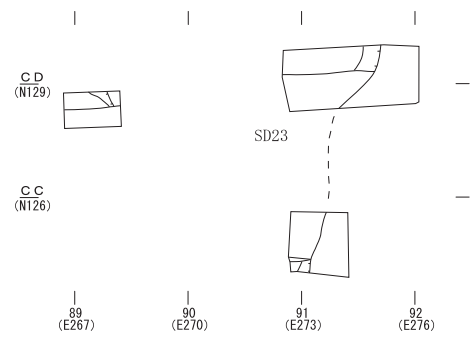
第74次調査



第76次調査



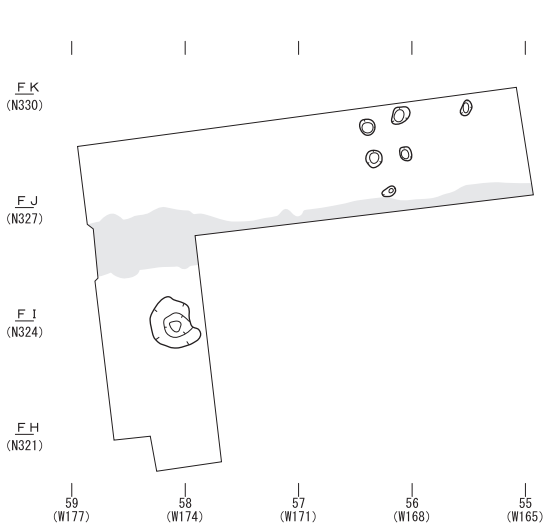
第88次調査



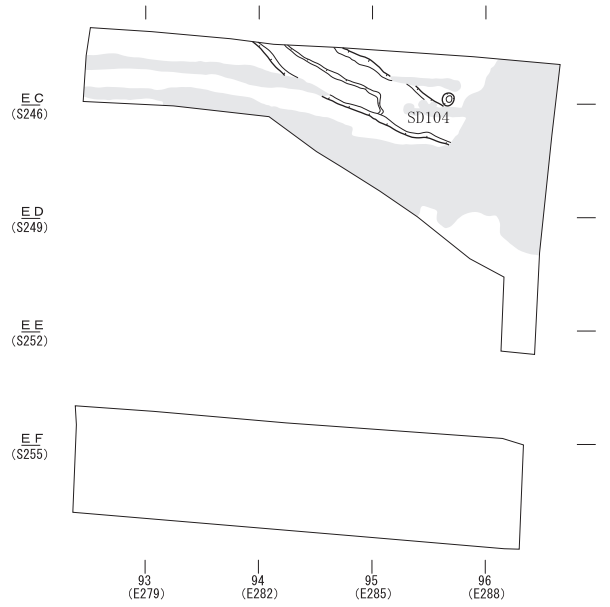
第89次調査



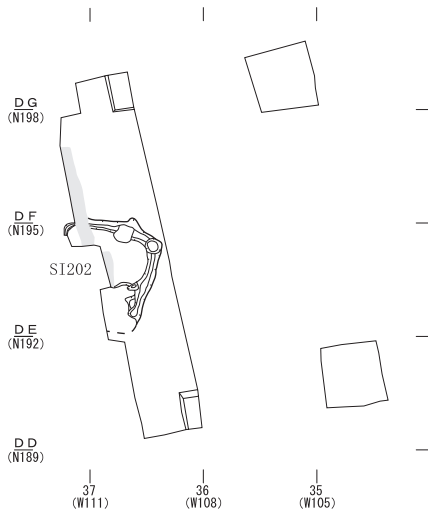
図面4 第90・92・96・97・98次調査 遺構配置図



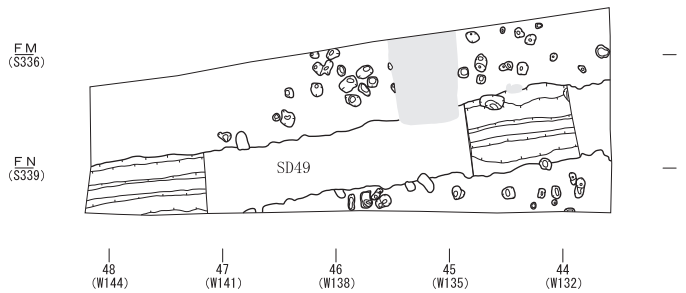
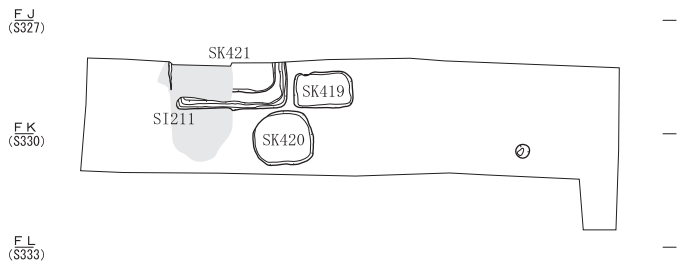
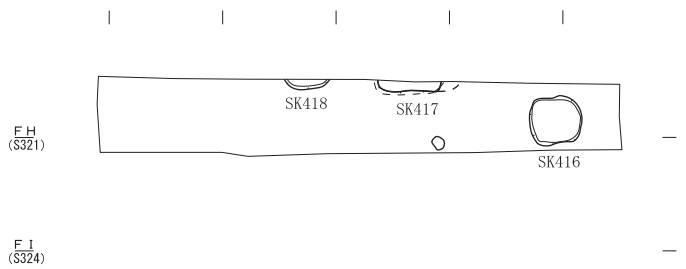
第90次調査



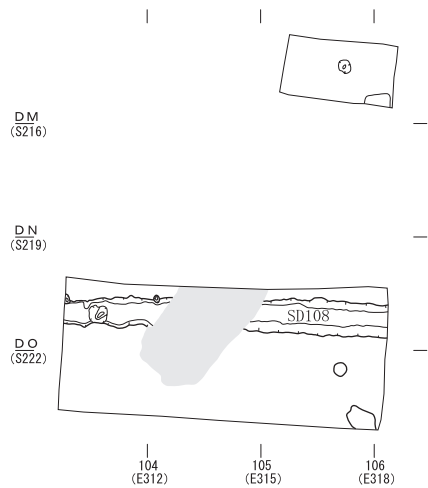
第96次調査



第92次調査



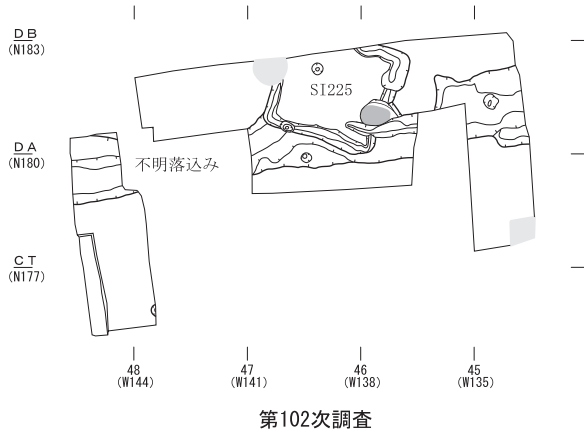
第97次調査



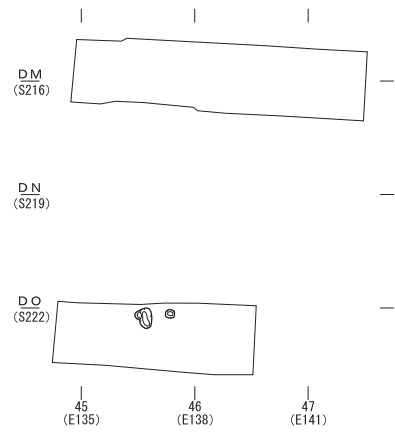
第98次調査



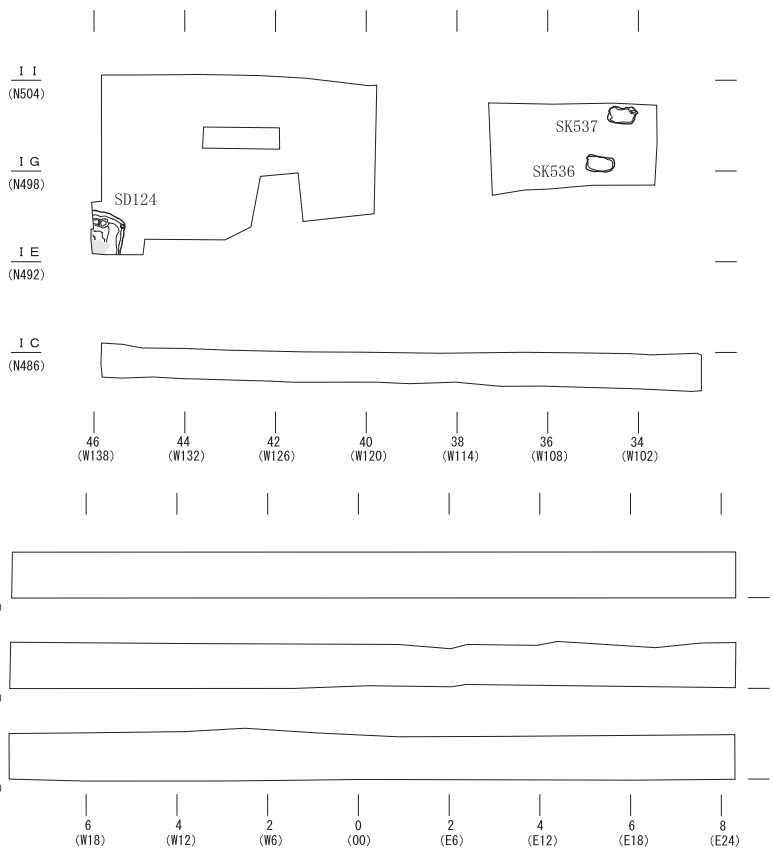
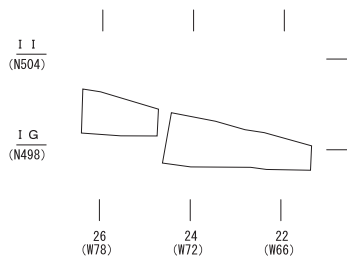
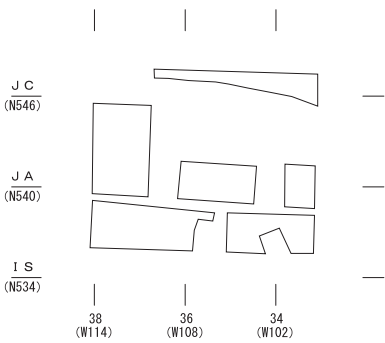
図面5 第102・105・108次調査 遺構配置図



第102次調査



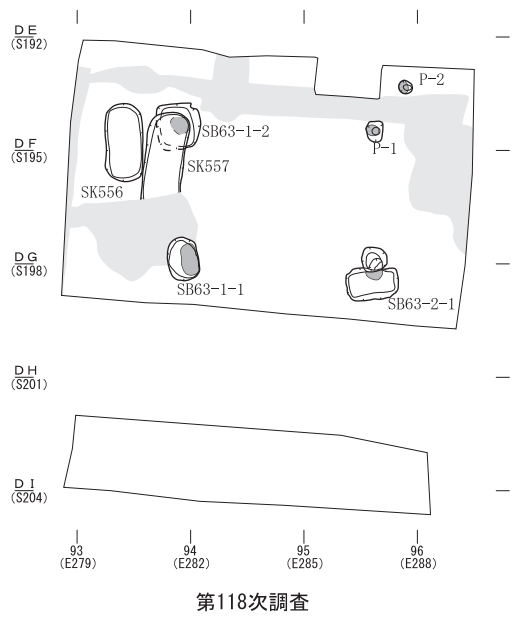
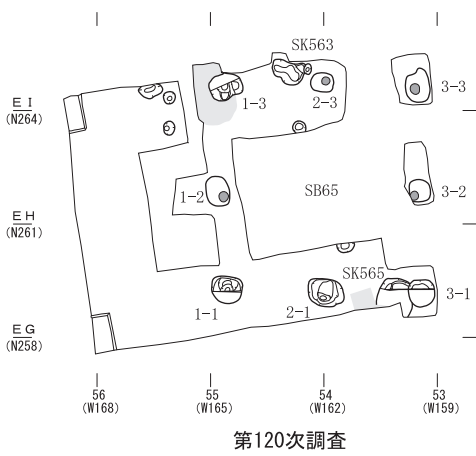
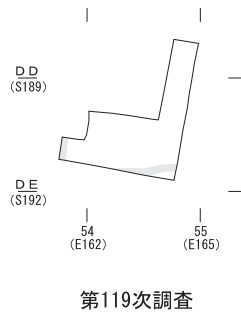
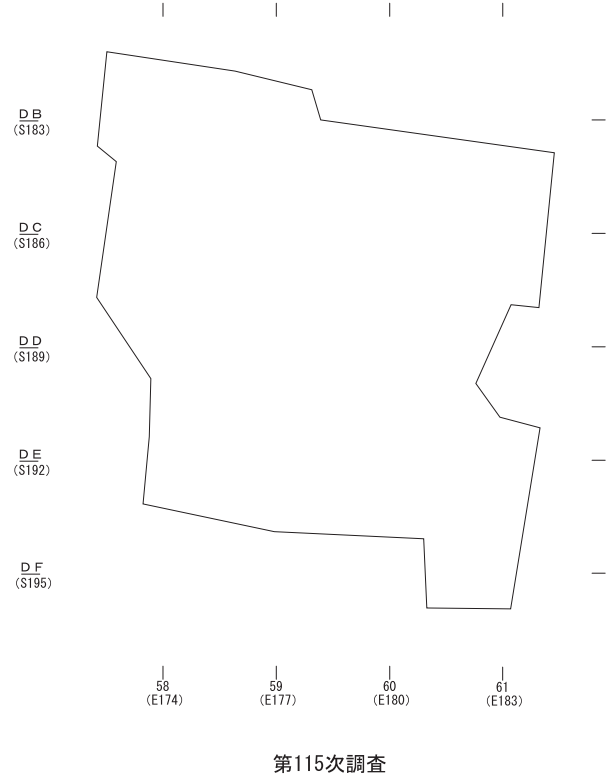
第105次調査



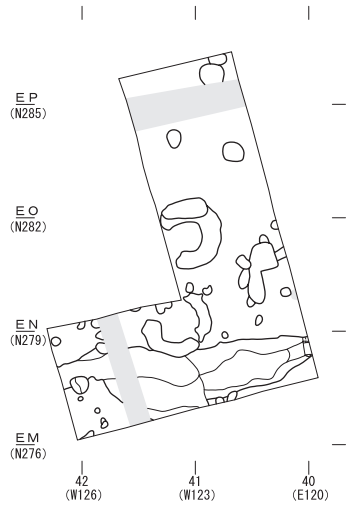
第108次調査



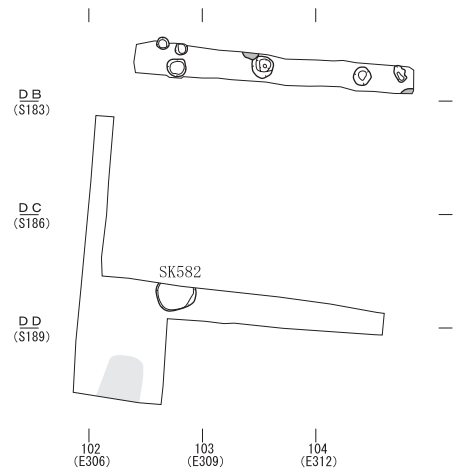
図面6 第106・115・118・119・120次調査 遺構配置図



図面7 第121・124・125次調査 遺構配置図



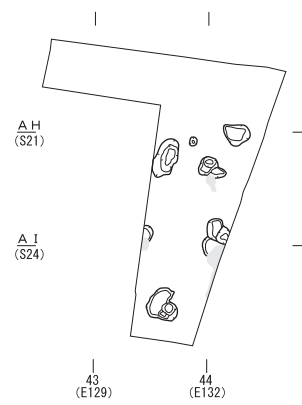
第121次調査



第125次調査



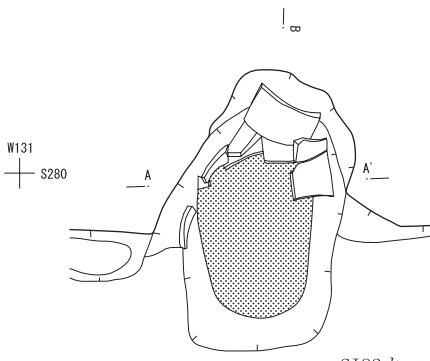
第124次調査



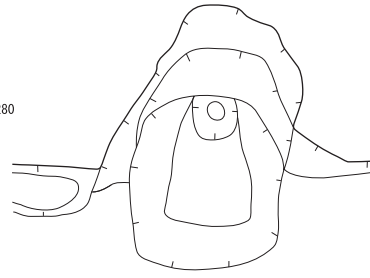
第124次調査(縄文時代)



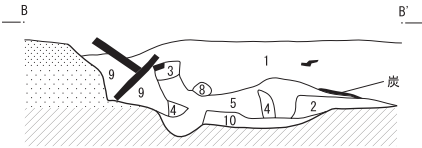
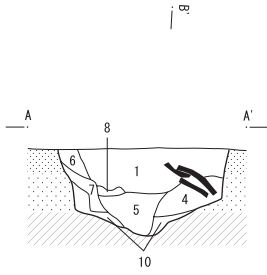
図面8 第10次調査 SI82竪穴住居・SK91土坑実測図



SI82カマド使用時

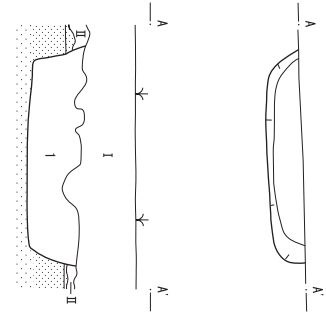


SI82カマド構築時



SI82カマド

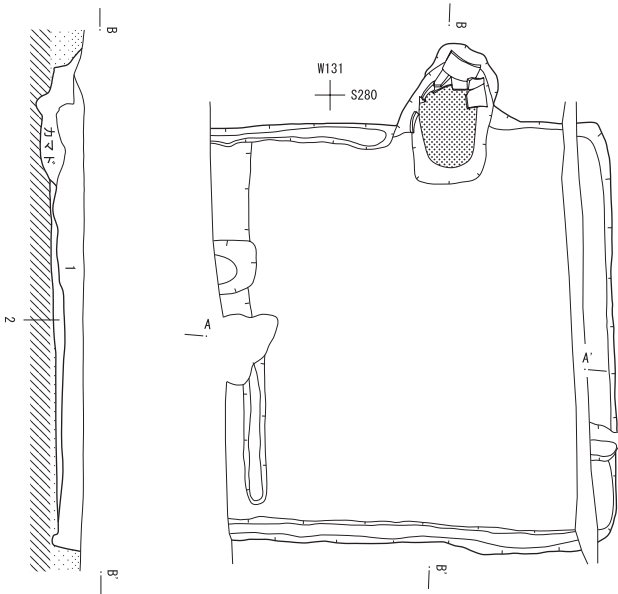
- | | |
|---------|------------------|
| 1 黒褐色土 | 細ロム・スリヤ粒子多く含む。 |
| 2 黒褐色土 | 細ロム多く含む。 |
| 3 茶褐色土 | ロム土多く含む。 |
| 4 暗赤褐色土 | 焼土・炭化物多く含む。 |
| 5 黒褐色土 | 炭・スリヤ少量含む。 |
| 6 黒褐色土 | 炭・細ロム・スリヤ粒子少量含む。 |
| 7 茶褐色土 | ロム土多く含む。 |
| 8 暗赤褐色土 | 焼土・炭化物やや多く含む。 |
| 9 暗褐色土 | ロム土多く焼土・炭化物微量含む。 |
| 10 赤褐色土 | 焼土・炭化物多量含む。 |



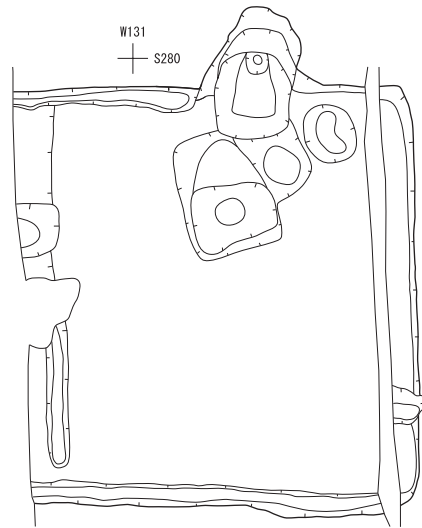
SK91

SK91

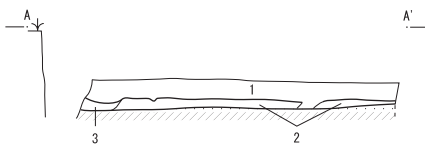
- 1 黒褐色土 ロム粒子・ブロック多く含む。



SI82使用時



SI82構築時

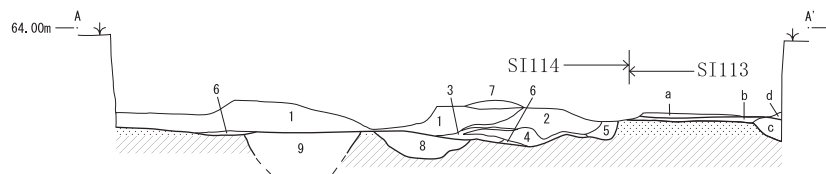
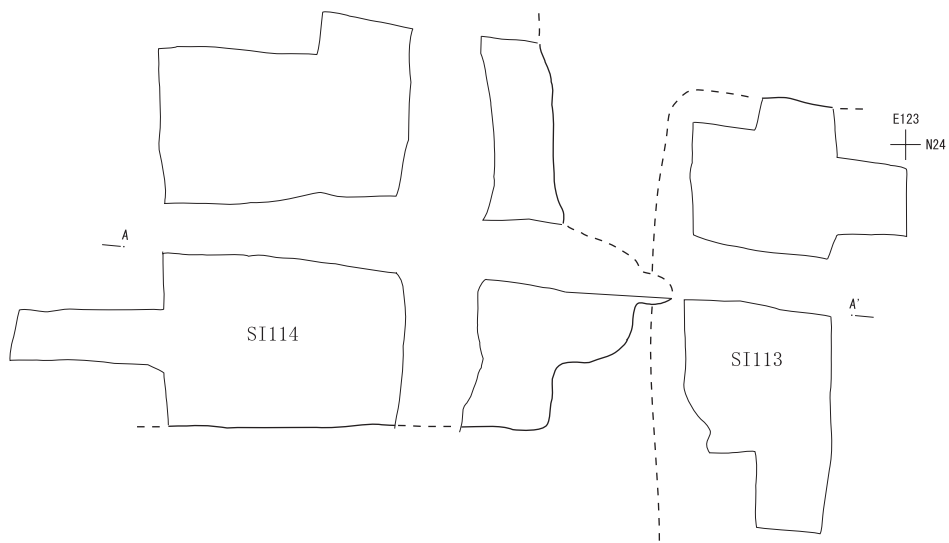
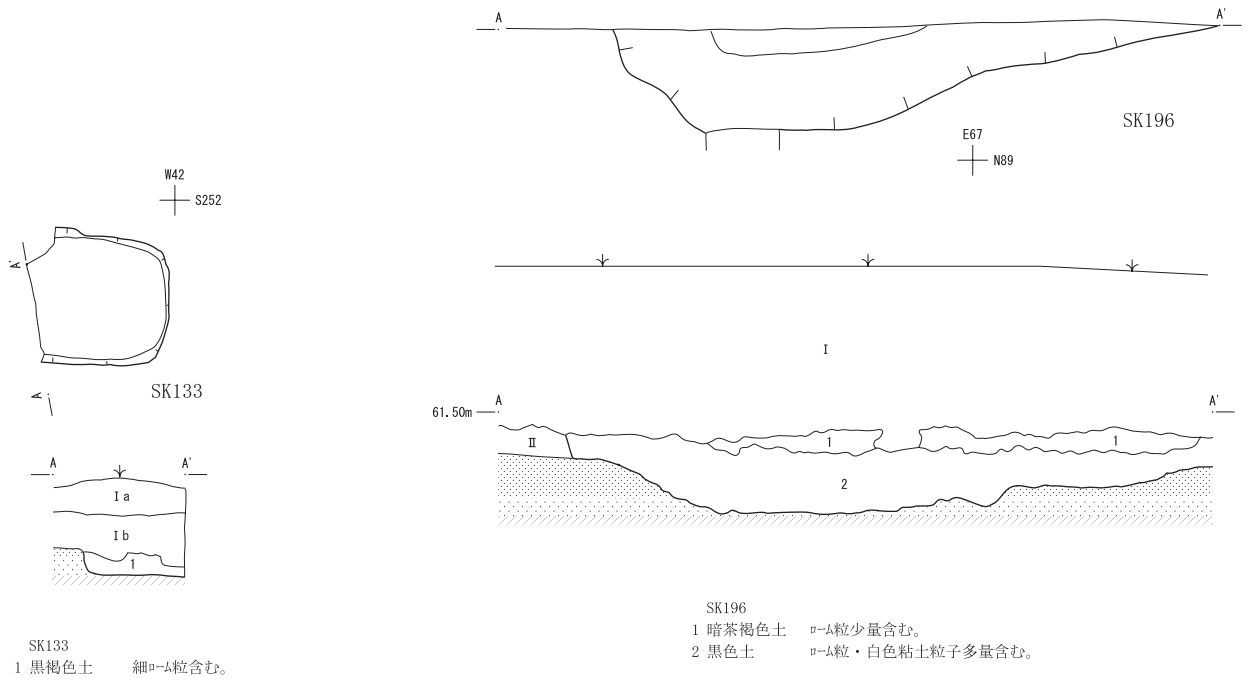


SI82

- | | |
|--------|----------------|
| 1 黒褐色土 | 細ロム・スリヤ粒子多く含む。 |
| 2 黒褐色土 | 細ロム多く含む。 |
| 3 茶褐色土 | ロム土多く含む。 |



図面9 第21次調査 SK133土坑 第26次調査 SI113・114竪穴住居 第46次調査 SK196土坑実測図



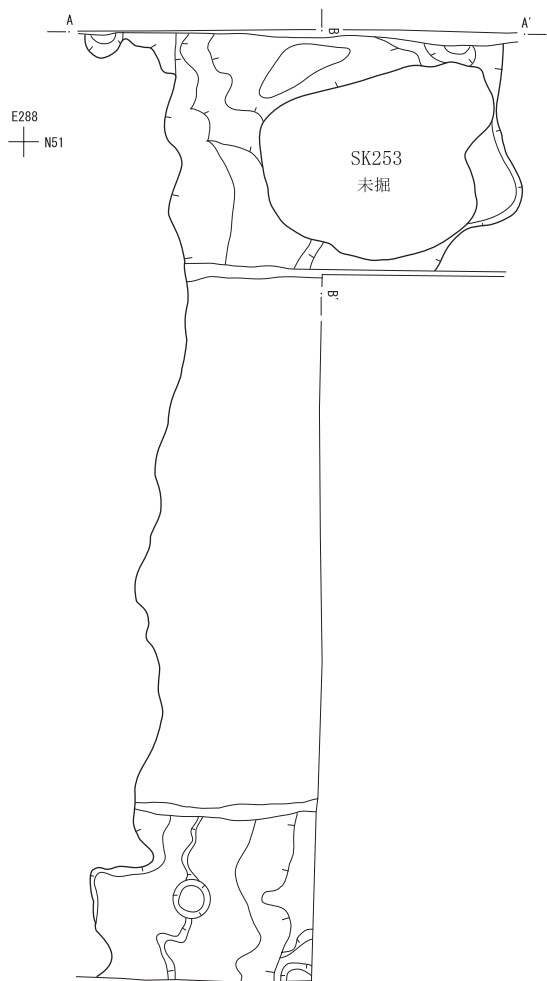
SI114

- 1 黒褐色土 \square - Δ ・木炭・焼土粒多く含む。
- 2 暗灰褐色土 粘土・木炭・焼土粒含む。
- 3 黒褐色土 木炭・焼土粒少量含む。
- 4 暗灰褐色土 木炭・焼土粒含み、粘土粒少量含む。
- 5 暗茶褐色土 \square - Δ 土含み、木炭粒微量含む。
- 6 赤褐色土 焼土
- 7 黒褐色土 \square - Δ 粒・焼土粒少量含む。
- 8 黄褐色土 \square - Δ 7° \square ック多量含む。
- 9 暗黄褐色土 大粒 \square - Δ 粒多量含む。

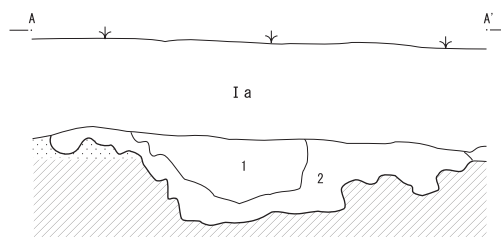
SI133

- a 黒褐色土 \square - Δ 粒・焼土粒少量含む。
- b 黒褐色土 \square - Δ 土多く含む。硬質。
- c 暗黄褐色土 \square - Δ 土多く含む。
- d 赤褐色土 焼土



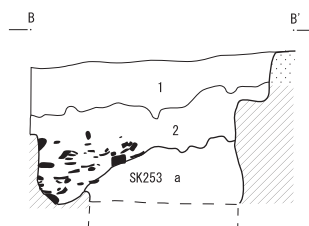


SD60



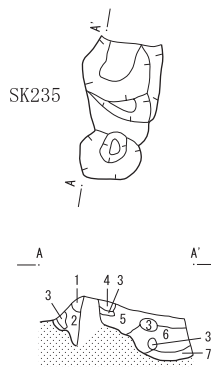
SD60

- 1 黒褐色土 細ローム粒・炭化物含
- 2 黒褐色土 細ローム粒多く、ロームブロック少量含む。



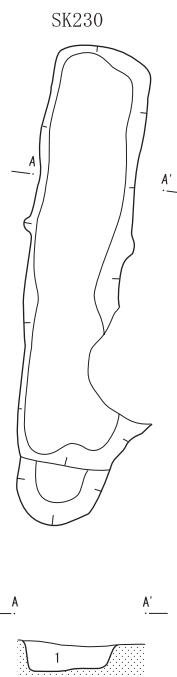
SK253

- a 暗黒褐色土 細ローム粒やや多く、ロームブロック少量含む。



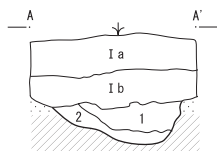
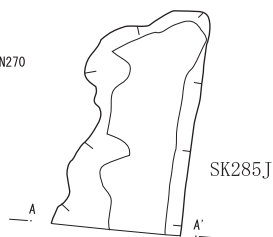
SK235

- 1 赤褐色土 焼土
- 2 黒褐色土 しまりなし。
- 3 暗赤褐色土 焼土多量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土・粘土多く含む。
- 5 暗褐色土 焼土微量含む。
- 6 暗褐色土 焼土少量含む。
- 7 茶褐色土 ローム土含む。



SK230

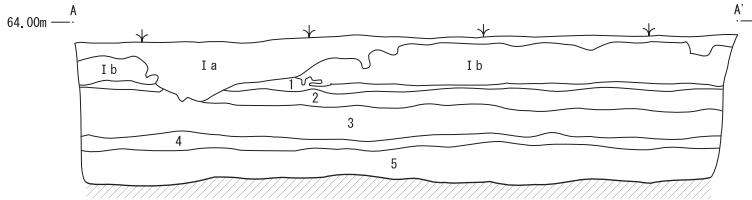
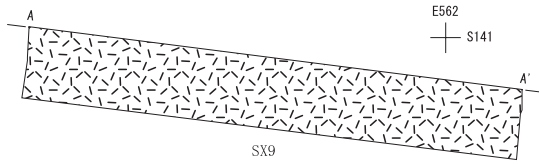
- 1 茶褐色土 ローム粒少量含む。硬質。



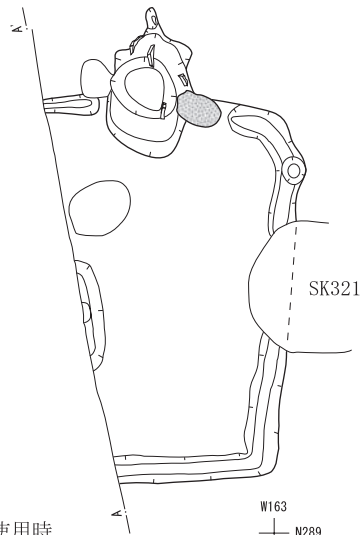
SK285J

- 1 暗茶褐色土 赤色スリット・ローム粒含
- 2 暗黄褐色土 ローム粒・ローム土多量;

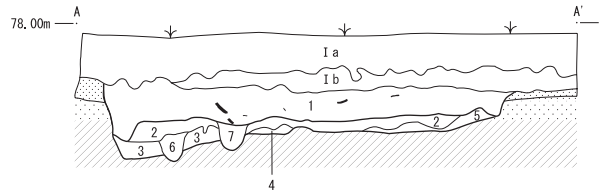




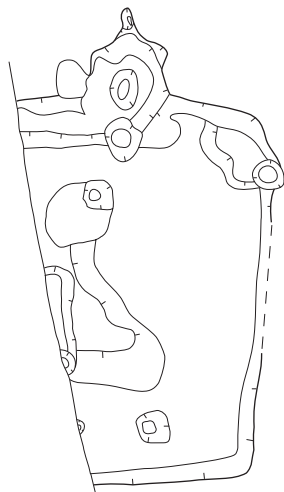
- SX9
- 1 黒褐色土 細ローム粒含む。
 - 2 暗黒褐色土 細ローム粒・ローム土多く含む。
 - 3 暗黒褐色土 大粒ローム粒多く含む。
 - 4 暗黒褐色土 大粒ローム粒多く含む。粘質。
 - 5 黄褐色土 黒褐色土少量含む。



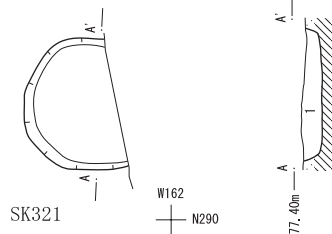
SI181使用時



- SI181
- 1 暗褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物含む。
 - 2 褐色土 ローム粒・III層ブロック含む。硬質。
 - 3 暗黄褐色土 ローム土多く含む。硬質。
 - 4 赤褐色土 焼土ブロック多量含む。
 - 5 茶褐色土 ローム粒微量含む。
 - 6 褐色土 汚れローム土・スリヤ含む。
 - 7 黒褐色土 ローム粒・焼土粒・炭化物少量含む。

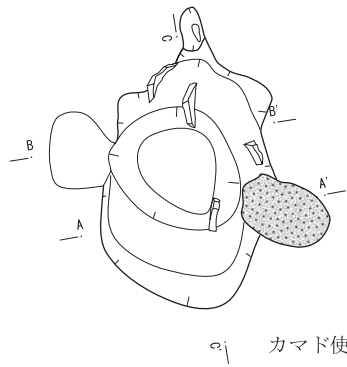
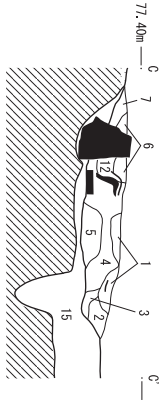


SI181構築時

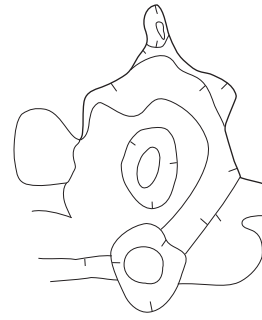


- SK321
- 1 茶褐色土 ローム粒少量含む。





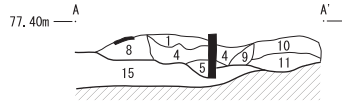
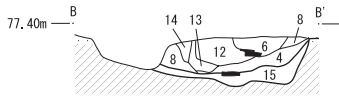
W163
+ N292



W163
+ N292

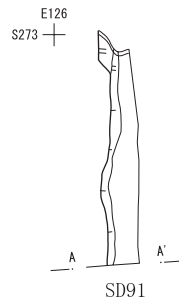
カマド使用時

カマド構築時

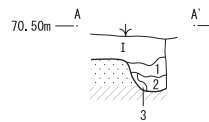


SI181カマド

- | | |
|----------|----------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒含む。 |
| 2 明褐色土 | 焼土・黄色粘土含む。 |
| 3 暗褐色土 | 焼土粒含む。 |
| 4 褐色土 | 焼土粒・粘土粒多量含む。 |
| 5 暗黄褐色土 | ローム粒・焼土粒含む。 |
| 6 暗灰褐色土 | 灰・焼土含む。 |
| 7 暗茶褐色土 | 焼土粒・炭化物微量含む。 |
| 8 黒褐色土 | 細ローム粒多く、焼土粒・炭化物少量含む。 |
| 9 暗黄褐色土 | 大粒ローム粒・焼土粒・炭化物含む。 |
| 10 暗茶褐色土 | 大粒粘土粒多く、焼土粒・炭化物少量含む。 |
| 11 黒褐色土 | 細ローム粒含む。 |
| 12 暗黄褐色土 | 大粒ローム粒多量、焼土多く含む。 |
| 13 暗赤褐色土 | 細ローム粒多量含む。 |
| 14 暗茶褐色土 | ローム粒・焼土粒少量含む。 |
| 15 暗黄褐色土 | 構築土 |



SD91

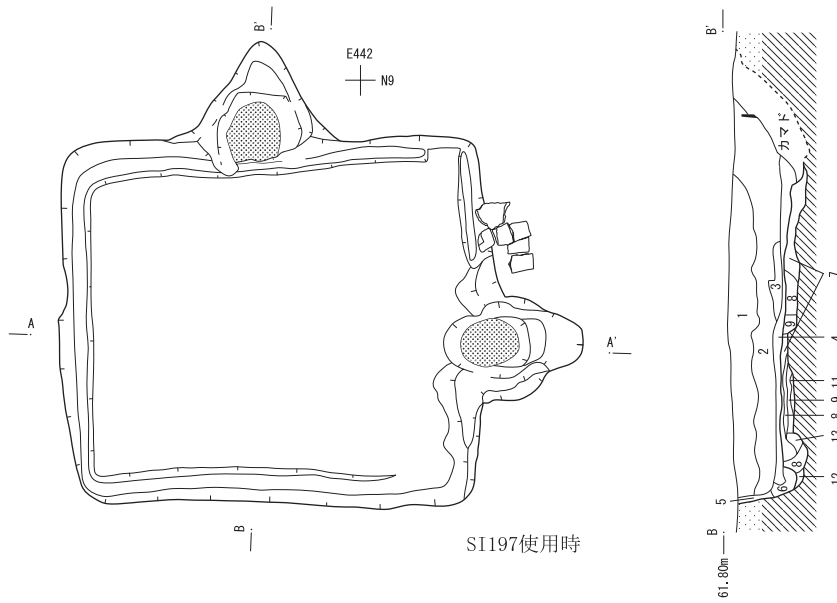


SD91

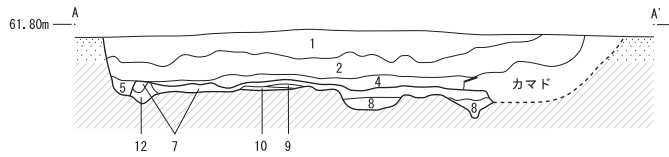
- | | |
|--------|---------------------|
| 1 暗褐色土 | ローム粒子・ローム土含む。 |
| 2 黒褐色土 | ローム7' ロック少量含む。 |
| 3 茶褐色土 | ローム土・ローム7' ロック多く含む。 |



図面13 第88次調査 SI197竪穴住居実測図



SI197使用時



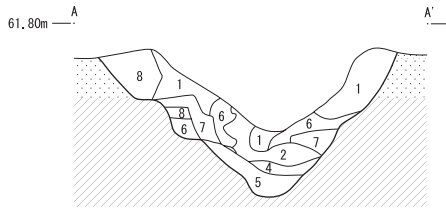
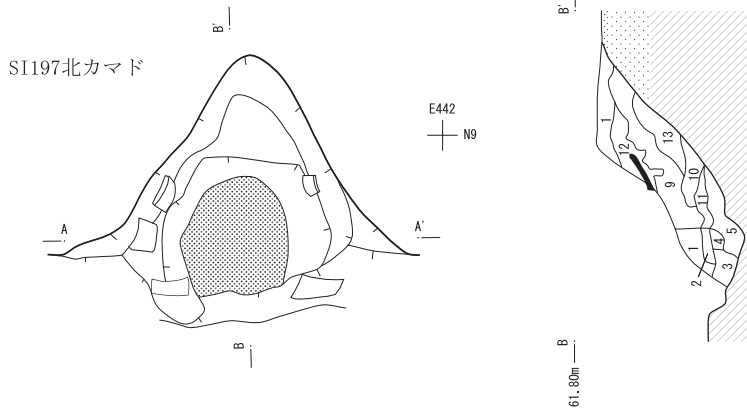
SI197構築時

SI197

- 1 黒褐色土 細ローム・焼土・粘土粒・炭化物少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム・焼土粒やや多く、粘土粒・炭化物少量含む。
- 3 黒褐色土 焼土粒やや多く、ローム粒・炭化物微量含む。
- 4 黒褐色土 ローム粒やや多く、焼土粒・炭化物微量含む。
- 5 黒褐色土 ローム粒やや多く含む。
- 6 暗黄褐色土 ローム土多量含む。
- 7 黒褐色土 細ローム・ローム粒やや多く含む。
- 8 暗褐色土 ローム土多量含む。
- 9 黒色土 細ローム少量含む。
- 10 黒色土 ローム土多く、粘土粒少量含む。
- 11 暗黄褐色土 ローム土多く含む。
- 12 暗黄褐色土 汚れたローム土多く含む。
- 13 暗茶褐色土 ローム土多く含む。

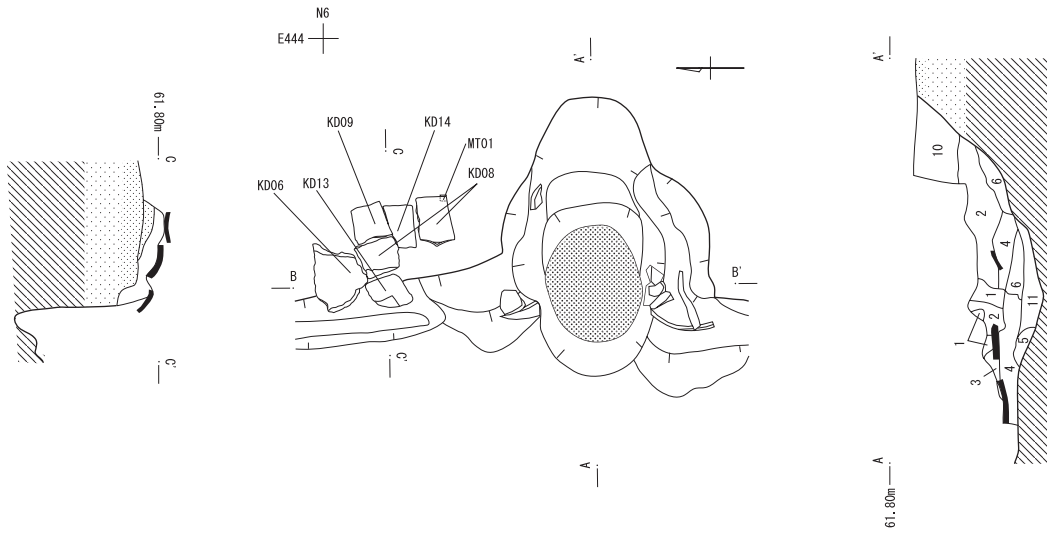


図面14 第88次調査 SI197竪穴住居カマド実測図



SI197北カマド

- | | |
|----------|-------------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒・焼土粒・粘土粒少量、炭化物微量含む。 |
| 2 灰褐色土 | ローム土・焼土少量、灰多く含む。 |
| 3 灰褐色土 | ローム土・焼土・灰やや多く含む。 |
| 4 赤褐色土 | 焼土ブロック。 |
| 5 暗黄褐色土 | ローム土多量、焼土微量含む。 |
| 6 暗茶褐色土 | ローム土・粘土少量。 |
| 7 暗黄褐色土 | ローム土多量、焼土少量含む。 |
| 8 暗褐色土 | ローム土少量含む。 |
| 9 灰褐色土 | ローム土少量、焼土粒多く含む。 |
| 10 赤褐色土 | 灰・焼土粒多量、炭化物少量含む。 |
| 11 暗黄褐色土 | ローム土多く、焼土・灰・炭化物少量含む。 |
| 12 黒褐色土 | 粘土粒・焼土粒多く含む。 |
| 13 暗灰褐色土 | ローム土・炭化物少量、焼土粒多く含む。 |



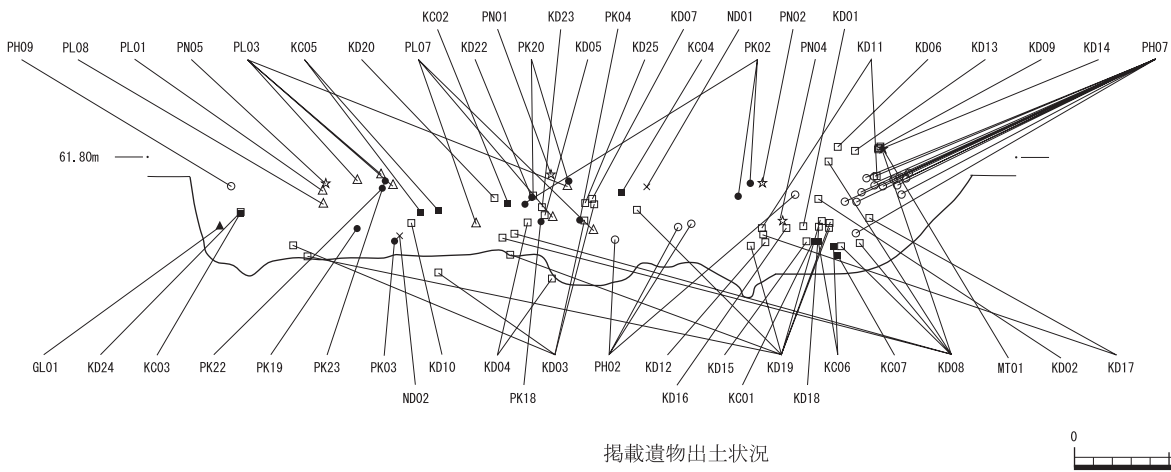
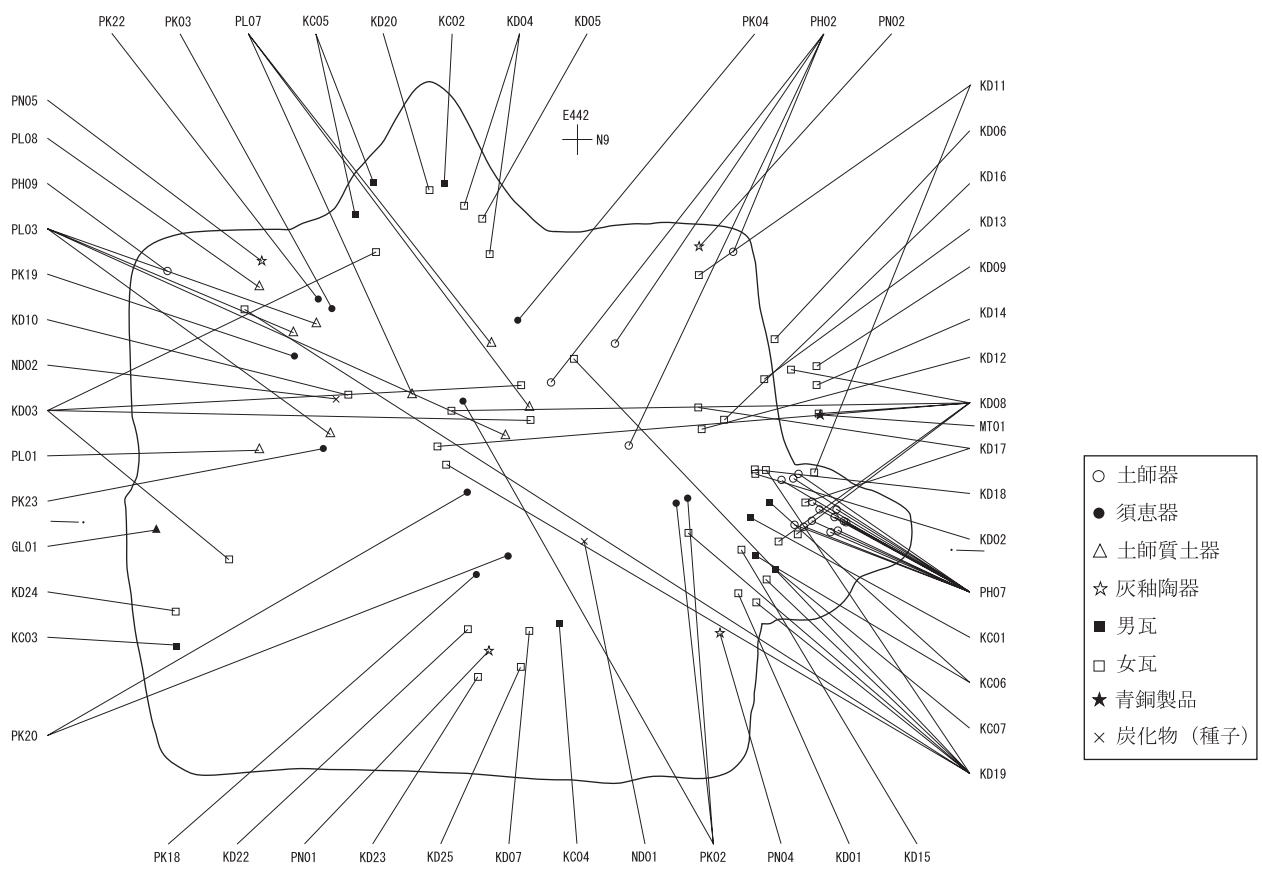
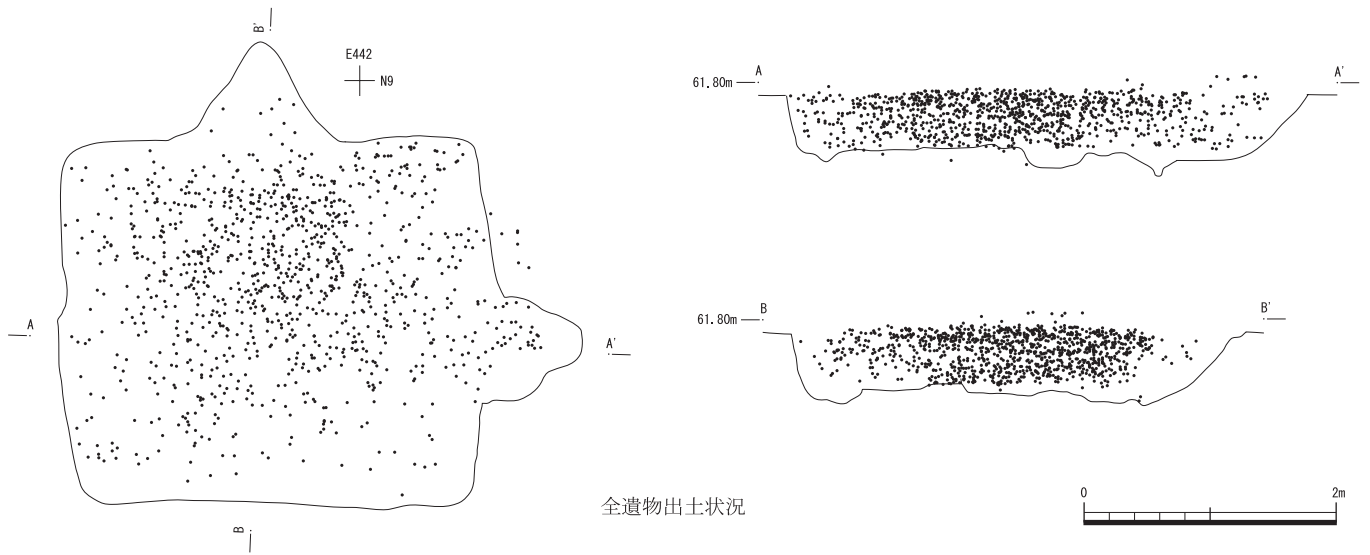
SI197東カマド

SI197東カマド

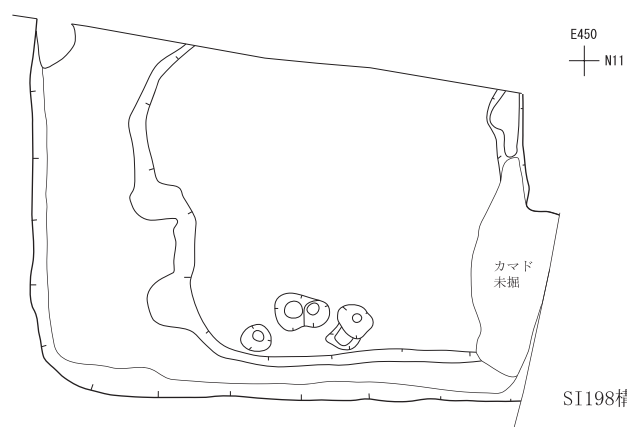
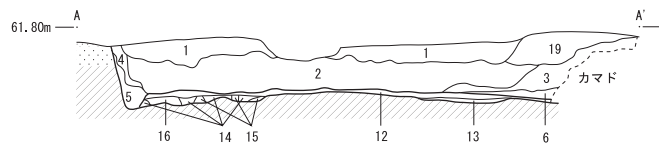
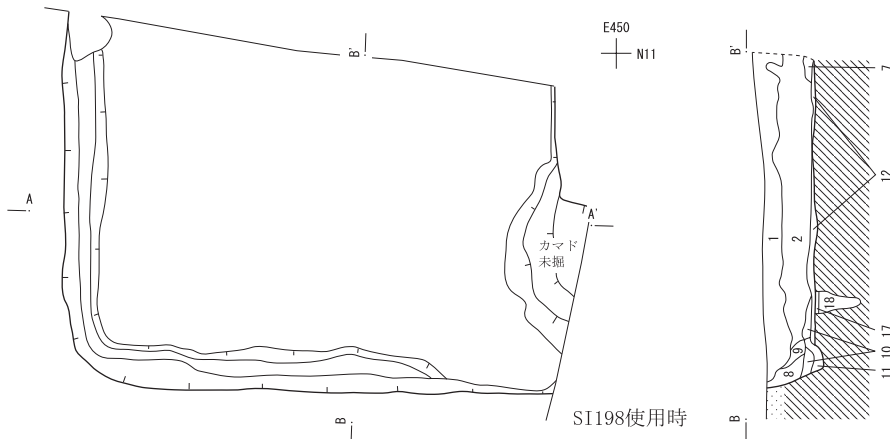
- | | | | |
|---------|-----------------|-----------|------------------------|
| 1 黒色土 | 粘土粒微量含む。 | 9 暗黄褐色土 | ローム多量、粘土粒やや多く、焼土粒少量含む。 |
| 2 赤灰褐色土 | 灰・焼土粒多く含む。 | 10 黒色土 | 粘土粒少量含む。 |
| 3 灰褐色土 | 粘土粒多く、ローム粒少量含む。 | 11 暗赤灰褐色土 | 灰・焼土粒多量、ローム粒少量含む。 |
| 4 赤灰褐色土 | 灰・焼土粒多量含む。 | 12 黒色土 | 細ローム粒やや多く、 |
| 5 黒色土 | 細焼土粒微量含む。 | 13 黒褐色土 | 灰褐色土・焼土・粘土粒混じる。 |
| 6 暗黄褐色土 | ローム土多量、焼土粒少量含む。 | 14 暗茶褐色土 | 細ローム粒やや多く、 |
| 7 黒色土 | ローム・焼土・粘土粒少量含む。 | 15 黄褐色土 | 焼土・粘土粒多く、炭化物少量含む。 |
| 8 暗黄褐色土 | ローム粒多量、焼土・ | 16 暗黄褐色土 | 焼土・粘土粒混じる。 |



図面15 第88次調査 SI197竪穴住居遺物出土状況

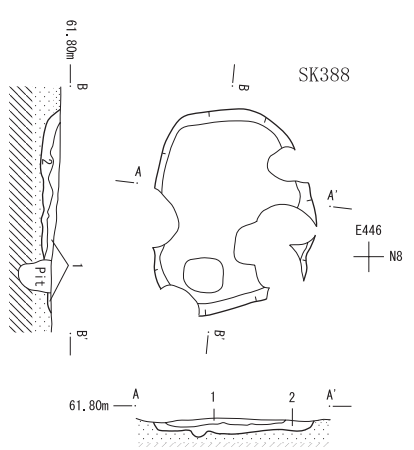


図面16 第88次調査 SI198竪穴住居・SD87溝 SK387・388土坑実測図

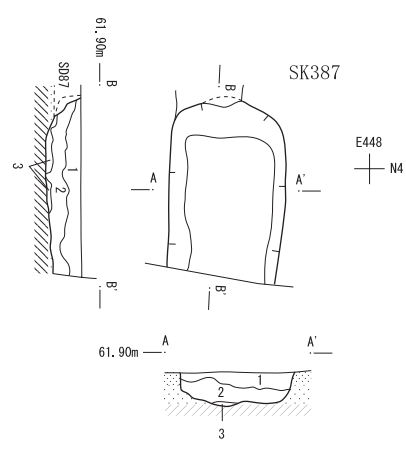


SI198

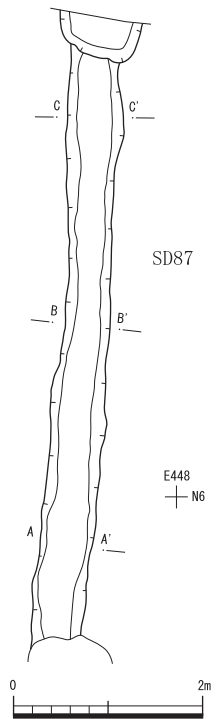
- 1 黒褐色土 細ローム・焼土粒少量含む。
- 2 黒褐色土 ローム・焼土粒多く、
- 3 黒褐色土 粘土粒多く、ローム・
- 4 暗茶褐色土 焼土粒やや多く、ローム・粘土粒少量含む。
- 5 暗黄褐色土 ローム多量含む。
- 6 暗茶褐色土 ローム多く、粘土粒少量含む。
- 7 黒褐色土 ローム土やや多く、粘土・炭化粒少量含む。
- 8 黒褐色土 細ローム・ローム土・焼土粒少量含む。
- 9 黒褐色土 細ローム・焼土粒少量、ローム土微量含む。
- 10 黒褐色土 細ローム粒やや多く、
- 11 暗茶褐色土 ローム多量、粘土粒少量含む。
- 12 黒色土 ローム・粘土粒少量含む。
- 13 黄褐色土 ロームアブロック多く含む。
- 14 黒色土 ローム粒少量、ローム土微量含む。
- 15 黄褐色土 ローム土・黒色土少量含む。
- 16 黄褐色土 ローム土・黒色土多く含む。
- 17 黒色土 ローム粒・ロームアブロック少量含む。
- 18 黒褐色土 ローム粒・ローム土多く含む。
- 19 黒褐色土 細ローム・焼土粒少量、細粘土粒多く含む。



- SK388
- 1 黒褐色土 細ローム粒微量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒少量含む。



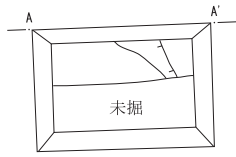
- SK387
- 1 黒褐色土 ローム粒やや多く、炭化・粘土・焼土粒微量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒・アブロックやや多く含む。
 - 3 暗黄褐色土 ローム土多い。



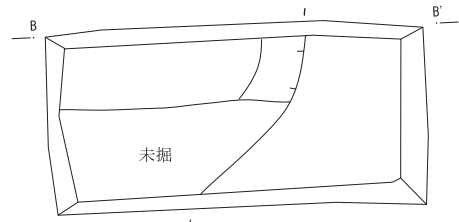
- SD87
- 1 黒褐色土 ローム粒少量含む。
 - 2 黒褐色土 ローム粒・焼土粒微量含む。
 - 3 暗褐色土 ローム土やや多く含む。
 - 4 暗茶褐色土 ローム土多く含む。



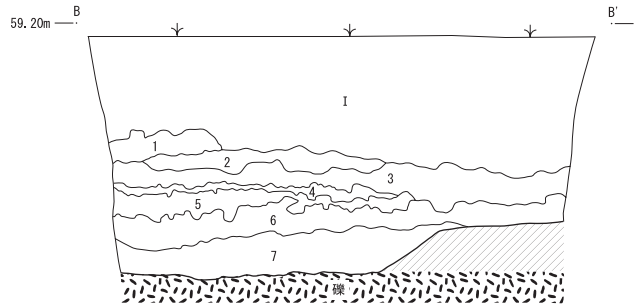
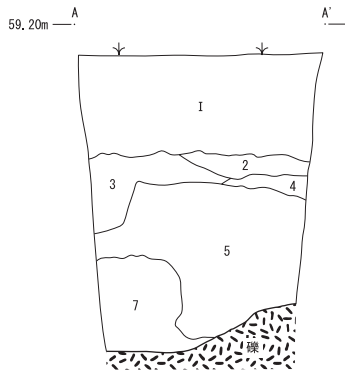
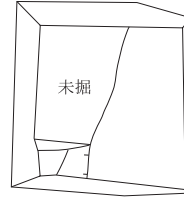
図面17 第89次調査 SD23溝 第92次調査 SI202竪穴住居実測図



E234
+ S309

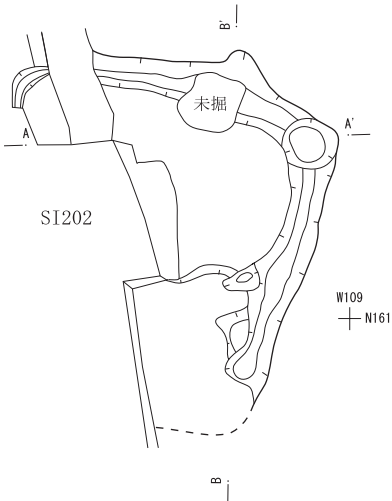


SD23



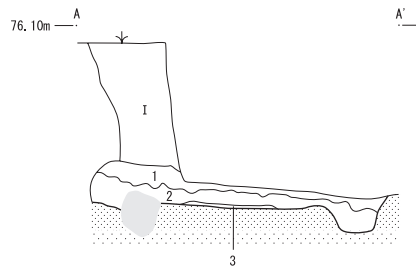
SD23

- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 明褐色土 | ローム粒子やや多く含む。 |
| 2 明黄褐色土 | ロームアロク多量含む。粘性しまりなし。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒子・スリア多く、炭化物少量含む。 |
| 4 暗赤褐色土 | 酸化鉄含む。粘質 |
| 5 暗黒褐色土 | ローム粒・スリア含む。 |
| 6 黒褐色土 | ローム粒子・スリア・炭化物含む。砂状の土層 |
| 7 黒褐色土 | 粘土質。粘性しまり良い。 |



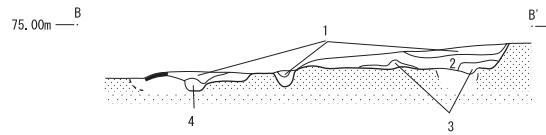
SI202

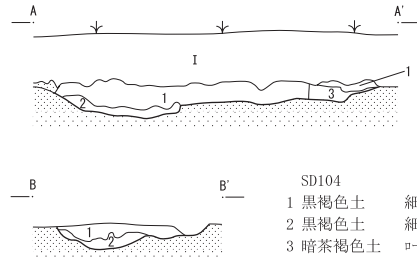
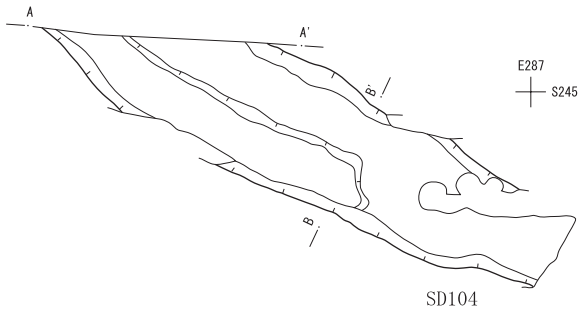
W109
+ N161



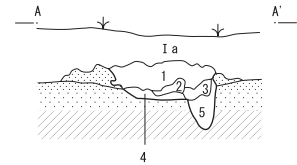
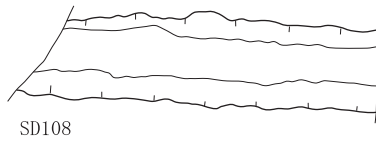
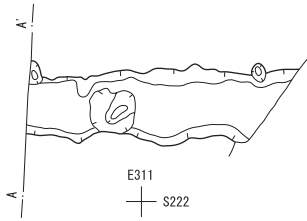
SI202

- | | |
|---------|-----------------|
| 1 暗黒褐色土 | ローム粒・スリア微量含む。 |
| 2 暗黒褐色土 | ローム粒・スリアやや多く含む。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒微量含む。 |
| 4 暗褐色土 | 焼土粒多量含む |

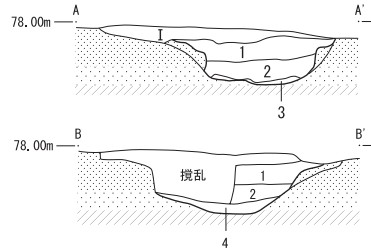
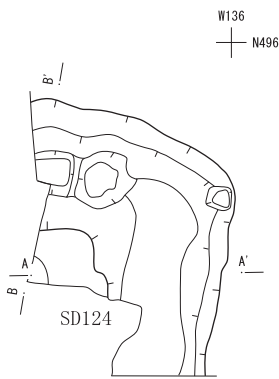




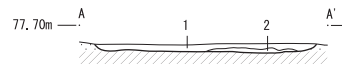
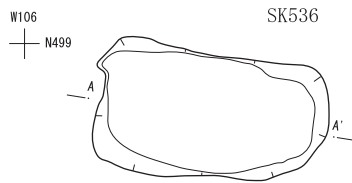
- 1 黒褐色土 細砂粒多く含む。
- 2 黒褐色土 細砂粒多く、褐色土含む。
- 3 暗茶褐色土 砂土・褐色土含む。



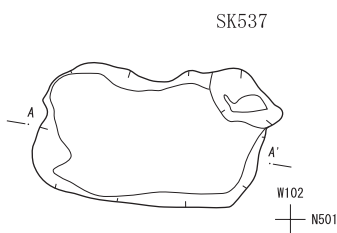
- 1 黒褐色土 細砂粒多く含む。
- 2 黒褐色土 細砂粒・砂土多く含む。
- 3 黒褐色土 細砂粒多く含む。やや軟質
- 4 茶褐色土 褐色土多く含む。
- 5 黒褐色土 大粒砂粒多く含む。



- 1 暗褐色土 大粒砂粒・ローム・ロック少量含む。
- 2 暗褐色土 細砂粒・ローム少量含む。
- 3 暗黄褐色土 褐色土やや多く含む。
- 4 暗黄褐色土 褐色土多量含む。



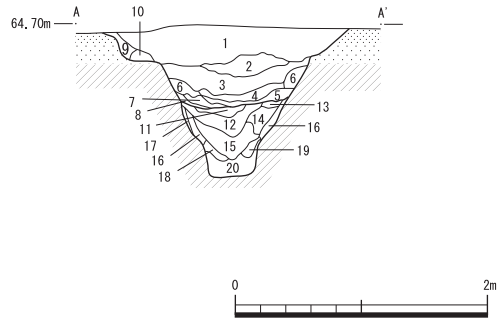
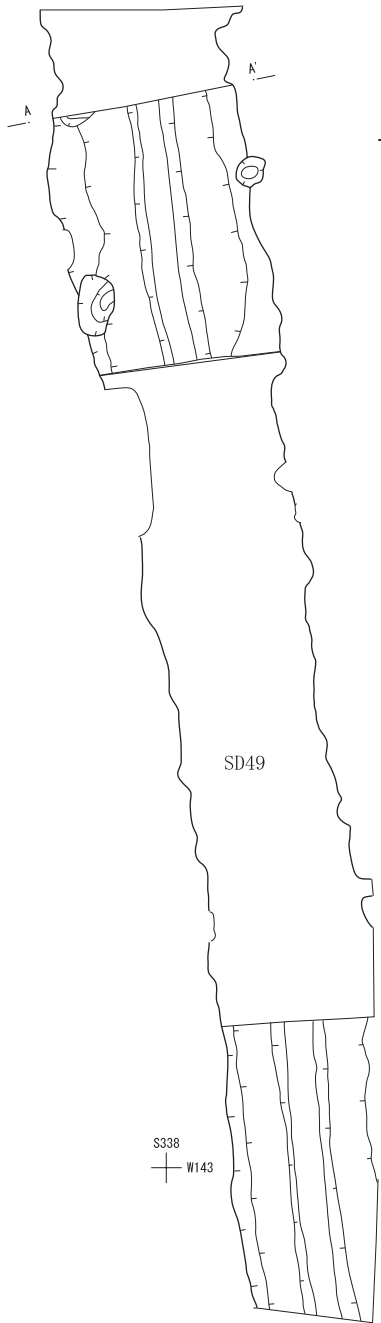
- 1 暗褐色土 細砂粒・砂粒少量含む。
- 2 褐色土 砂土やや多く含む。



- 1 暗褐色土 細砂粒多く・砂粒少量含む。

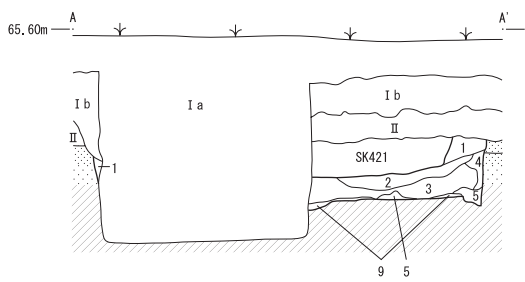
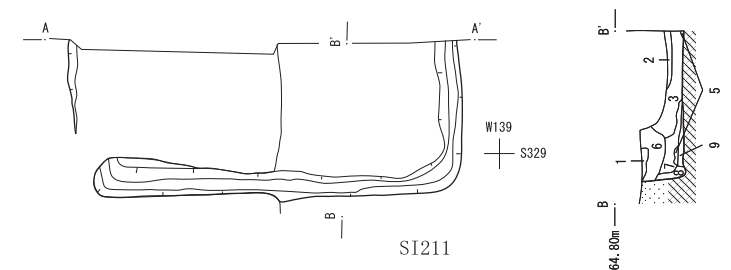


図面19 第97次調査 SD49溝・SI211竪穴住居実測図

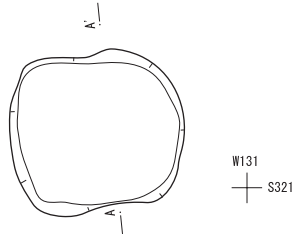


- SD49
- | | |
|----------|---|
| 1 黒褐色土 | 細 α - M 粒多く、大粒 α - M 粒少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | α - M 粒微量含む。 |
| 3 黒褐色土 | α - M 粒少量含む。 |
| 4 黒色土 | α - M 粒少量含む。 |
| 5 黒色土 | α - M 粒やや多く含む。 |
| 6 黒褐色土 | 細 α - M 粒やや多く含む。 |
| 7 黒色土 | α - M 粒微量含む。 |
| 8 黒褐色土 | α - M 粒やや多く含む。 |
| 9 暗褐色土 | 細褐色土粒子含む。 |
| 10 暗茶褐色土 | 褐色土粒子多量含む。 |
| <hr/> | |
| 11 暗茶褐色土 | α - M 粒少量含む。 |
| 12 暗黄褐色土 | 大粒 α - M 粒多量含む。 |
| 13 黒色土 | α - M 粒微量含む。 |
| 14 茶褐色土 | α - M 粒微量含む。 |
| 15 暗黄褐色土 | 細 α - M 粒・大粒 α - M 粒少量含む。 |
| 16 黄褐色土 | α - M 7 α ロック多量含む。 |
| 17 暗褐色土 | α - M 粒少量含む。 |
| 18 黒褐色土 | α - M 粒微量含む。 |
| 19 暗黄褐色土 | 細 α - M 多量含む。 |
| 20 黒褐色土 | 細 α - M 粒・大粒 α - M 粒やや多く含む。 |
- b 期覆土
- a 期覆土

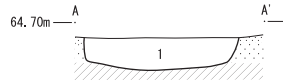
- SI211
- | | |
|---------|---------------------------|
| 1 黒褐色土 | α - M 土微量含む。 |
| 2 黒褐色土 | α - M 土少量含む。 |
| 3 黒褐色土 | α - M 粒少量含む。 |
| 4 黒褐色土 | 細 α - M 粒やや多く含む。 |
| 5 茶褐色土 | α - M 土多量含む。 |
| 6 黒褐色土 | 細 α - M 粒多く含む。 |
| 7 暗茶褐色土 | α - M 土多量含む。 |
| 8 暗茶褐色土 | α - M 土多く含む。 |
| 9 黄褐色土 | α - M 土多量含む。 |



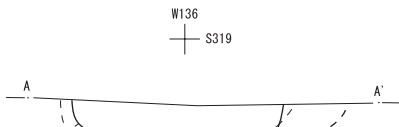
図面20 第97次調査 SK416~421土坑実測図



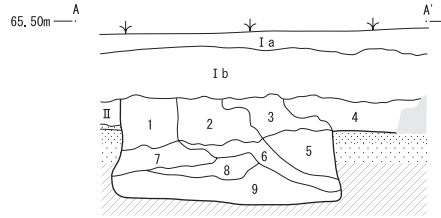
SK416



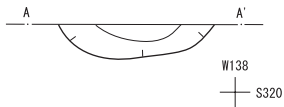
SK416
1 黒褐色土 細 μ - Δ ・大粒 μ - Δ 多く含む。



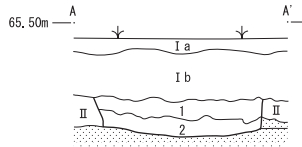
SK417



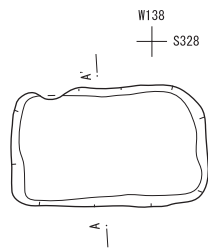
SK417
1 灰黒褐色土 μ - Δ 粒少量含む。
2 灰黒褐色土 μ - Δ 粒多く含む。
3 灰黒褐色土 μ - Δ 粒やや多く含む。
4 灰黒褐色土 μ - Δ 粒微量含む。
5 黒褐色土 μ - Δ 土少量含む。
6 黒褐色土 μ - Δ 粒多く含む。
7 黒褐色土 細 μ - Δ 粒少量含む。
8 黒褐色土 μ - Δ 土やや多く含む。
9 黒褐色土 大粒 μ - Δ 粒多く含む。



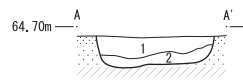
SK418



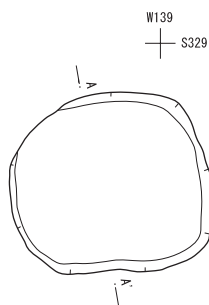
SK418
1 黒褐色土 表土に似る
2 黒褐色土 粒子粗い。II層に似る。



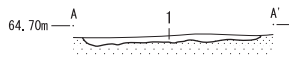
SK419



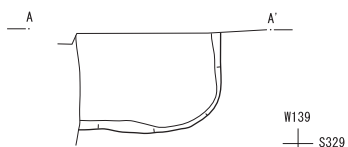
SK419
1 黒褐色土 μ - Δ 粒少量、茶褐色土含む。
2 黒褐色土 μ - Δ 粒少量、褐色土含む。



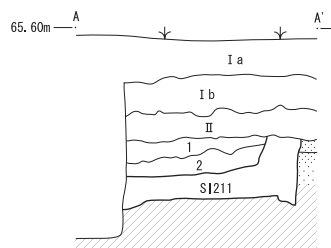
SK420



SK420
1 黒褐色土 μ - Δ 粒微量含む。



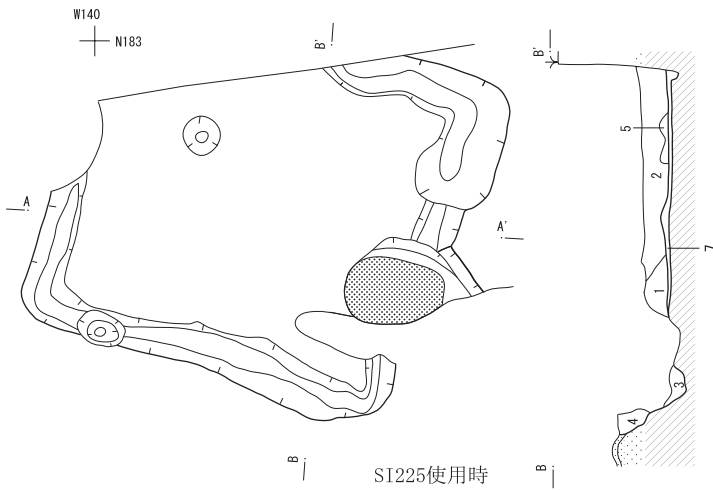
SK421



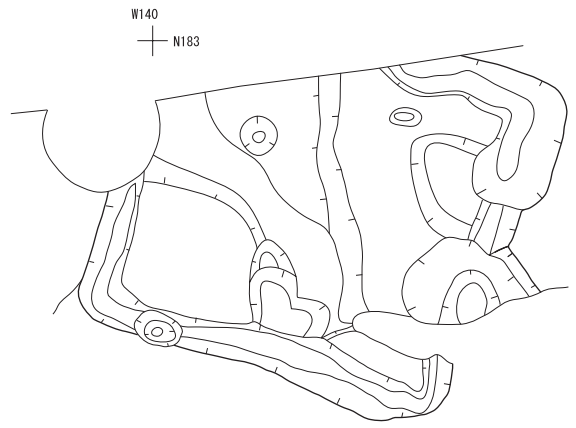
SK421
1 黒褐色土 μ - Δ 粒少量含む。
2 黒褐色土 μ - Δ 粒やや多く含む。



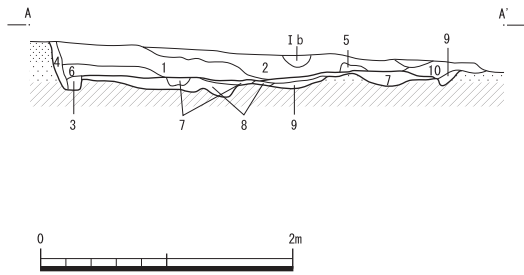
図面21 第102次調査 SI225竪穴住居実測図



SI225使用時



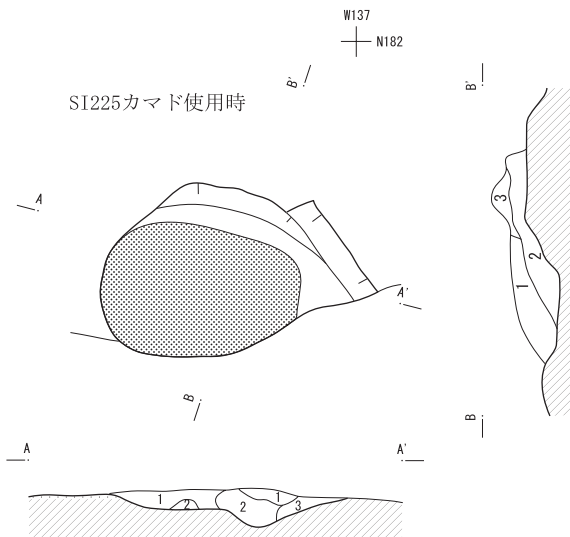
SI225構築時



SI225

- 1 暗褐色土 ローム粒・スコリア微量含む。
- 2 暗黒褐色土 ローム粒・スコリア微量含む。
- 3 暗褐色土 ローム粒子・ブロック少量含む。
- 4 茶褐色土 ロームブロック多く含む。
- 5 暗褐色土 ローム粒・スコリア微量・焼土粒・灰白色粘土ブロック含む。
- 6 暗褐色土 ローム土・灰白色粘土多く含む。
- 7 黒褐色土 ローム土・焼土粒少量含む。硬質
- 8 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。硬質
- 9 茶褐色土 ロームブロック多量含む。

SI225カマド使用時

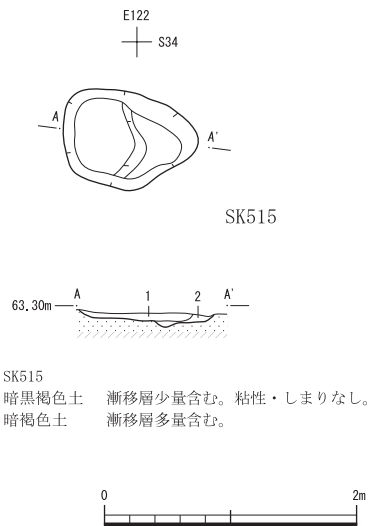
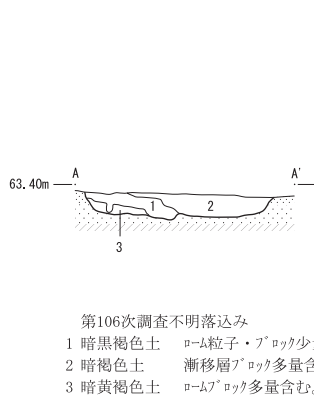
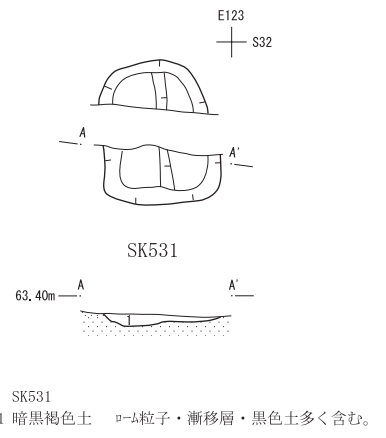
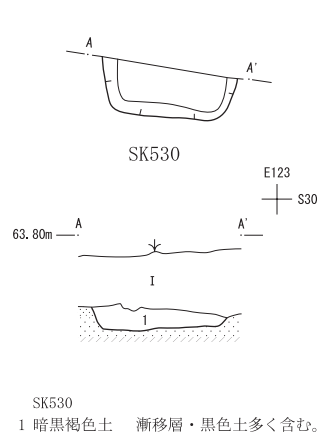
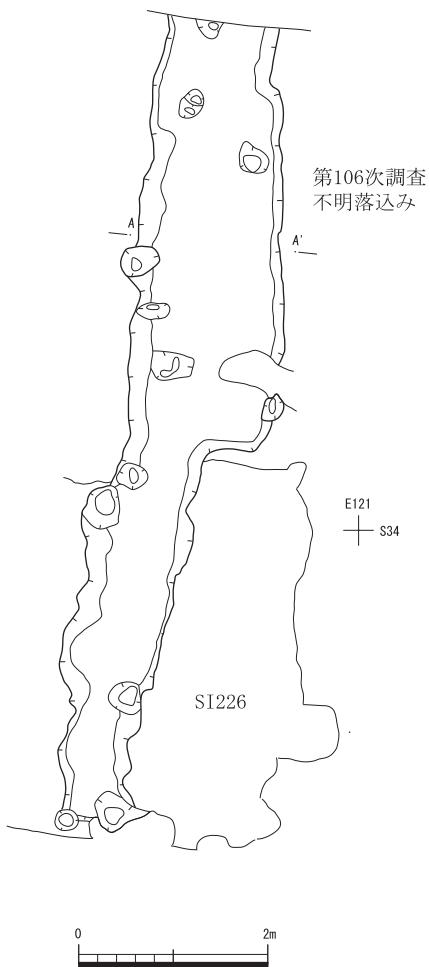
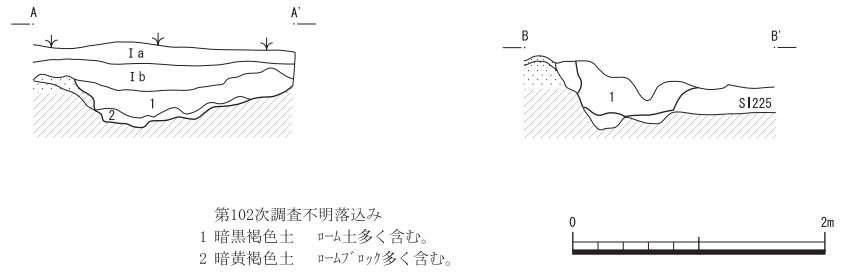
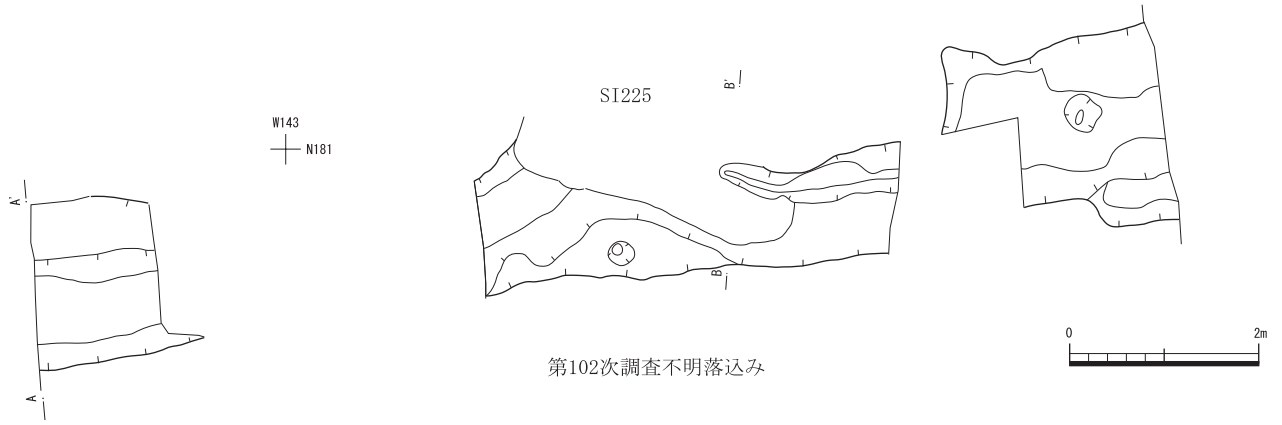


SI225カマド構築時

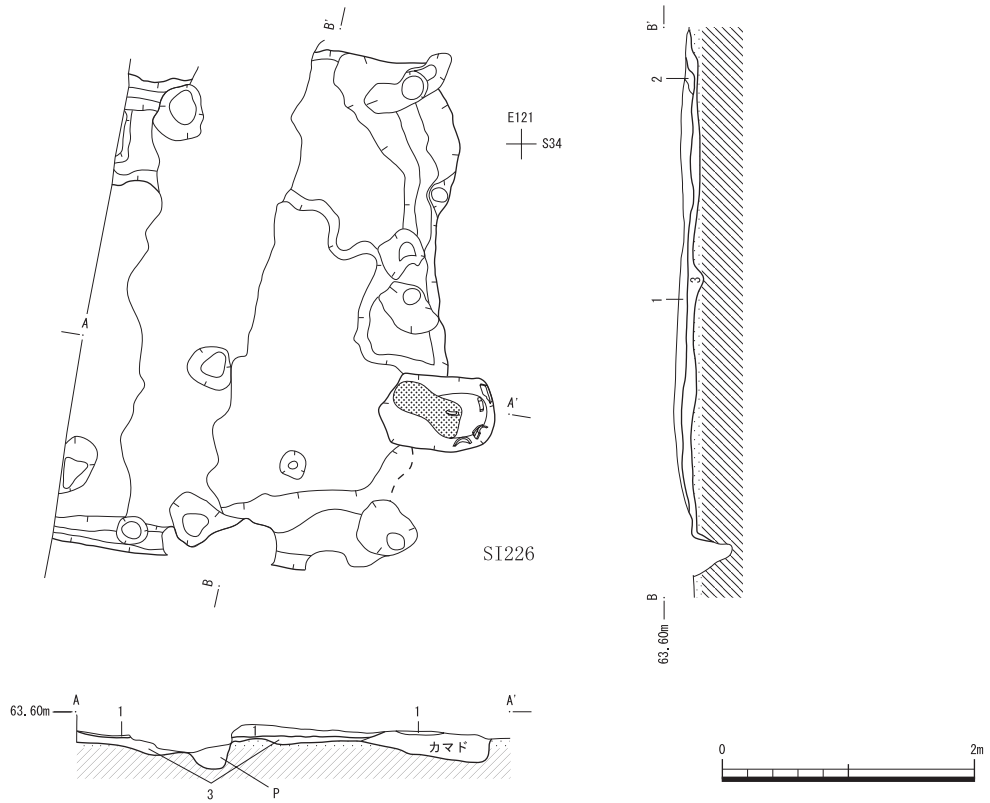
SI225カマド

- 1 暗赤褐色土 焼土粒多量、白色粘土粒子少量含む。
- 2 暗褐色土 焼土粒子少量含む。
- 3 暗灰白色粘土 褐色土少量含む。





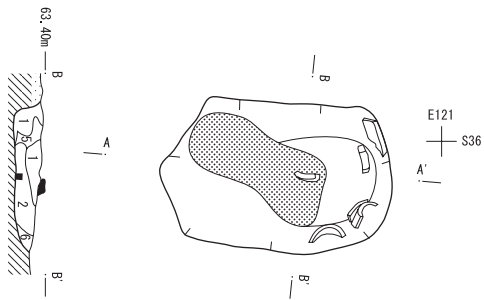
図面23 第106次調査 SI226竪穴住居実測図



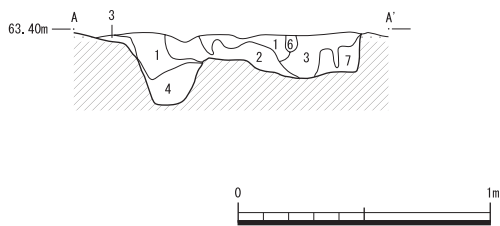
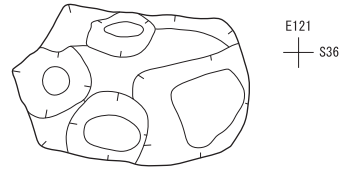
SI226

- 1 暗黒褐色土 ローム・スコリア粒子微量含む。
- 2 暗黒褐色土 ローム粒子少量含む。
- 3 暗黄褐色土 漸移層ﾌﾞﾛｯｸ・ローム粒子多量含む。硬質

SI226カマド使用時

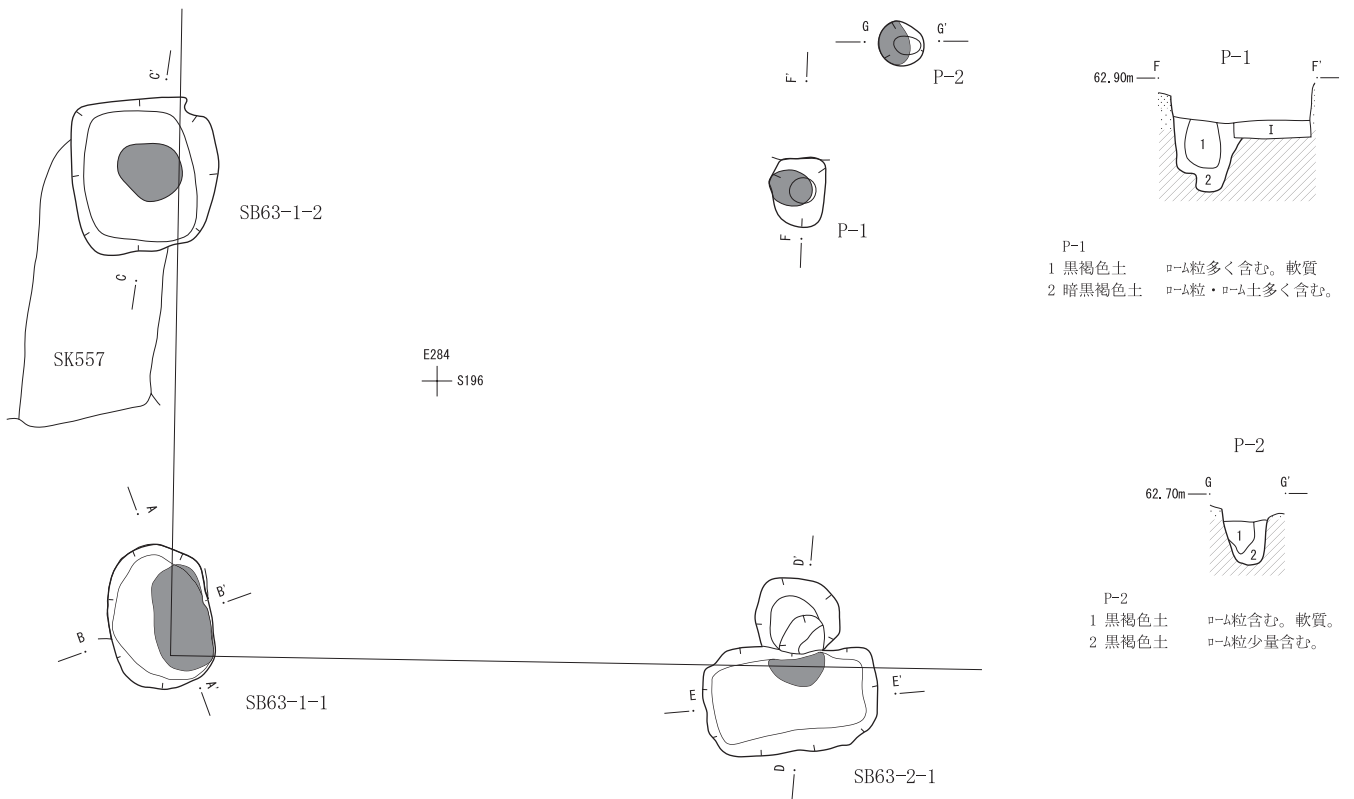


SI226カマド構築時



SI226カマド

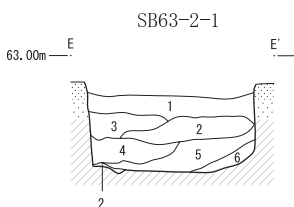
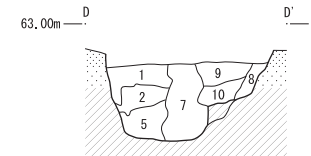
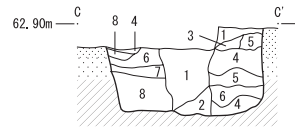
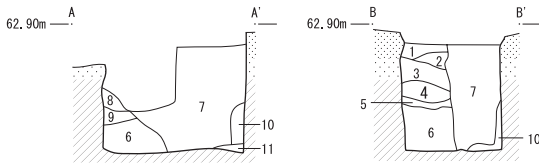
- 1 暗黒褐色土 焼土粒子・灰白色土多く含む。
- 2 赤褐色土 焼土粒子多量、白色粘土粒子少量含む。
- 3 暗褐色土 焼土粒子・炭化物少量含む。
- 4 暗褐色土 ローム粒・ローム土多く含む。
- 5 黒褐色土 焼土粒子少量含む。
- 6 暗褐色土 IIIc層ﾌﾞﾛｯｸ
- 7 暗褐色土 ローム粒・ローム土多く、焼土粒子少量含む。



SB63-1-1

SB63-1-2

SB63-2-1



SB63 1-1

- 1 黒褐色土 汚れたローム土含む。硬くしまる。
- 2 暗黄褐色土 ローム土多く含む。硬くしまる。
- 3 暗黒褐色土 細ローム粒・ローム土含む。硬くしまる。
- 4 茶褐色土 ロームブロック多く含む。硬くしまる。
- 5 暗黄褐色土 ロームブロック多く含む。硬くしまる。
- 6 黒褐色土 汚れたローム粒や多く含む。硬くしまる。
- 7 黒褐色土 汚れたローム粒多く含む。軟質
- 8 暗黄褐色土 ローム土多く含む。硬くしまる。
- 9 暗黒褐色土 ロームブロック少量含む。
- 10 黒褐色土 大粒ローム粒・ローム土含む。
- 11 暗黒褐色土 ローム土含む。

SB63 1-2

- 1 暗褐色土 細ローム多量含む。粘性なく、しまり無し。
- 2 暗黄褐色土 ローム土多く含む。粘性なく、しまり無し。
- 3 暗茶褐色土 ロームブロック・黒褐色土含む。硬くしまる。
- 4 暗黄褐色土 汚れたローム土やや多く含む。硬くしまる
- 5 黄褐色土 ロームブロック多量含む。硬くしまる。
- 6 暗黒褐色土 ロームブロックやや多く含む。硬くしまる。
- 7 暗黄褐色土 汚れたローム土多く含む。硬くしまる。
- 8 暗褐色土 ロームブロック少量含む。硬くしまる。

SB63 2-1

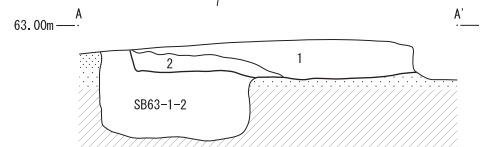
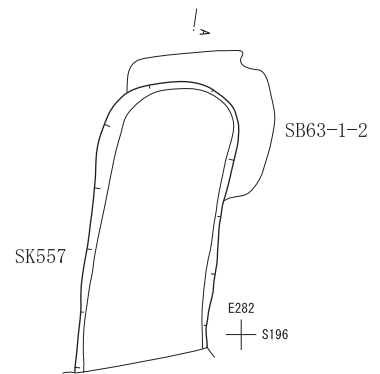
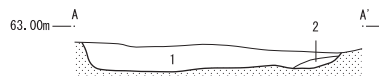
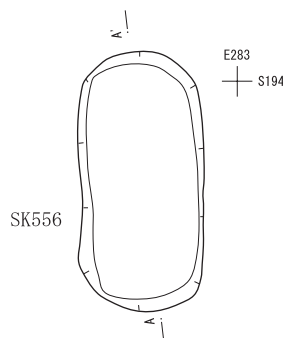
- 1 黒褐色土 大粒ローム粒・ローム土含む。硬くしまる。
- 2 暗黒褐色土 細ローム粒含む。硬くしまる。
- 3 黒褐色土 ローム土・ロームブロック少量含む。硬くしまる。
- 4 暗黄褐色土 ローム土多量含む。硬くしまる
- 5 黒褐色土 ロームブロック含む。硬くしまる。
- 6 暗黄褐色土 ローム土含む。軟質。
- 7 暗黒褐色土 細ローム粒多量含む。軟質。
- 8 黒褐色土 汚れたローム土含む。硬くしまる。
- 9 黒褐色土 細ローム粒・ローム土含む。やや軟質。
- 10 暗黒褐色土 細ローム粒・ローム土含む。やや軟質。

SK556

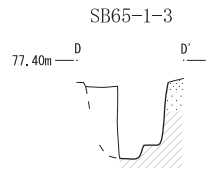
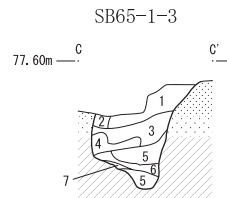
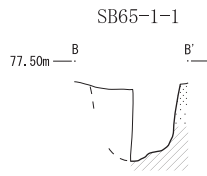
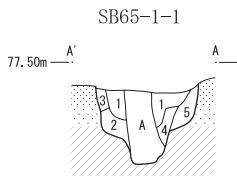
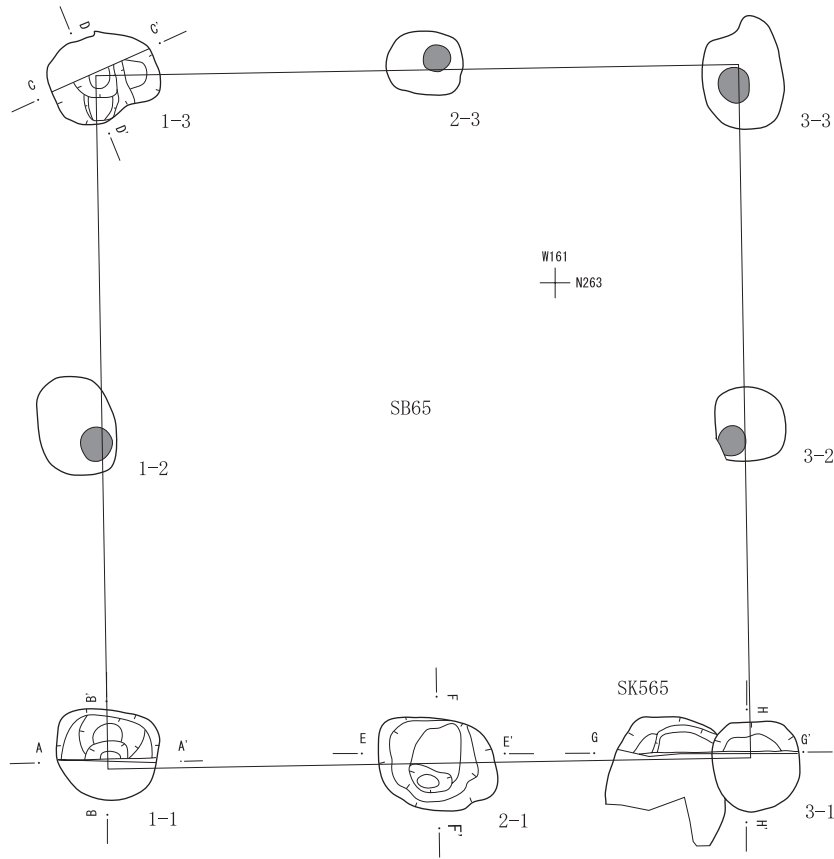
- 1 黒褐色土 褐色土ブロック多く含む。
- 2 黒褐色土 ローム土多く含む。

SK557

- 1 暗茶褐色土 ロームブロック少量含む。
- 2 黒褐色土 褐色土ブロック含む。

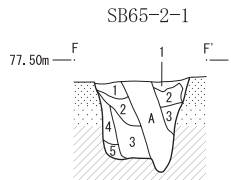
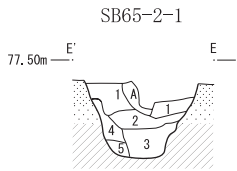


図面25 第120次調査 SB65掘立柱建物・SK565土坑実測図

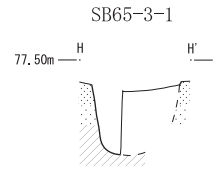
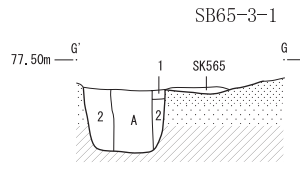


- SB65 1-1
- | | |
|--------|------------------|
| A 黒褐色土 | 柱痕 |
| 1 黒褐色土 | ローム粒少量含む。やや軟質。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒・ローム土やや多く含む。 |
| 3 暗褐色土 | ローム粒・ローム土やや多く含む。 |
| 4 暗褐色土 | ローム粒・ローム土多く含む。 |
| 5 暗褐色土 | ローム粒・ローム土少量含む。 |

- SB65 1-3
- | | |
|---------|-----------------------|
| 1 黒褐色土 | ローム粒少量含む。 |
| 2 黒褐色土 | ローム土少量含む。 |
| 3 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム7'ロック多く含む。 |
| 4 黒褐色土 | ローム粒微量含む。 |
| 5 暗褐色土 | ローム土少量含む。硬くしまる。 |
| 6 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム7'ロック多く含む。軟質。 |
| 7 黒褐色土 | ローム粒微量含む。軟質。 |

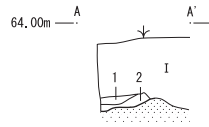
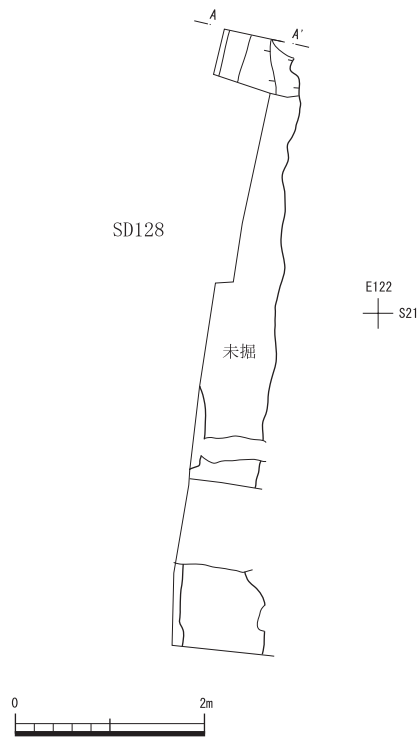


- SB65 2-1
- | | |
|---------|--------------------|
| A 黒褐色土 | 柱痕 |
| 1 黒褐色土 | ローム粒少量含む。硬質。 |
| 2 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム7'ロック多く含む。 |
| 3 黒褐色土 | ローム粒・ローム7'ロック少量含む。 |
| 4 暗黄褐色土 | ローム粒・ローム7'ロック多量含む。 |
| 5 黒褐色土 | ローム土少量含む。軟質。 |

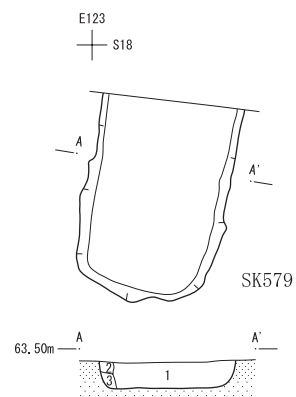


- SB65 3-1
- | | |
|--------|-------------------------|
| A 黒褐色土 | 柱痕 |
| 1 黒褐色土 | ローム粒少量含む。やや軟質。 |
| 2 黒褐色土 | ローム粒・ローム7'ロック少量含む。やや硬質。 |

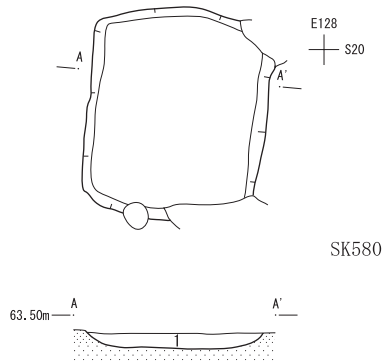




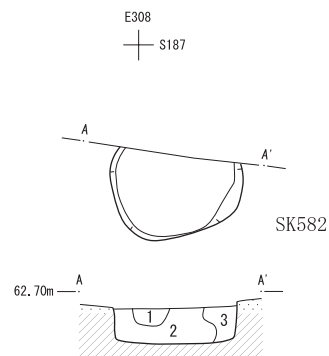
- SD128
- 1 黒褐色土 ローム粒微量含む。
- 2 暗黒褐色土 ローム粒少量含む。



- SK579
- 1 黒褐色土 ローム土・ロームブロック多く含む。
- 2 暗黒褐色土 ローム土・ロームブロックやや多く含む。
- 3 暗黄褐色土 ロームブロック。



- SK580
- 1 黒褐色土 ローム土・ロームブロック多く含む。

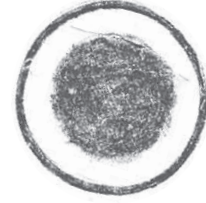


- SK582
- 1 暗黄褐色土 細ローム多量、ローム粒・炭化物少量含む。
- 2 暗黄褐色土 炭化物微量含む。
- 3 暗黄褐色土 炭化物微量含む。粘性しまりなし。

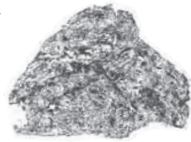
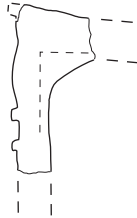
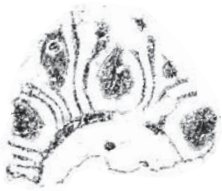




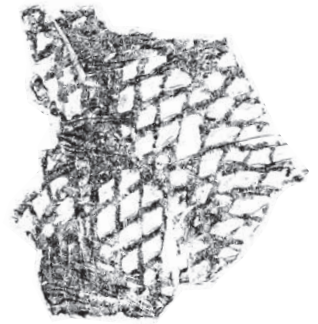
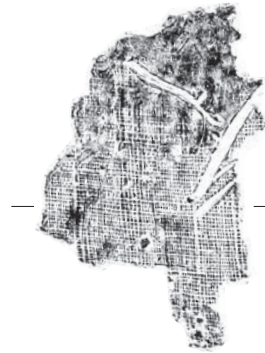
1 S182 10-PL01
24-1・36-1



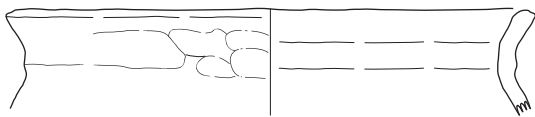
2 S182 10-PP01
24-2



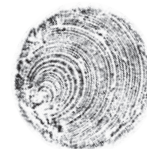
3 遺構外 11-KA01
24-3



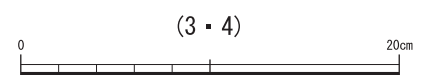
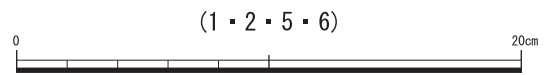
4 遺構外 11-KD01
24-4・37-3



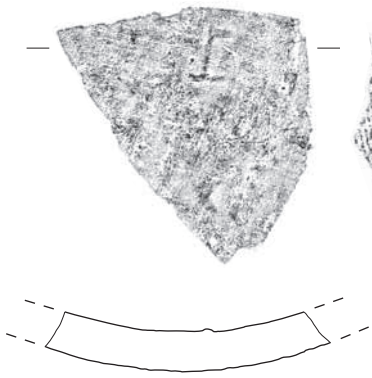
5 S1110 21-PH01



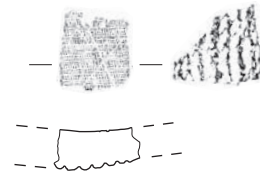
6 S1110 21-PK01
24-5



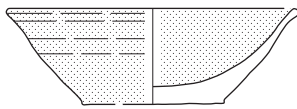
図面28 第26次調査出土遺物



1 SI113 26-KD01
25-1・37-1



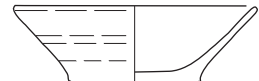
2 SI113 26-KD02



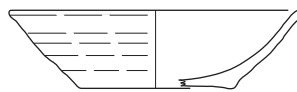
3 SI114 26-PK01
25-2



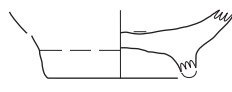
4 SI114 26-PK02
25-3



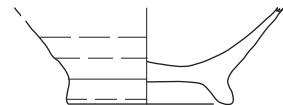
5 SI114 26-PK03
25-4



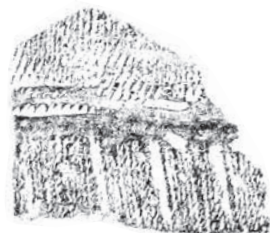
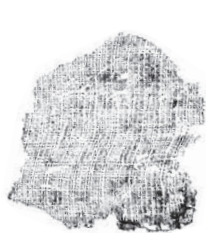
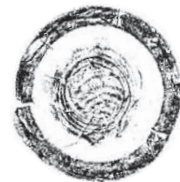
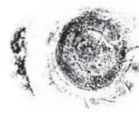
6 SI114 26-PK04
25-5



7 SI114 26-PL01

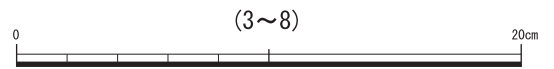


8 SI114 26-PL02
25-6

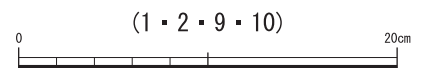


9 SI114 26-KB01
25-7

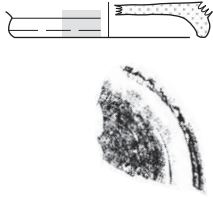
10 遺構外 26-KD03
25-8・37-4



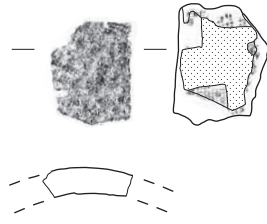
(3~8)



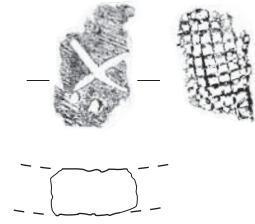
(1・2・9・10)



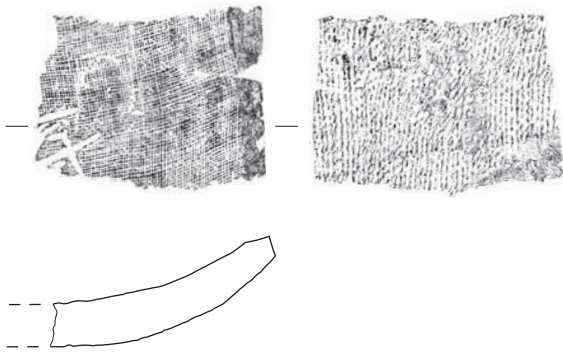
1 遺構外 46-PN01



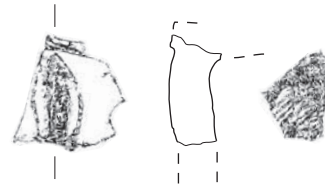
2 遺構外 46-KC01



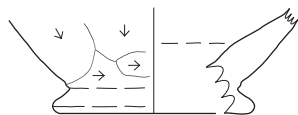
3 遺構外 46-KD01
24-6・37-5



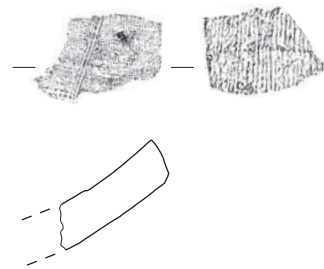
4 遺構外 53-KD01
24-7・37-6



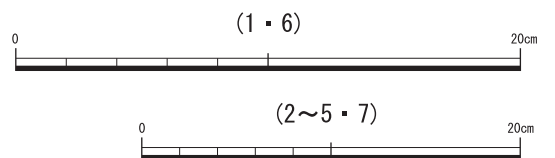
5 遺構外 56-KA01



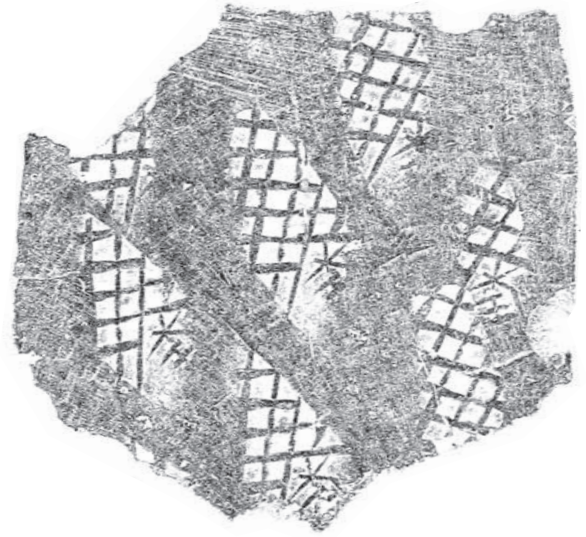
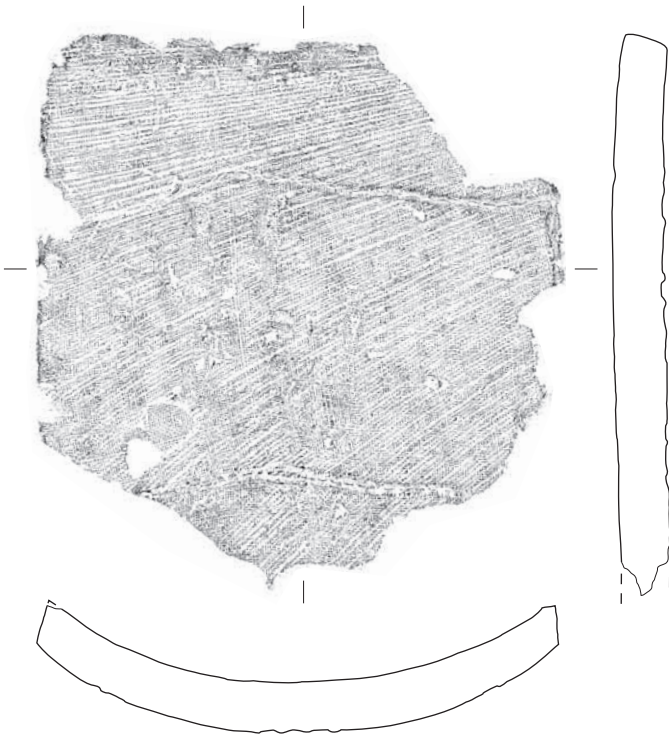
6 S1181 74-PH01



7 S1181 74-KD01



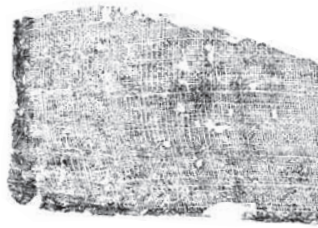
図面30 第55次調査出土遺物



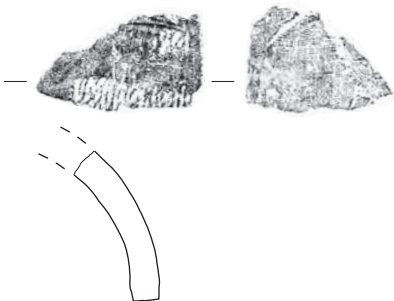
2 SK253 55-KD01
36-13



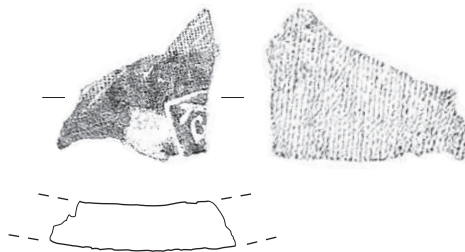
1 SK253 55-PP01
24-8



3 遺構外 55-KB01
24-9



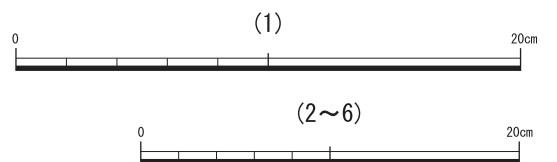
4 遺構外 55-KC01



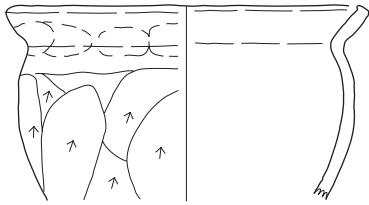
5 遺構外 55-KD02
24-10・36-7



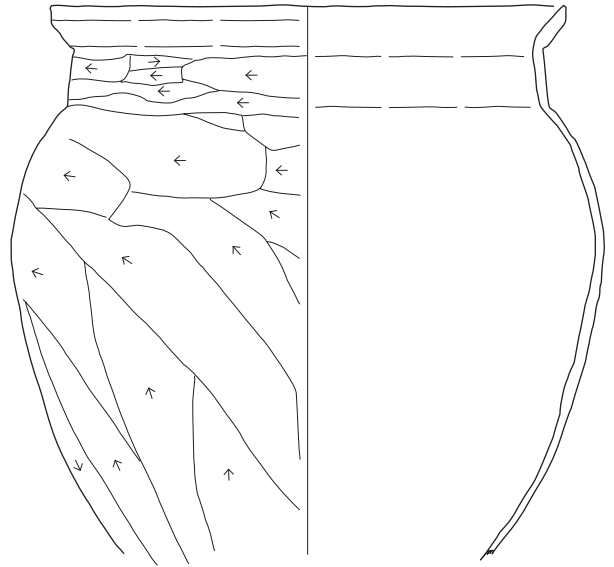
6 遺構外 55-KD03



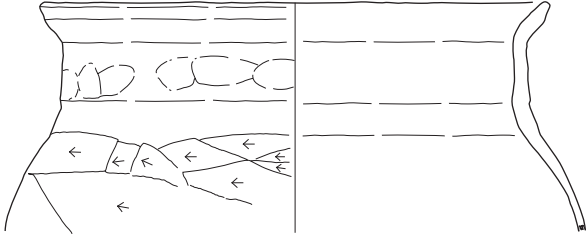
図面31 第88次調査出土遺物 (1)



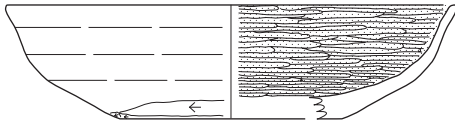
1 SI197 88-PH02
26-1



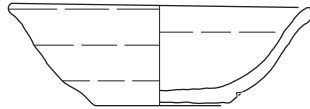
3 SI197 88-PH07
26-3



2 SI197 88-PH03
26-2



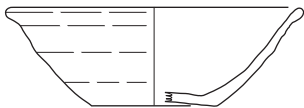
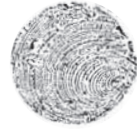
4 SI197 88-PH10
26-4



5 SI197 88-PK02
26-5



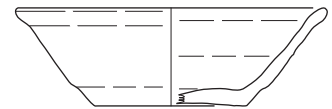
6 SI197 88-PK03
26-6



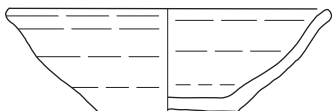
7 SI197 88-PK04



8 SI197 88-PK18
26-7・36-4



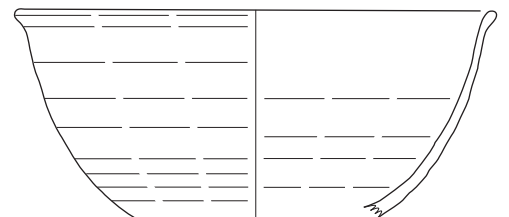
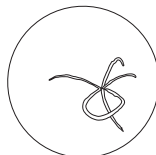
9 SI197 88-PK19



10 SI197 88-PK20
26-8



11 SI197 88-PK21
27-1・36-5



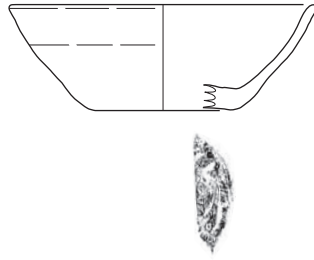
12 SI197 88-PK07
27-2



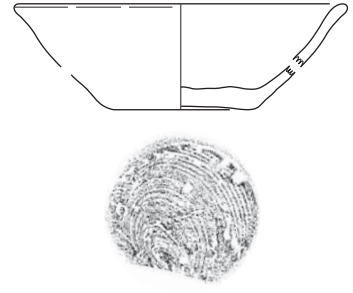
図面32 第88次調査出土遺物 (2)



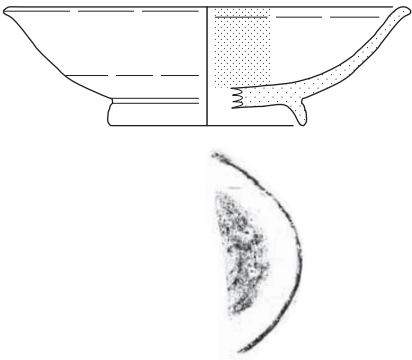
1 SI197 88-PK10
27-3



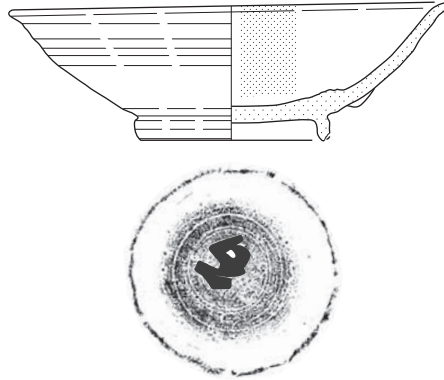
2 SI197 88-PL01



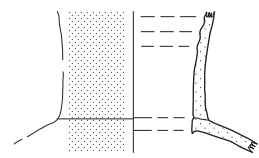
3 SI197 88-PL03



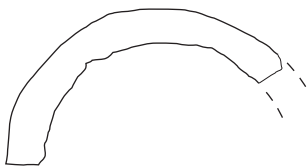
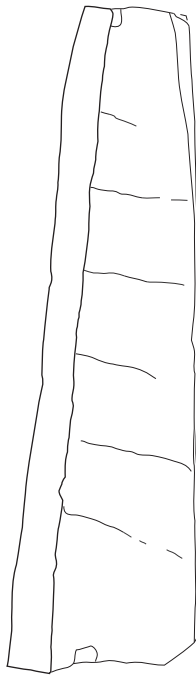
4 SI197 88-PN01
27-5



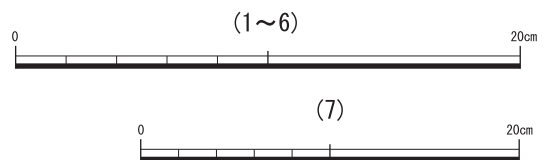
5 SI197 88-PN04
27-6・36-2



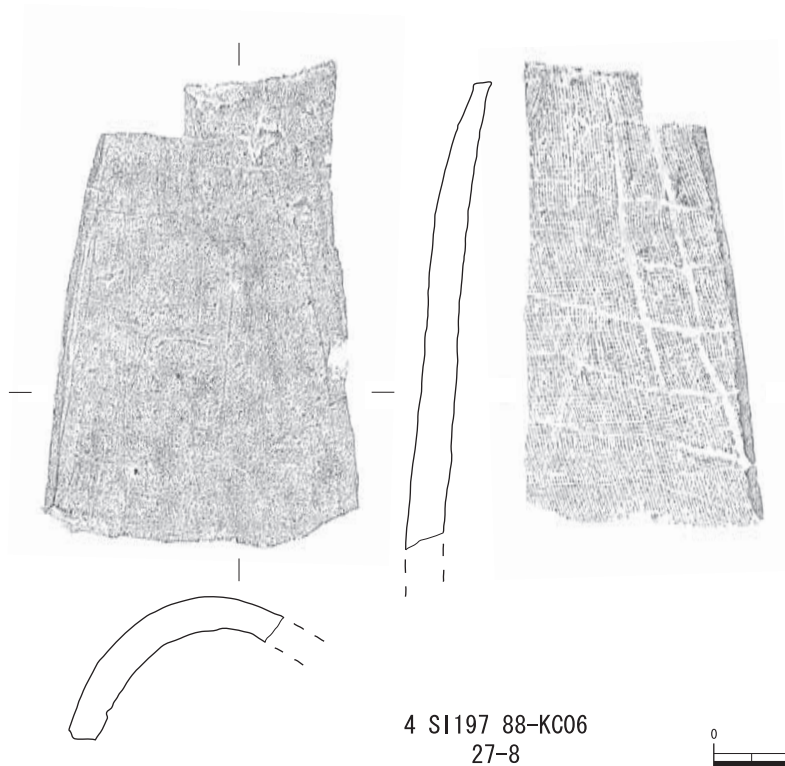
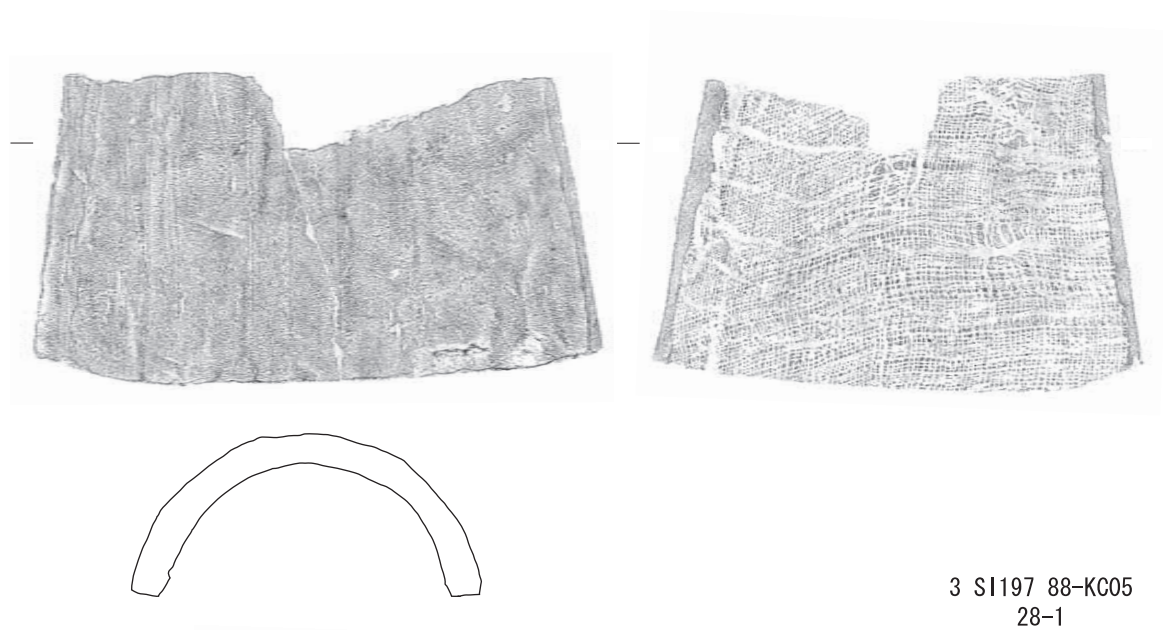
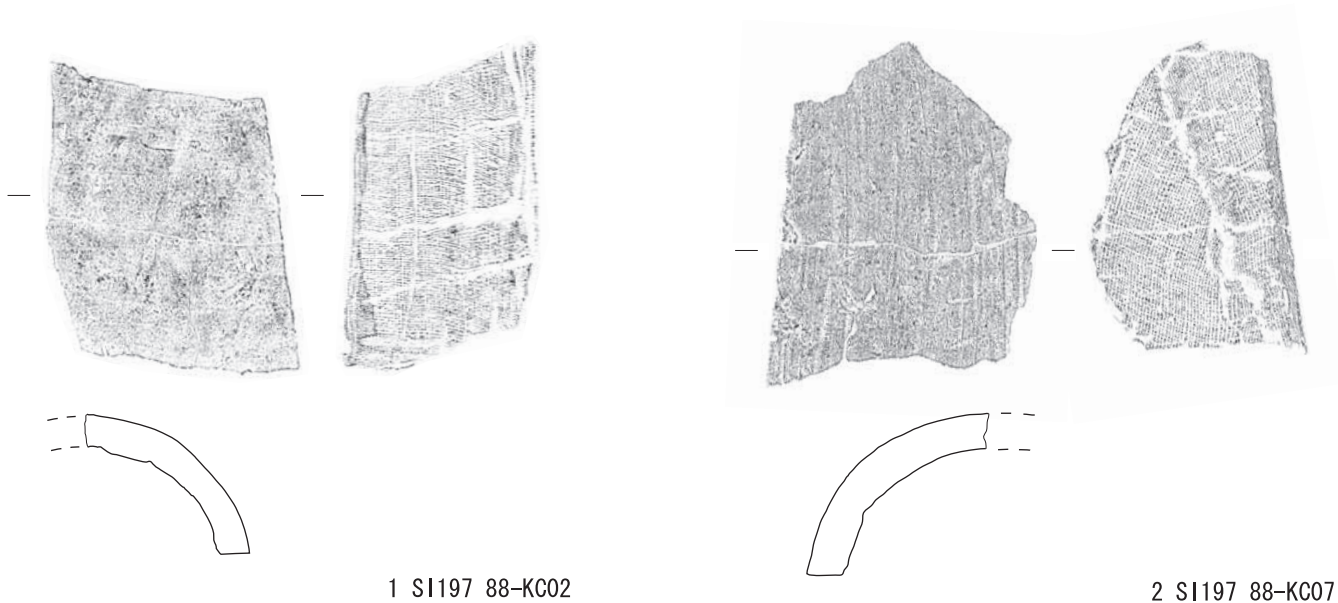
6 SI197 88-PN03
27-4



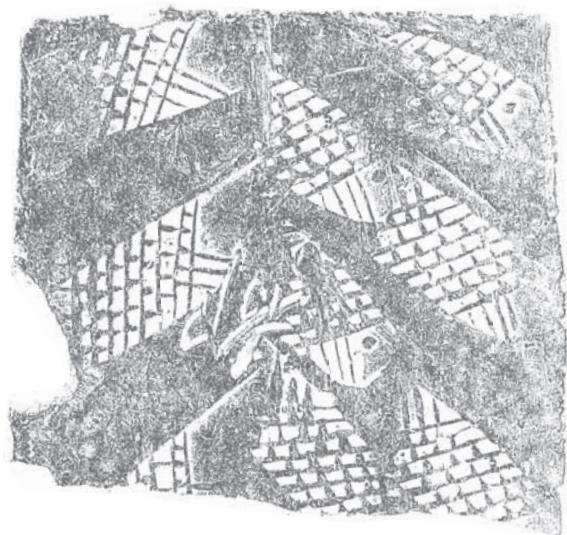
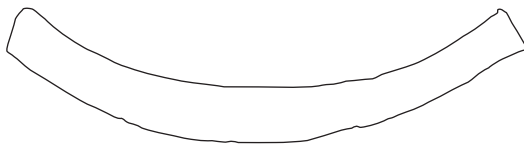
7 SI197 88-KC01
27-7



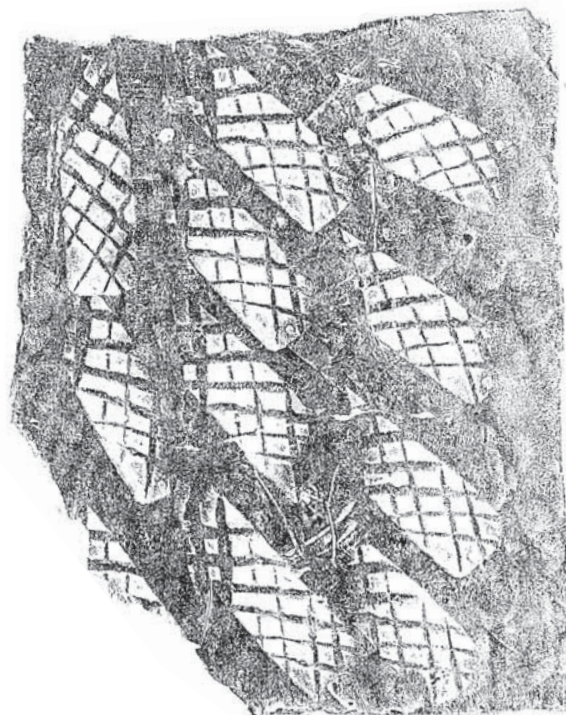
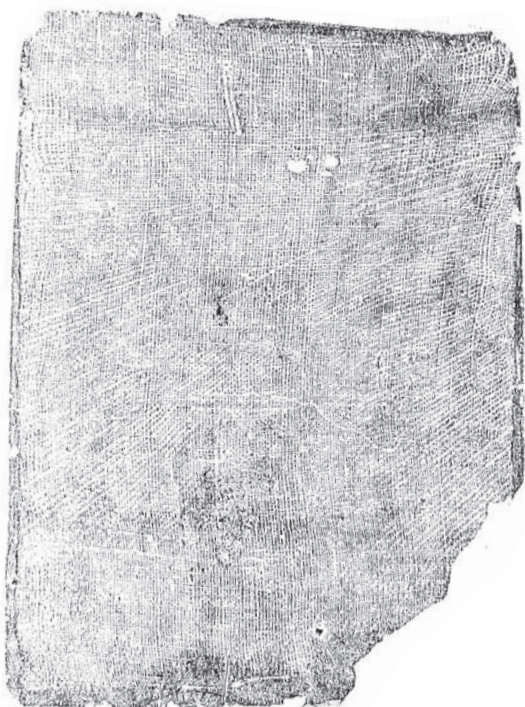
図面33 第88次調査出土遺物 (3)



図面34 第88次調査出土遺物 (4)



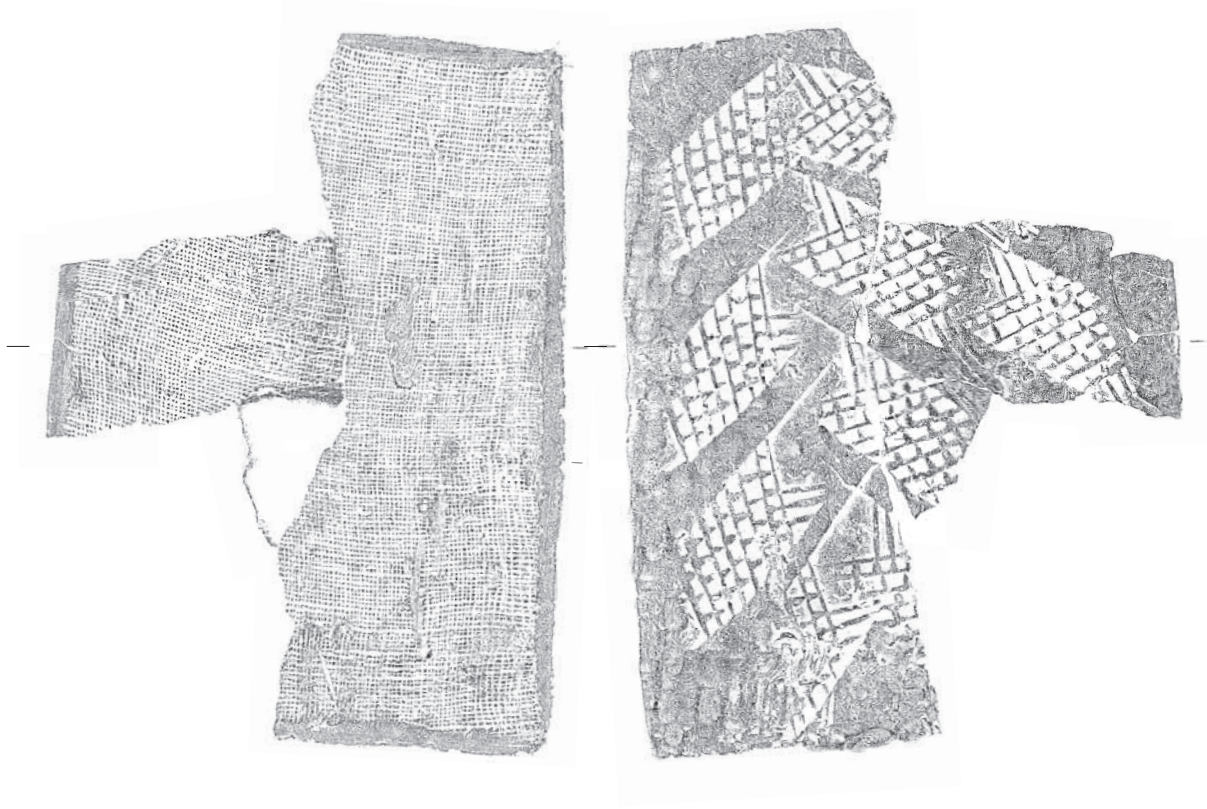
1 S1197 88-KD01
28-2・38-1



2 S1197 88-KD02
28-3・38-2



図面35 第88次調査出土遺物 (5)



1 SI197 88-KD03
29-1

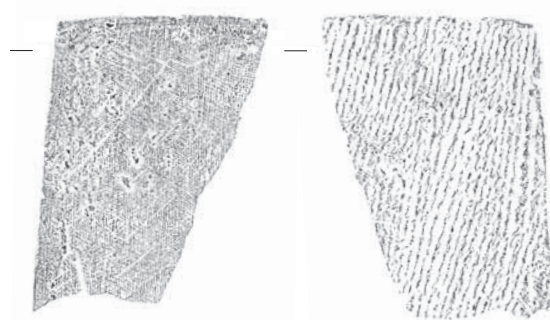


2 SI197 88-KD04
29-2

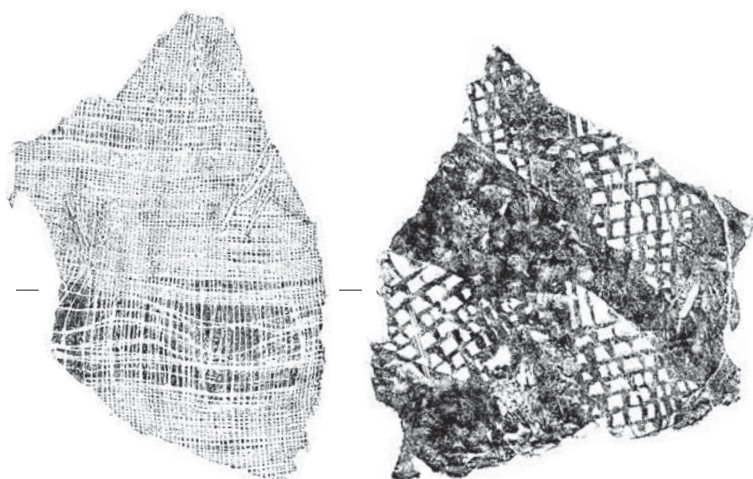




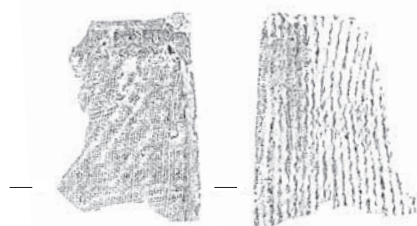
1 SI197 88-KD05



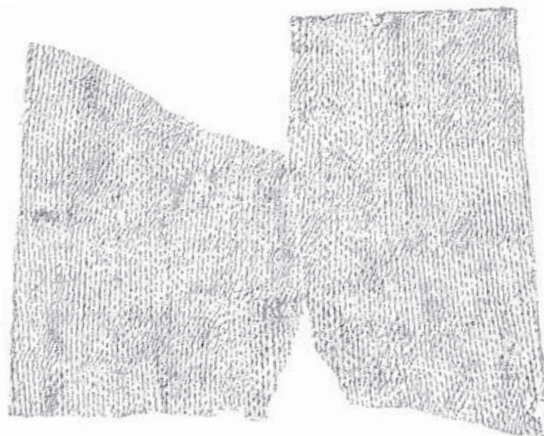
2 SI197 88-KD09
30-1



3 SI197 88-KD06
30-2・37-7

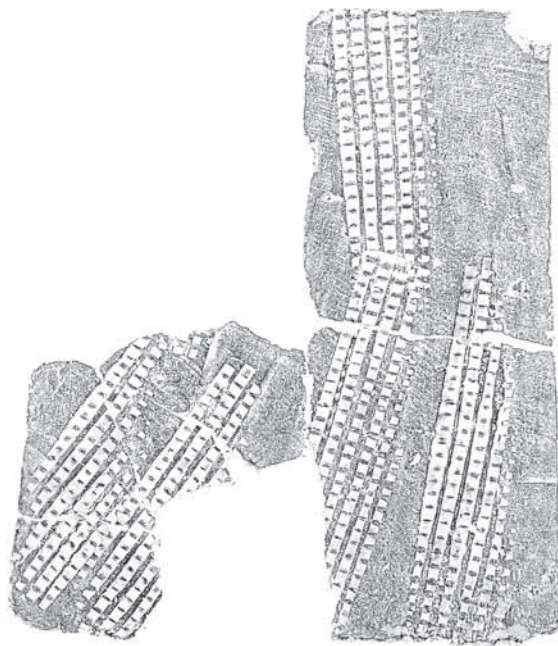


4 SI197 88-KD10

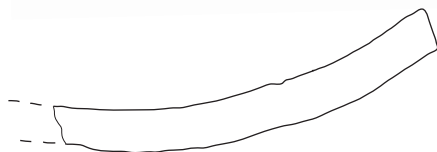


5 SI197 88-KD11
30-3





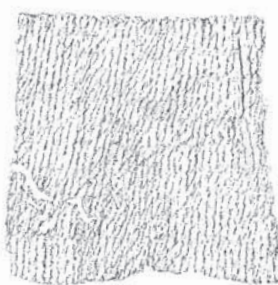
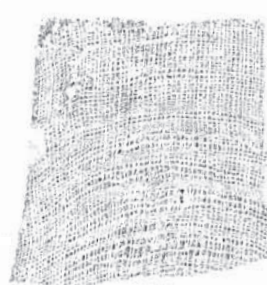
1 S1197 88-KD08
30-4



2 S1197 88-KD12
31-1

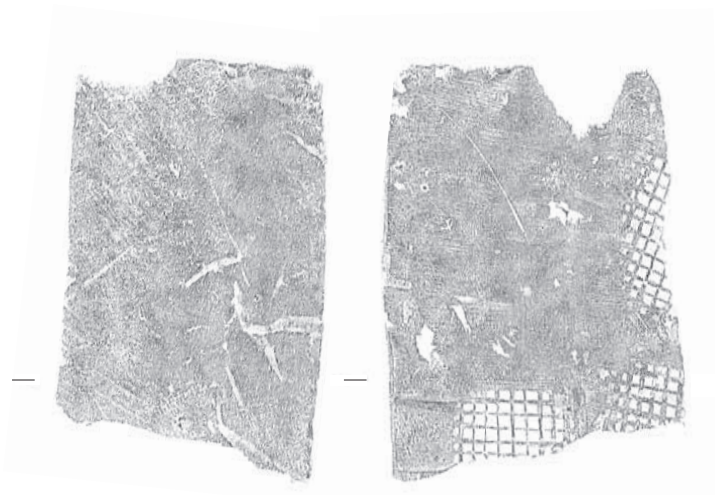


3 S1197 88-KD13
31-6

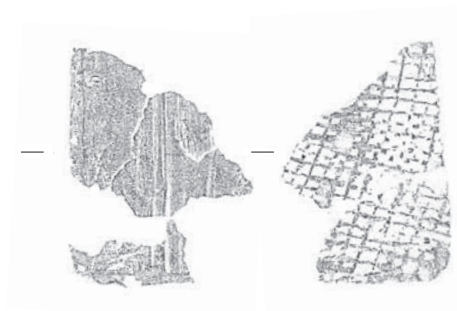


4 S1197 88-KD14
31-3

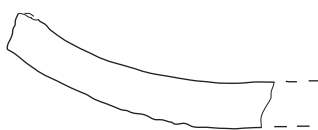
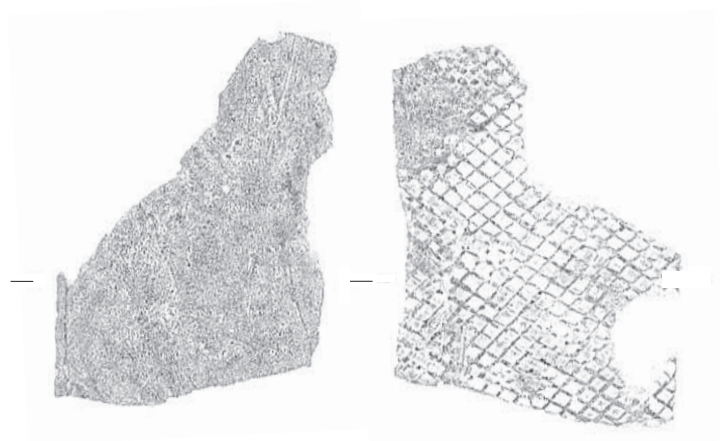




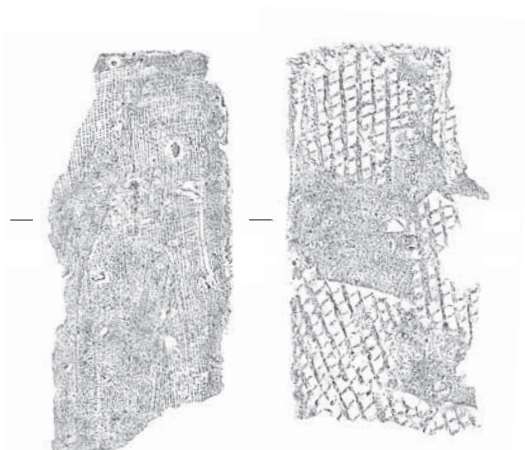
1 SI197 88-KD15
31-4



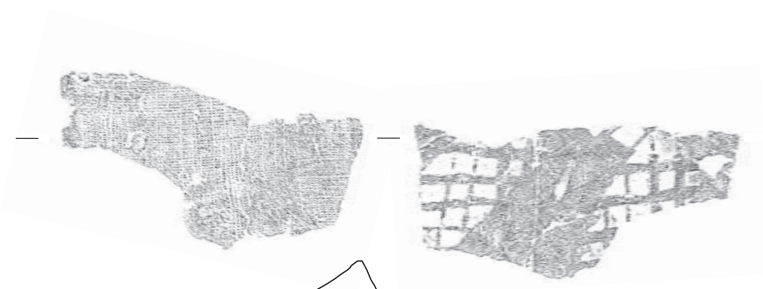
2 SI197 88-KD18



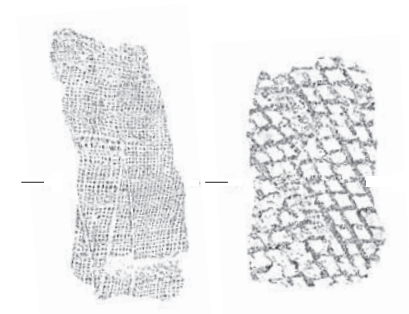
3 SI197 88-KD16



4 SI197 88-KD20
31-7



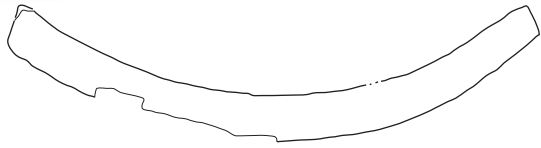
5 SI197 88-KD17



6 SI197 88-KD21
31-2・38-3



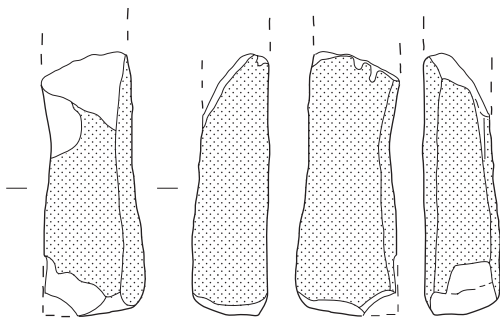
図面39 第88次調査出土遺物 (9)



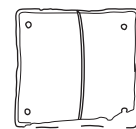
1 S1197 88-KD19
31-5



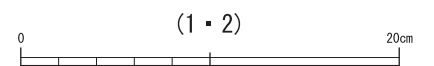
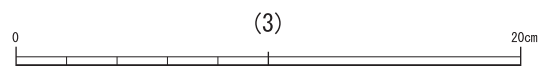
2 S1197 88-KD22
36-8



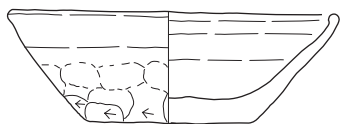
3 S1197 88-GL01
31-8



4 S1197 88-MC01
31-9



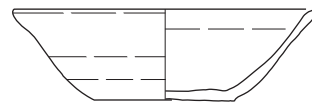
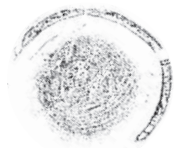
図面40 第88次調査出土遺物 (10)



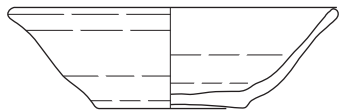
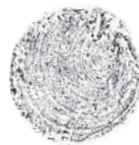
1 SI198 88-PH09
32-1



2 SI198 88-PK15
32-2



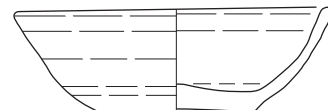
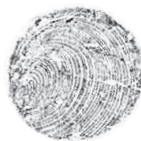
3 SI198 88-PK22
32-3



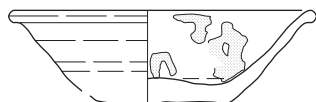
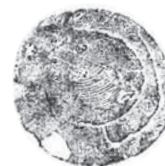
4 SI198 88-PK23
32-4・36-6



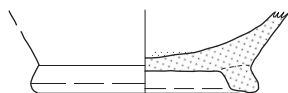
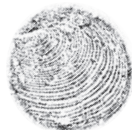
5 SI198 88-PK24
32-5



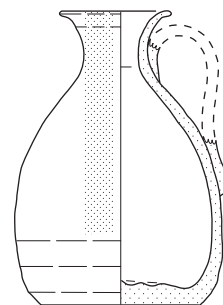
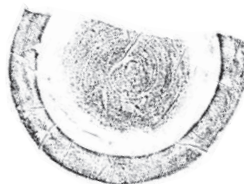
6 SI198 88-PL04
32-6



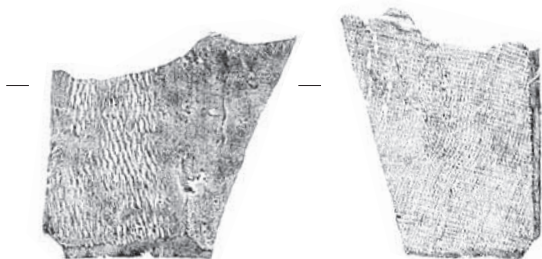
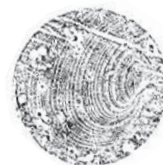
7 SI198 88-PL08
32-7・36-3



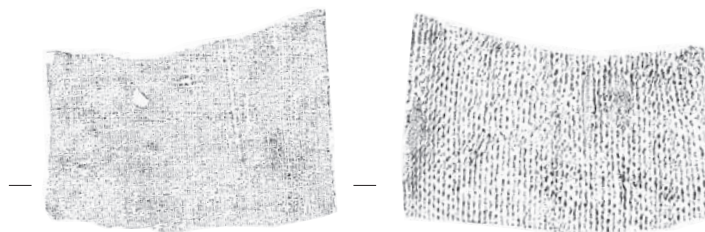
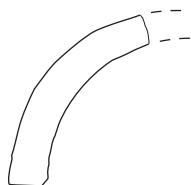
8 SI198 88-PN02
32-8



9 SI198 88-PN05
32-9



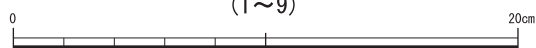
10 SI198 88-KC04



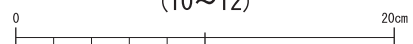
11 SI198 88-KD07



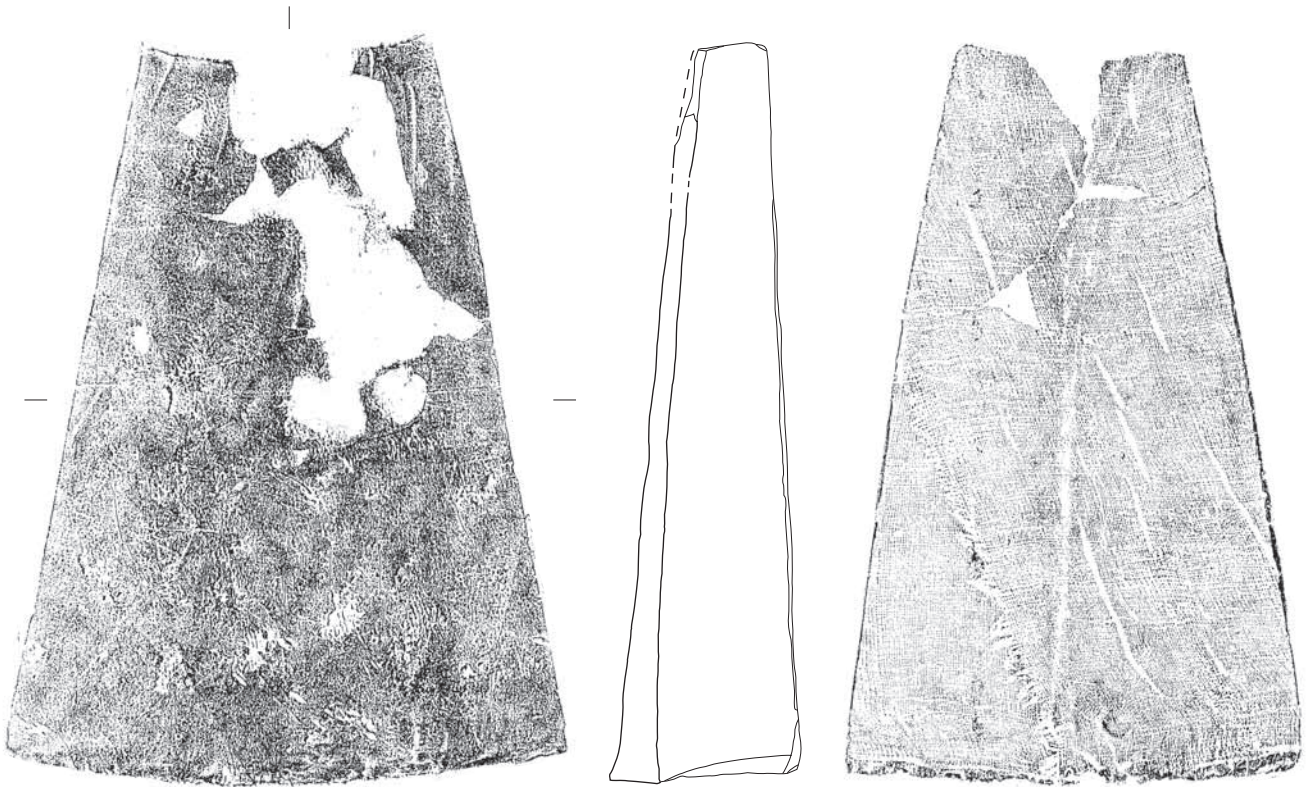
12 SI198 88-KD24



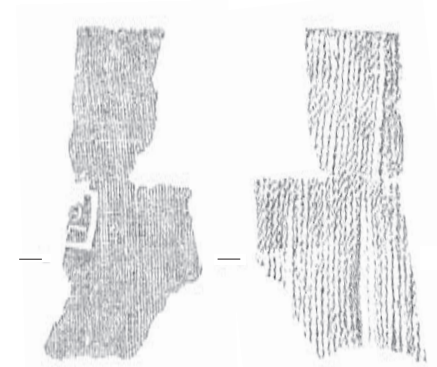
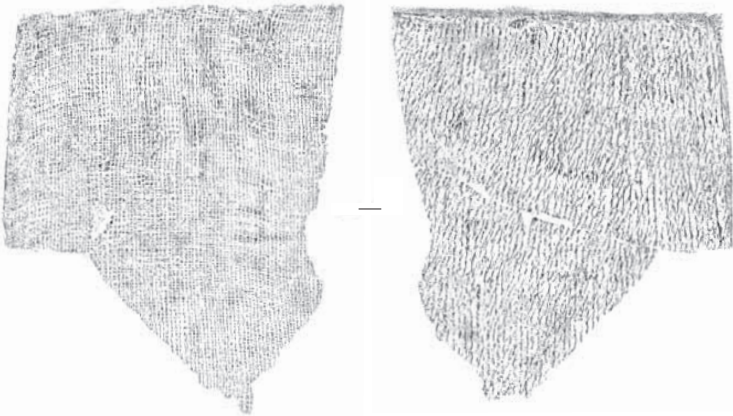
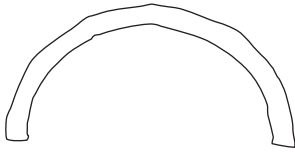
(1~9)



(10~12)



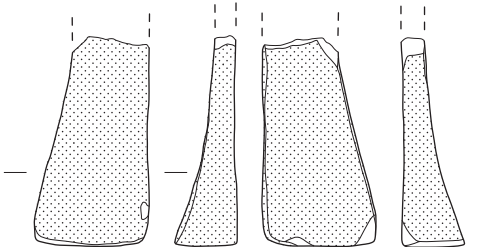
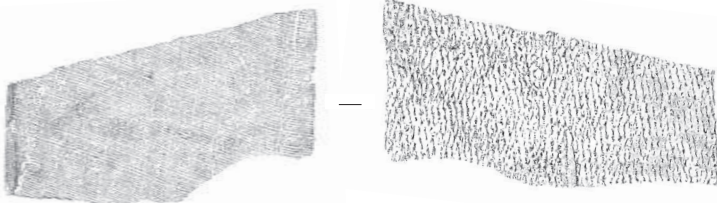
1 SI198 88-KC03
33-1



3 SI198 88-KD26
33-3・36-9



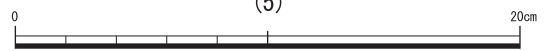
2 SI198 88-KD23
33-2・37-2



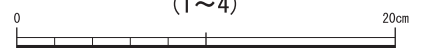
5 遺構外 88-GL02
33-4



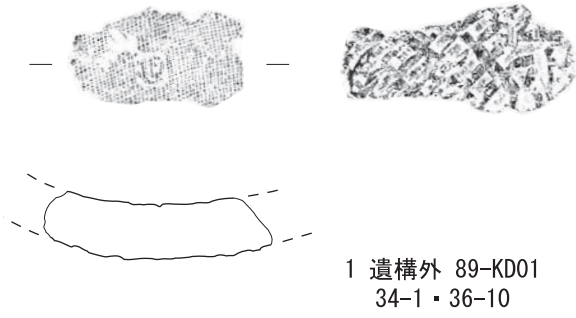
4 SI198 88-KD25



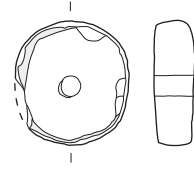
(5)



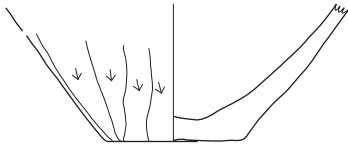
(1~4)



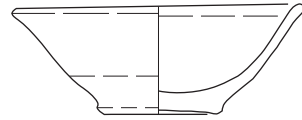
1 遺構外 89-KD01
34-1・36-10



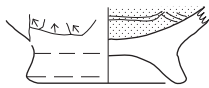
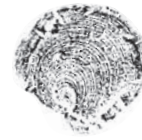
2 遺構外 89-GM01
34-2



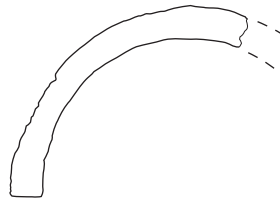
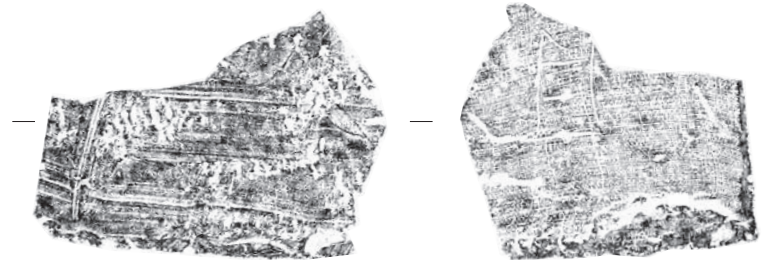
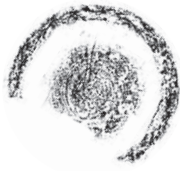
3 S1202 92-PH01
34-3



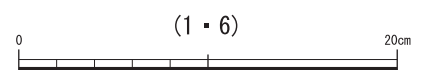
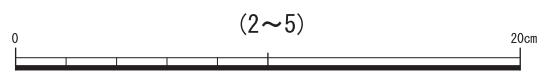
4 S1202 92-PK01
34-4

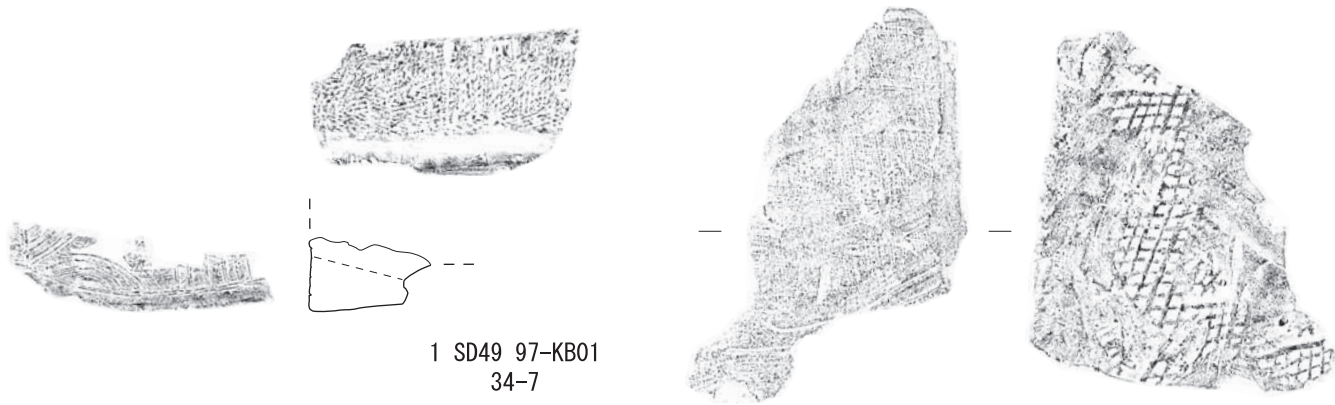


5 S1202 92-PL01
34-5



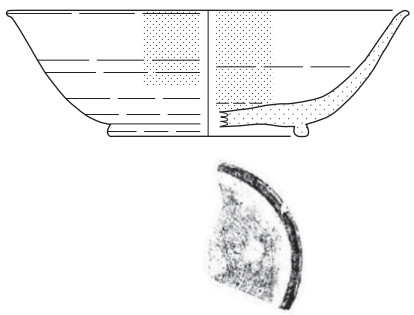
6 遺構外 92-KC01
34-6・38-4





1 SD49 97-KB01
34-7

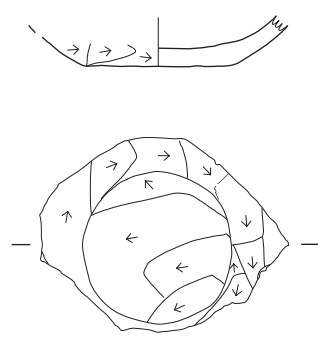
2 SD49 97-KD01
34-8・36-14



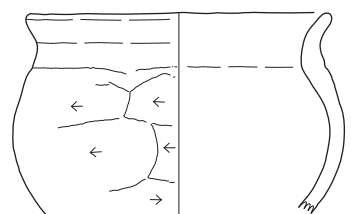
3 遺構外 97-PN01
34-9



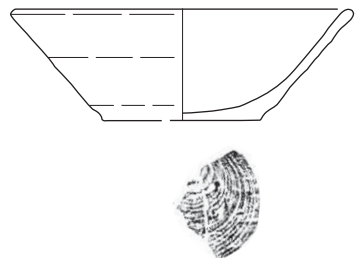
4 遺構外 97-KB02



5 SI226 106-PH01



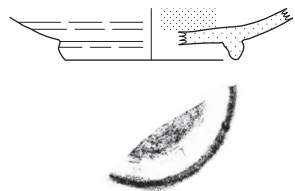
6 SI226 106-PH02



7 SI226 106-PK01
35-7



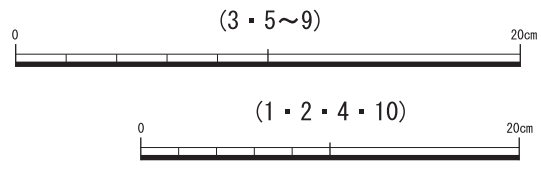
8 SI226 106-PK02
35-8



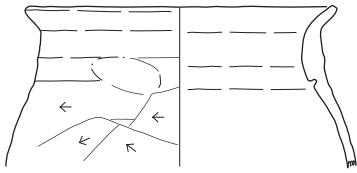
9 SI226 106-PN01
35-9



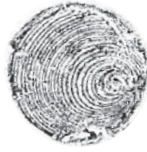
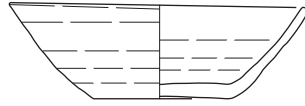
10 P-19 106-KD01
35-10・36-12



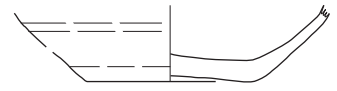
図面44 第102次調査出土遺物 (1)



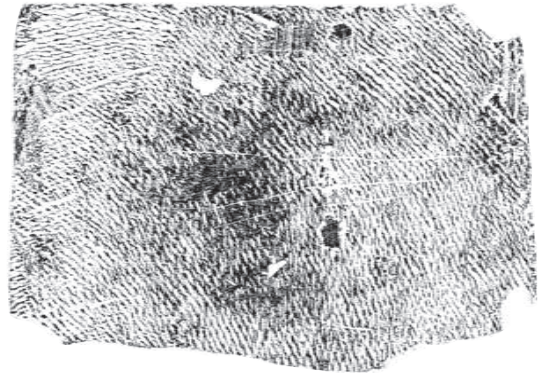
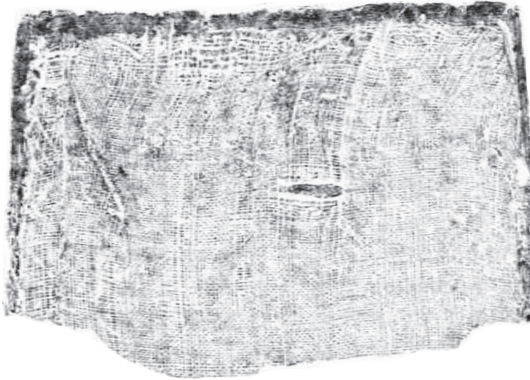
1 SI225 102-PH01
35-1



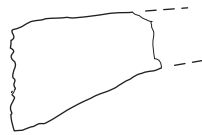
2 SI225 102-PK01
35-2



3 SI225 102-PK02
35-3



4 SI225 102-KD01
35-4・36-11



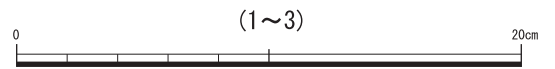
5 遺構外 102-KB01
35-5



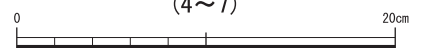
6 遺構外 102-KC01



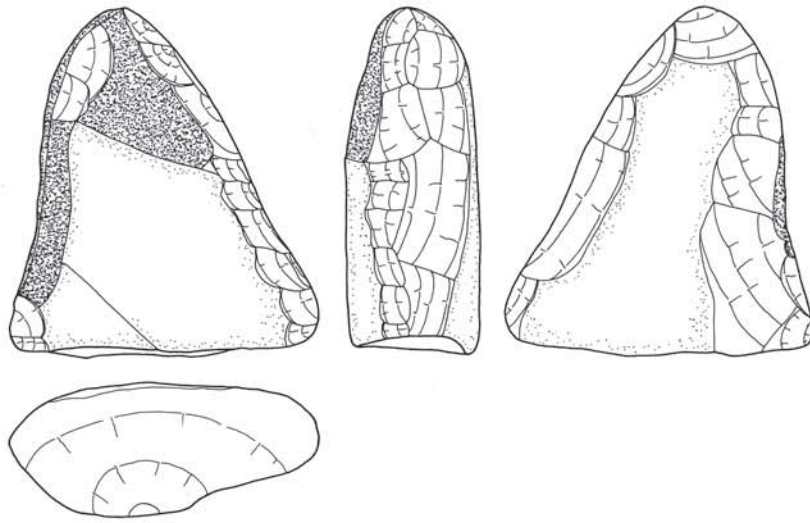
7 遺構外 102-KD02
35-6・38-5



(1~3)



(4~7)



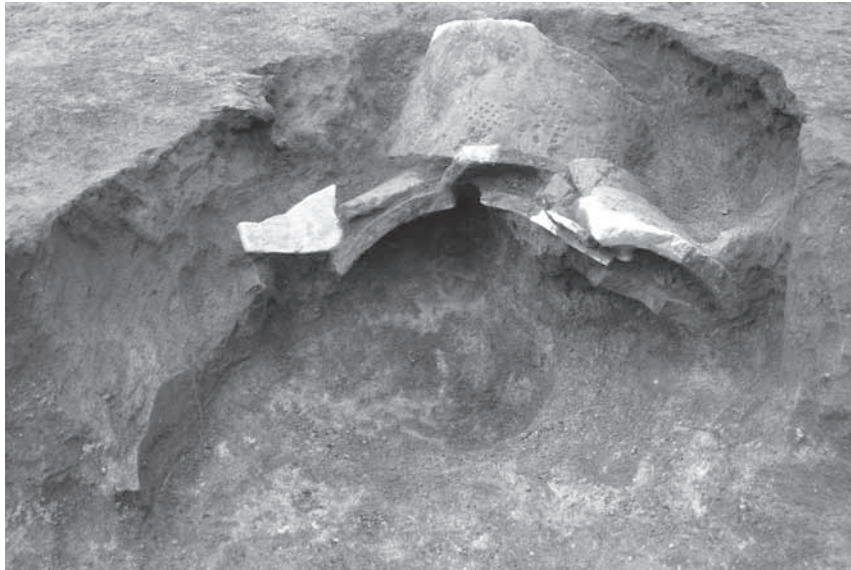
1 遺構外 102-AN01



图版



1 第10次調査 SI82竪穴住居構築時全景 (南から)



2 第10次調査 SI82竪穴住居カマド使用時全景 (南から)



3 第11次調査 調査区全景 (西から)



1 第21次調査 SK133土坑完掘全景 (東から)



2 第26次調査 SI113竪穴住居検出状況 (南から)



3 第26次調査 SI114竪穴住居検出状況 (南から)



1 第34次調査 調査区全景 (東から)



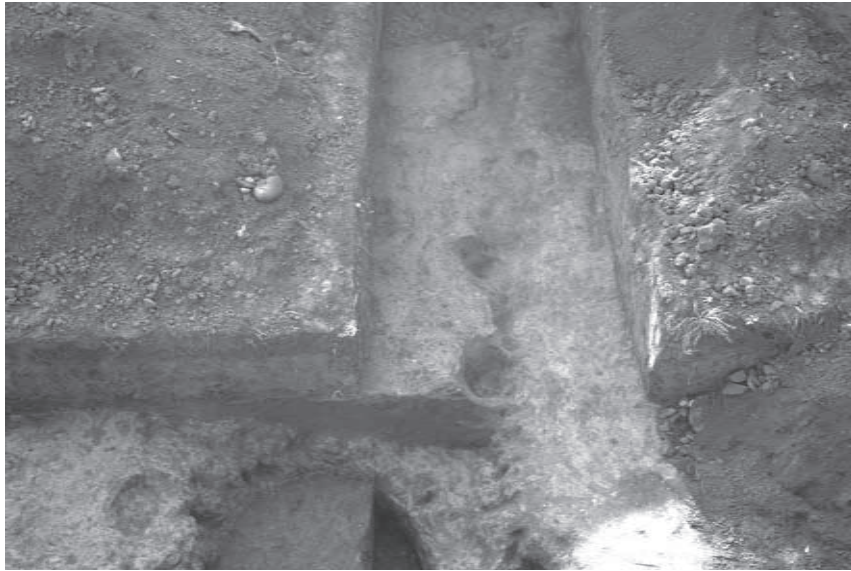
2 第46次調査 SK196土坑完掘全景 (西から)



3 第53次調査 調査区全景 (北から)



4 第53次調査 SK230土坑完掘全景 (北から)



1 第55次調査 SD60溝検出状況 (北から)



2 第55次調査 SK253土坑完掘全景 (西から)



3 第56次調査 南西トレンチ竪穴住居検出状況 (北から)



4 第56次調査 南東トレンチ土坑検出状況 (東から)



1 第61次調査 調査区全景 (北から)



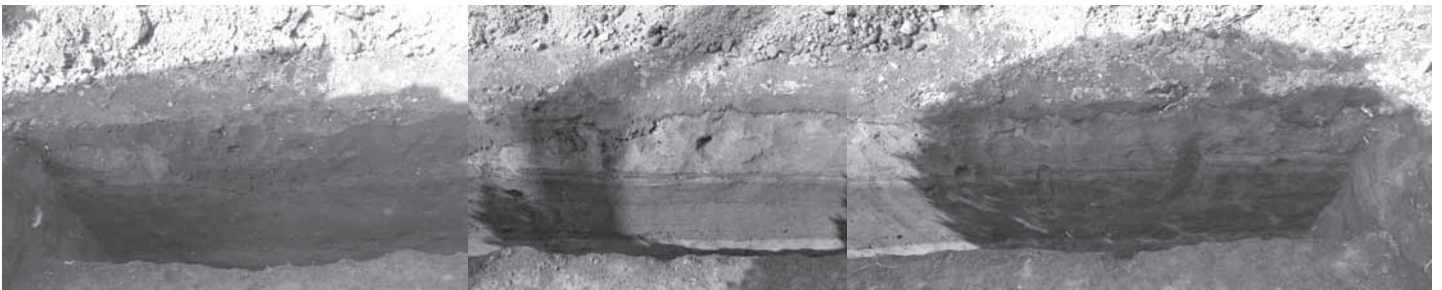
2 第63次調査 調査区全景 (北から)



3 第63次調査 SK285J土坑完掘全景 (北から)



4 第66次調査 調査区全景 (北から)



5 第64次調査 SX9地業遺構土層断面 (南から)



1 第74次調査 SI181竪穴住居使用時全景 (北から)



2 第74次調査 SI181竪穴住居構築時全景 (南から)



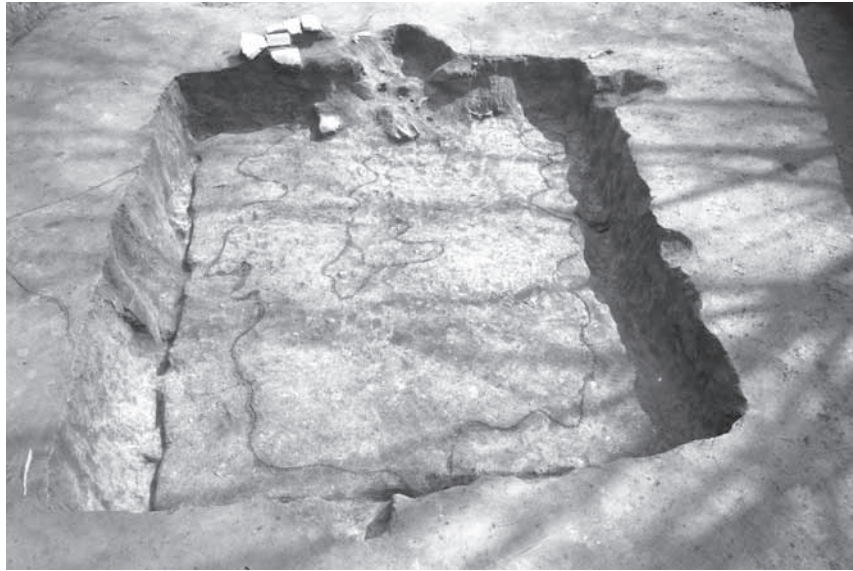
3 第74次調査 SI181竪穴住居カマド使用時全景 (南から)



4 第74次調査 SK321土坑完掘全景 (西から)



5 第76次調査 調査区全景 (西から)



1 SI197竪穴住居使用時全景 (西から)



2 SI197竪穴住居構築時全景 (南から)



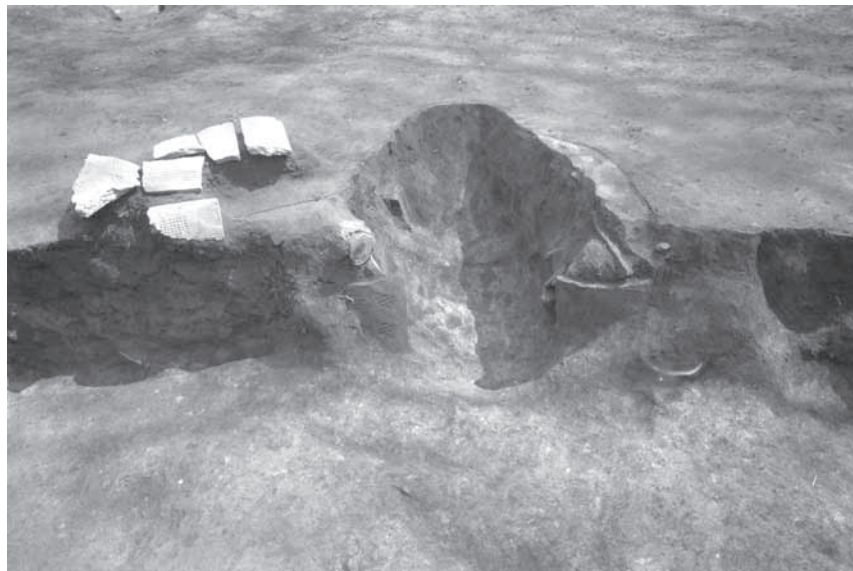
3 SI197竪穴住居南北土層断面 (東から)



4 SI197竪穴住居東西土層断面 (南から)



1 SI197竪穴住居北カマド使用時全景 (南から)



2 SI197竪穴住居東カマド使用時全景 (西から)



3 SI197竪穴住居東カマド脇瓦出土状況 (西から)



4 SI197竪穴住居東カマド脇銚帯裏金具出土状況 (東から)



1 SI198竪穴住居使用時全景 (西から)



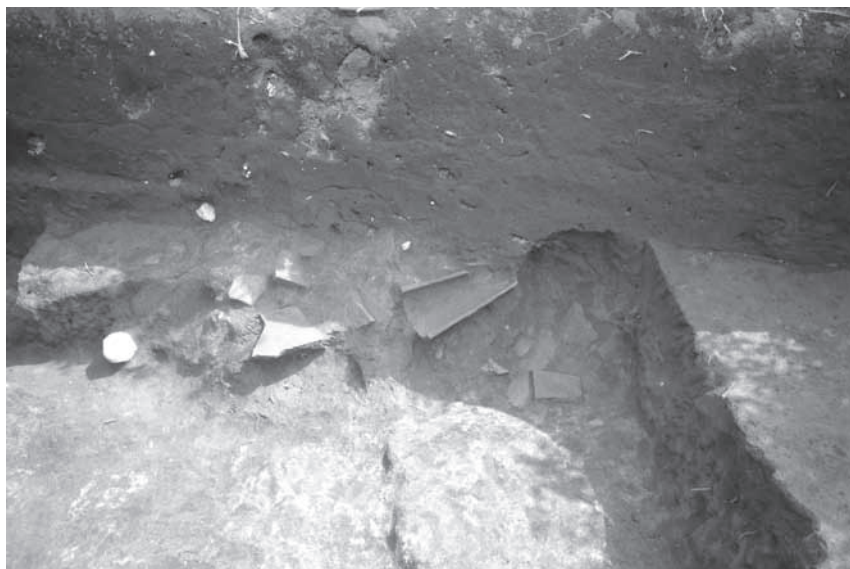
2 SI198竪穴住居構築時全景 (西から)



3 SI198竪穴住居南北土層断面 (西から)



4 SI198竪穴住居東西土層断面 (南から)



1 SI198竪穴住居カマド遺物出土状況 (西から)



2 SK387土坑完掘全景 (北から)



3 SK388土坑完掘全景 (南から)



1 第89次調査 北トレンチSD23溝検出状況 (西から)



2 第89次調査 南トレンチSD23溝検出状況 (南から)



3 第90次調査 調査区全景 (東から)



4 第92次調査 調査区全景 (北から)



5 第92次調査 SI202竪穴住居使用時全景 (北から)



1 第96次調査 SD104溝完掘全景 (東から)



2 第97次調査 SI211竪穴住居東西土層断面 (南から)



3 第97次調査 SI211竪穴住居構築時全景 (西から)



4 第97次調査 SD49溝全景 (南から)



1 SD49溝土層断面 (a期) (西から)



2 SD49溝土層断面 (b期) (西から)



3 SK416土坑完掘全景 (南から)



4 SK419~421土坑完掘全景 (北から)



1 第98次調査 SD108溝完掘全景 (西から)



2 第102次調査 SI225竪穴住居遺物出土状況 (西から)



3 第102次調査 SI225竪穴住居使用時全景 (西から)



4 第102次調査 SI225竪穴住居構築時全景 (西から)



1 第105次調査 南トレンチ全景 (西から)



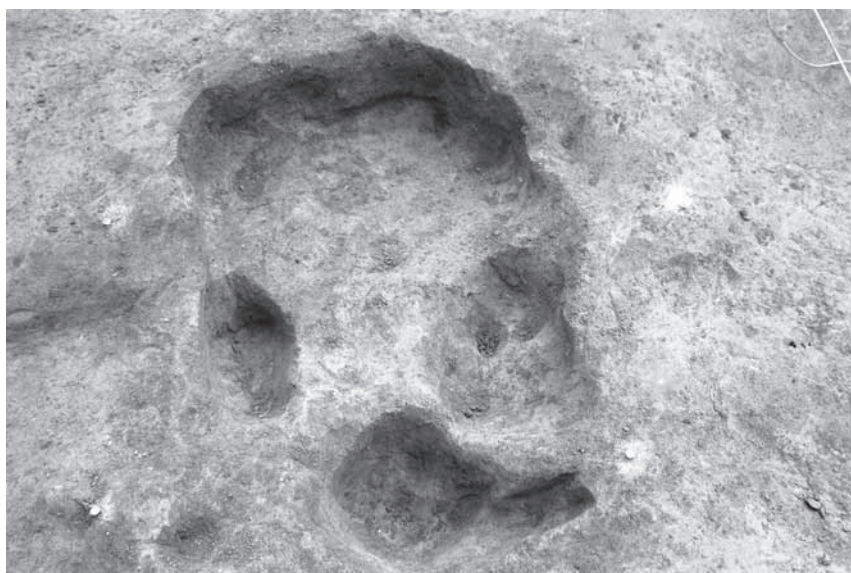
2 第106次調査 SI226竪穴住居使用時全景 (西から)



3 第106次調査 SI226竪穴住居構築時全景 (西から)



1 SI226竪穴住居カマド使用時全景 (西から)



2 SI226竪穴住居カマド構築時全景 (西から)



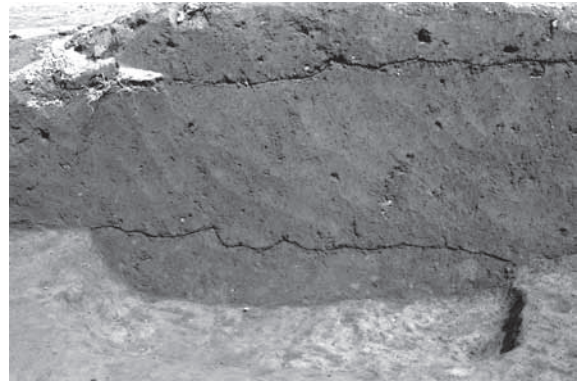
3 SI226竪穴住居カマド土層断面 (南から)



4 SI226竪穴住居カマド遺物出土状況 (西から)



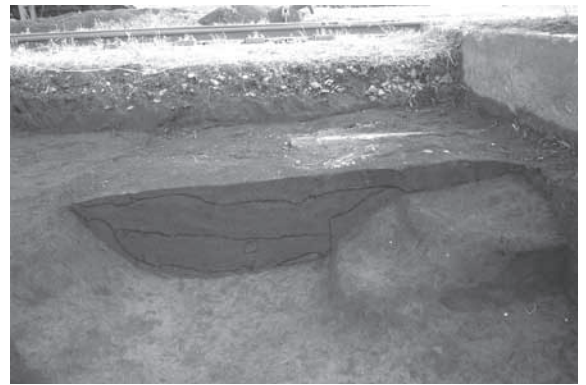
1 第106次調査 SK531土坑完掘全景 (北から)



2 第106次調査 SK530土坑土層断面 (南から)



3 第108次調査 SD124溝完掘全景 (北から)



4 第108次調査 SD124溝土層断面 (北から)



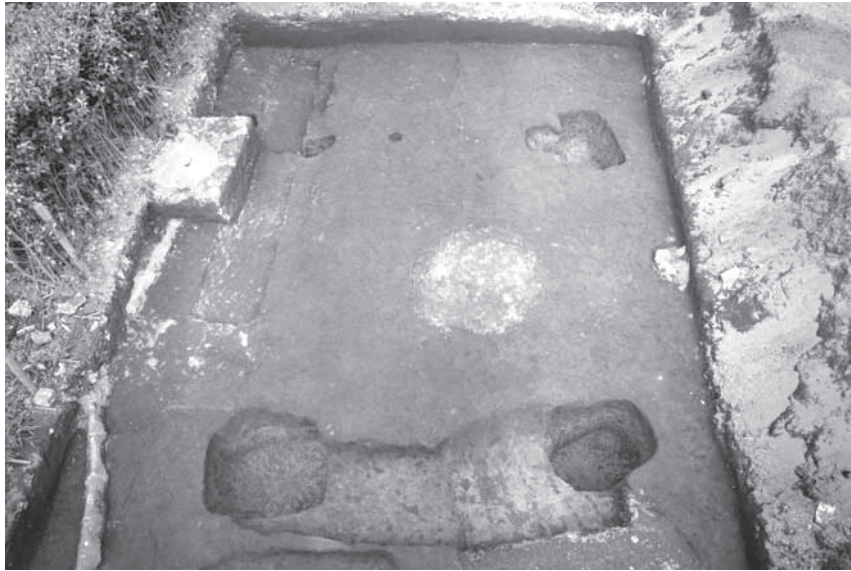
5 第108次調査 SK536・537土坑完掘全景 (東から)



6 第115次調査 調査区全景東側 (南から)



7 第115次調査 調査区全景西側 (南から)



1 調査区全景 (西から)



2 SB63掘立柱建物 柱穴1-1完掘全景 (北から)



3 SB63掘立柱建物 柱穴1-1土層断面 (北から)



1 SB63掘立柱建物 柱穴2-1完掘全景 (東から)



2 SB63掘立柱建物 柱穴2-1土層断面 (北から)



3 SB63掘立柱建物 柱穴2-1土層断面 (東から)



1 第118次調査 SB63掘立柱建物 柱穴1-2完掘全景 (東から)



2 第118次調査 SB63掘立柱建物 柱穴1-2土層断面 (東から)



3 第119次調査 調査区全景西側 (東から)



4 第119次調査 調査区全景東側 (南から)



1 調査区全景 (南から)



2 SB65掘立柱建物 柱穴1-1土層断面 (北から)



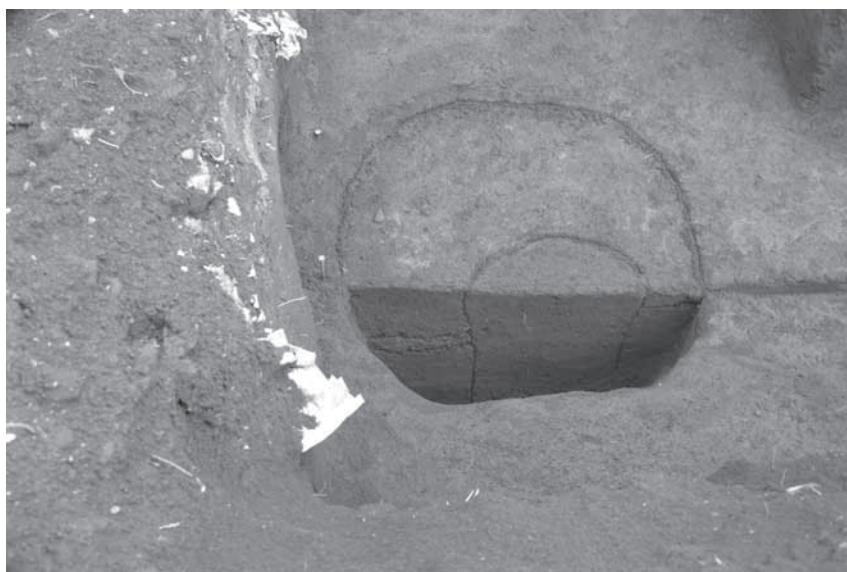
3 SB65掘立柱建物 柱穴1-3土層断面 (南から)



1 SB65掘立柱建物 柱穴2-1土層断面 (北から)



2 SB65掘立柱建物 柱穴2-1土層断面 (西から)



3 SB65掘立柱建物 柱穴3-1土層断面 (北から)



1 第121次調査 調査区全景1 (東から)



2 第121次調査 調査区全景2 (東から)



3 第124次調査 調査区全景 (西から)



4 第124次調査 SK579土坑完掘全景 (南から)



5 第124次調査 SK580土坑完掘全景 (南から)



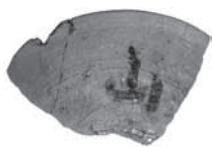
6 第125次調査 調査区全景 (西から)



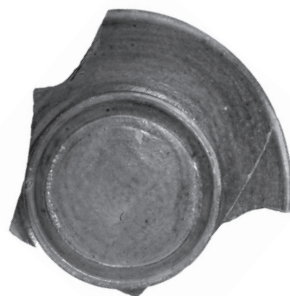
7 第125次調査 SK582土坑完掘全景 (南から)



8 第125次調査 SK582土坑土層断面 (南から)



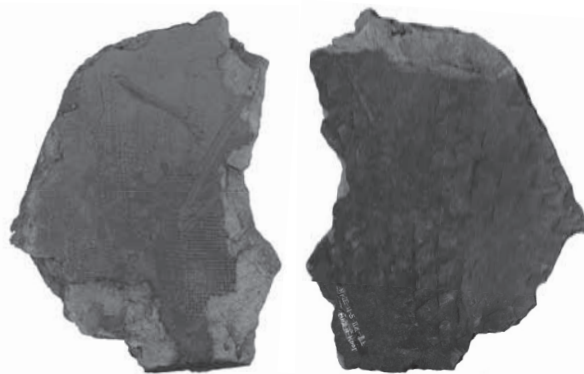
1 SI82 10-PL01
27-1



2 SI82 10-PP01
27-2



3 遺構外 11-KA01
27-3



4 遺構外 11-KD01
27-4



5 SI110 21-PK01
27-6



6 遺構外 46-KD01
29-3



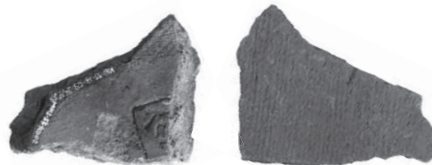
7 遺構外 53-KD01
29-4



8 SK253 55-PP01
30-1



9 遺構外 55-KB01
30-3



10 遺構外 55-KD02
30-5



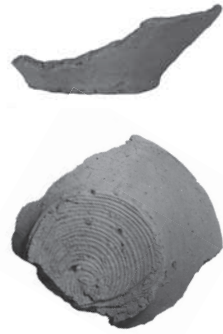
1 SI113 26-KD01
28-1



2 SI114 26-PK01
28-3



3 SI114 26-PK02
28-4



4 SI114 26-PK03
28-5



5 SI114 26-PK04
28-6



6 SI114 26-PL02
28-8



7 SI114 26-KB01
28-9



8 遺構外 26-KD03
28-10



1 SI197 88-PH02
31-1



2 SI197 88-PH03
31-2



3 SI197 88-PH07
31-3



4 SI197 88-PH10
31-4



5 SI197 88-PK02
31-5



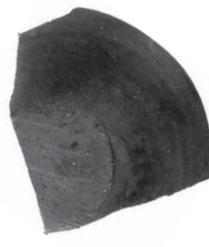
6 SI197 88-PK03
31-6



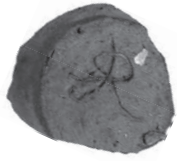
7 SI197 88-PK18
31-8



8 SI197 88-PK20
31-10



図版27 第88次調査出土遺物 (2)



1 SI197 88-PK21
31-11



2 SI197 88-PK07
31-12



3 SI197 88-PK10
32-1



4 SI197 88-PN03
32-6



5 SI197 88-PN01
32-4



6 SI197 88-PN04
32-5



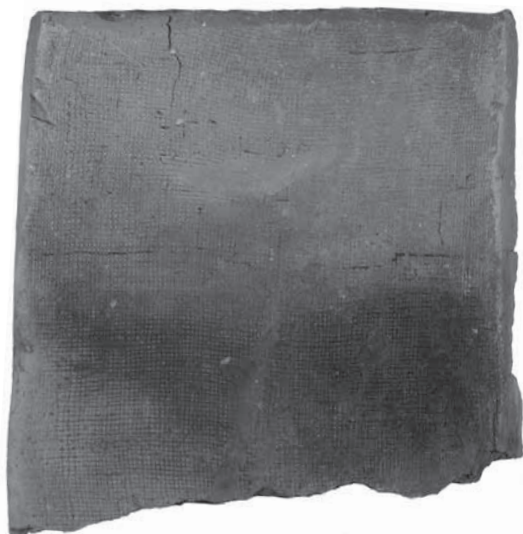
7 SI197 88-KC01
32-7



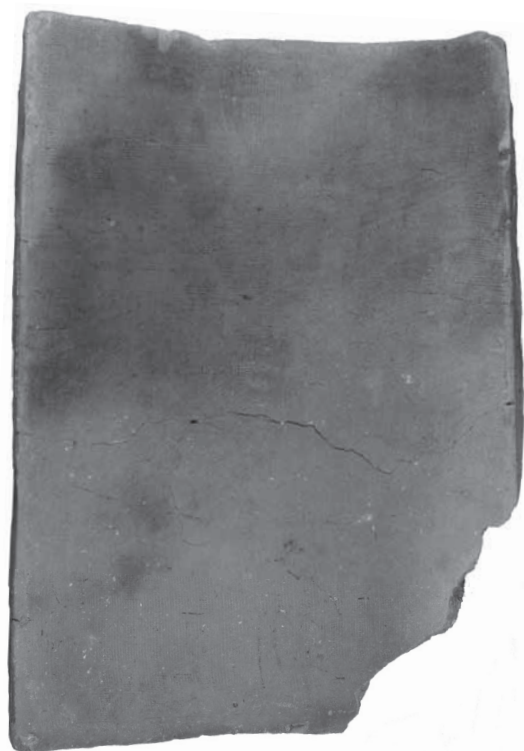
8 SI197 88-KC06
33-4



1 SI197 88-KC05
33-3



2 SI197 88-KD01
34-1



3 SI197 88-KD02
34-2



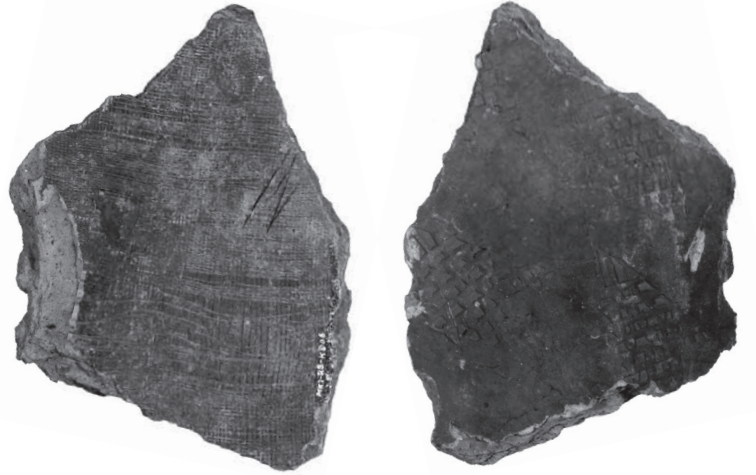
1 SI197 88-KD03
35-1



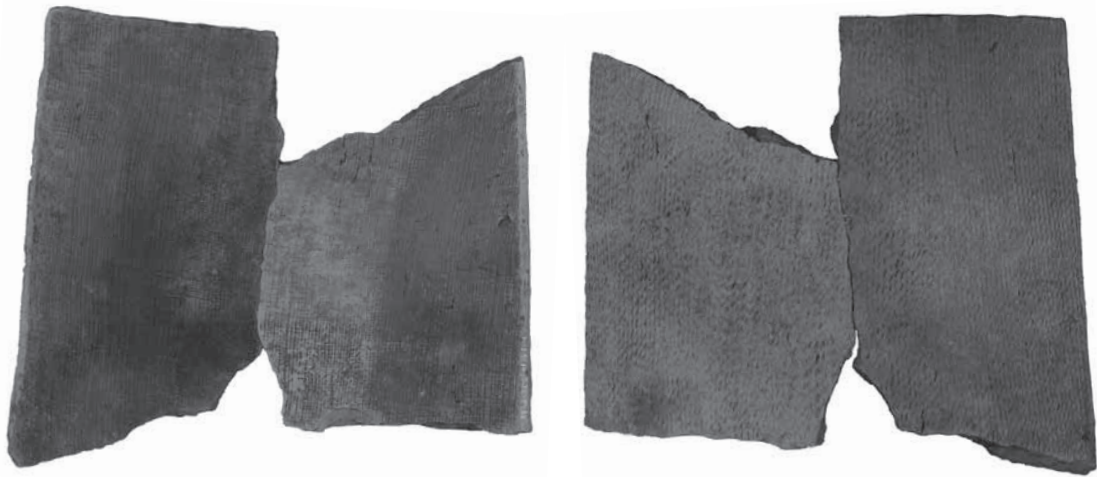
2 SI197 88-KD04
35-2



1 SI197 88-KD09
36-2



2 SI197 88-KD06
36-3



3 SI197 88-KD11
36-5



4 SI197 88-KD08
37-1

図版31 第88次調査出土遺物 (6)



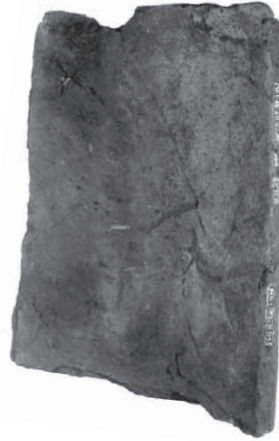
1 SI197 88-KD12
37-2



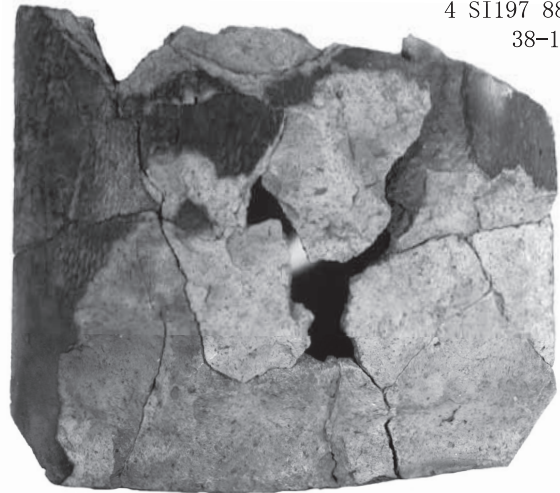
2 SI197 88-KD21
38-6



3 SI197 88-KD14
37-4



4 SI197 88-KD15
38-1



5 SI197 88-KD19
39-1



6 SI197 88-KD13
37-3



7 SI197 88-KD20
38-4



8 SI197 88-GL01
39-3



10 SI197 88-ND01・ND02



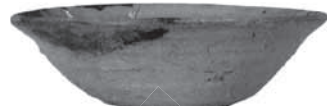
9 SI197 88-MC01
39-4



1 SI198 88-PH09
40-1



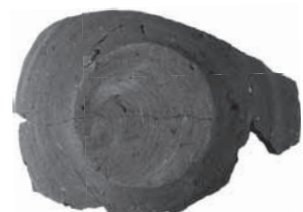
2 SI198 88-PK15
40-2



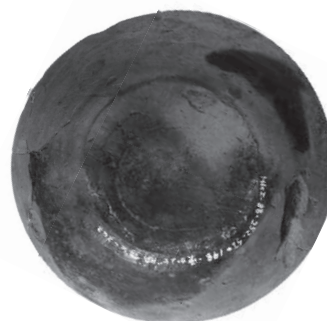
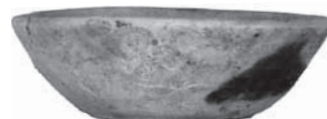
3 SI198 88-PK22
40-3



4 SI198 88-PK23
40-4



5 SI198 88-PK24
40-5



6 SI198 88-PL04
40-6



7 SI198 88-PL08
40-7



8 SI198 88-PN02
40-8



9 SI198 88-PN05
40-9



1 SI198 88-KC03
41-1



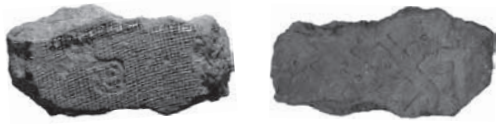
2 SI198 88-KD23
41-2



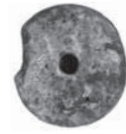
3 SI198 88-KD26
41-3



4 遺構外 88-GL02
41-5



1 遺構外 89-KD01
42-1



2 遺構外 89-GM01
42-2



3 SI202 92-PH01
42-3



5 SI202 92-PL01
42-5



4 SI202 92-PK01
42-4



6 遺構外 92-KC01
42-6



7 SD49 97-KB01
43-1



8 SD49 97-KD01
43-2



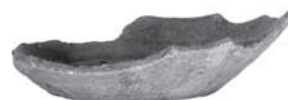
9 遺構外 97-PN01
43-3



1 SI225 102-PH01
44-1



2 SI225 102-PK01
44-2



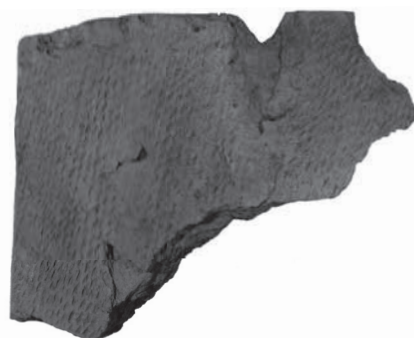
3 SI225 102-PK02
44-3



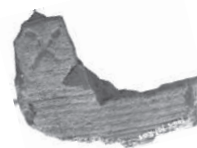
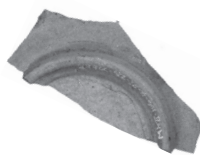
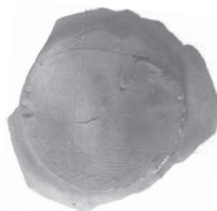
4 SI225 102-KD01
44-4



5 遺構外 102-KB01
44-5



6 遺構外 102-KD02
44-7

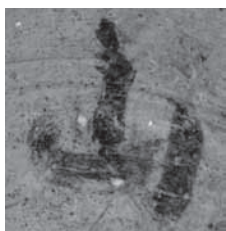


7 SI226 106-PK01
43-7

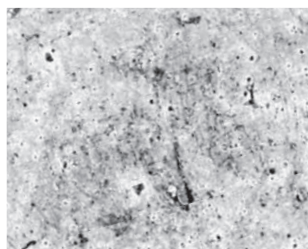
8 SI226 106-PK02
43-8

9 SI226 106-PN01
43-9

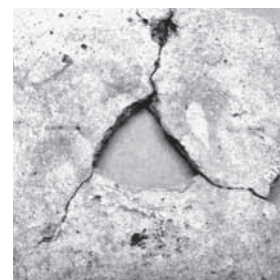
10 P-19 106-KD01
43-10



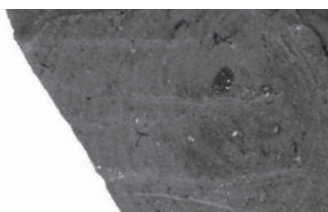
1 図面27-1
山 (墨書)
SI82 10-PL01 胴部外面



2 図面32-5
不明 (墨書)
SI197 88-PN04 底部外面



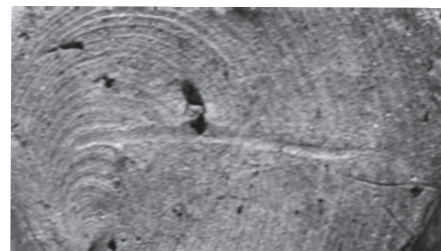
3 図面40-7
不明 (朱墨書)
SI198 88-PL08 胴部内面



4 図面31-8
三か (へラ書)
SI197 88-PK18 底部外面



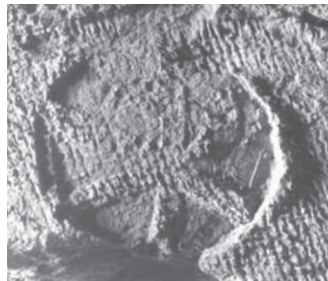
5 図面31-11
水か (へラ書)
SI197 88-PK21 底部外面



6 図面40-4
×か (へラ書)
SI198 88-PK23 底部外面



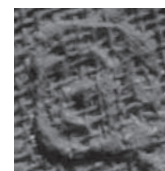
7 図面30-5
入瓦 (押印)
遺構外 55-KD02 凹面



8 図面39-2
水か (押印)
SI197 88-KD22 凹面



9 図面41-3
前 (押印)
SI198 88-KD26 凹面



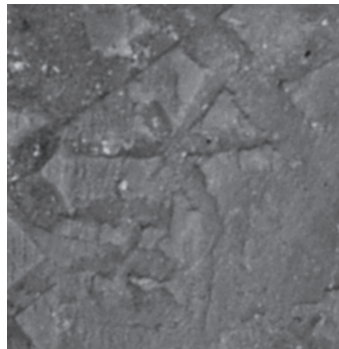
10 図面42-1
豹 (押印)
遺構外 89-KD01 凹面



11 図面44-4
中 (押印)
SI225 102-KD01 端面



12 図面43-10
父 (押印)
P-19 106-KD01 凹面



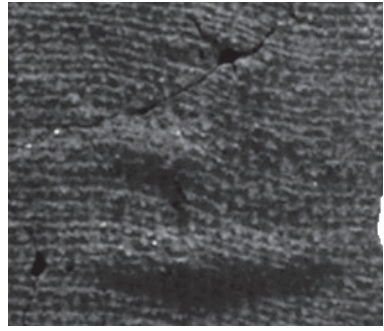
13 図面30-2
荏 (押型)
SK253 55-KD01 凸面



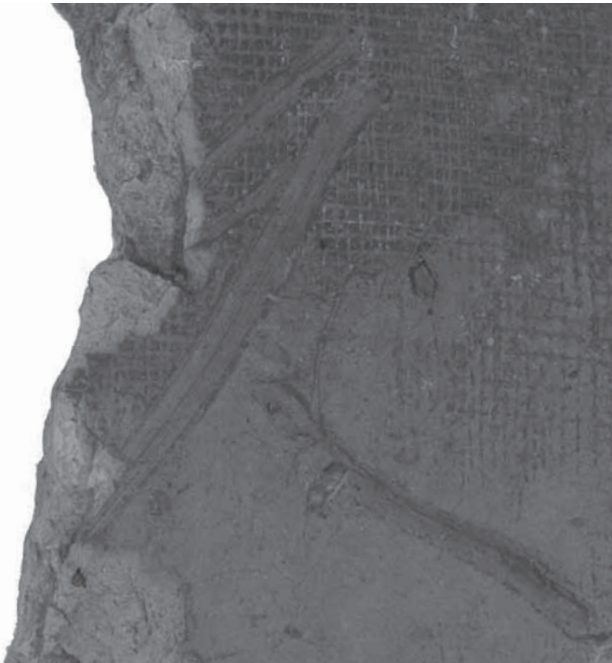
14 図面43-2
荏 (押型)
SD49 97-KD01 凸面



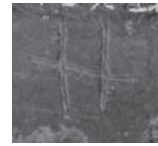
1 図面28-1
不明 (模骨)
SI113 26-KD01 凹面



2 図面41-2
上 逆字 (模骨)
SI198 88-KD23 凹面



3 図面27-4
久 (へラ書)
遺構外 11-KD01 凹面



4 図面28-10
廿か (へラ書)
遺構外 26-KD03 端面



5 図面29-3
父 (へラ書)
遺構外 46-KD01 凹面



6 図面29-4
豊 (へラ書)
遺構外 53-KD01 凹面



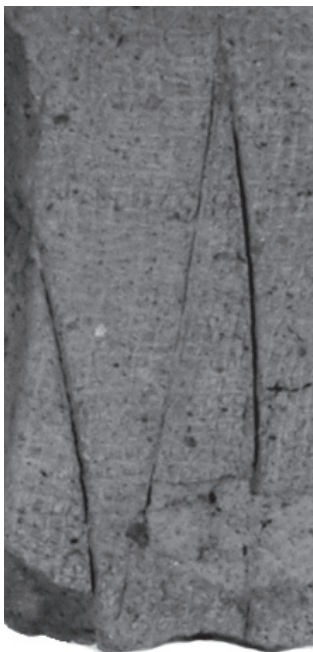
7 図面36-3
多か (へラ書)
SI197 88-KD06 凹面



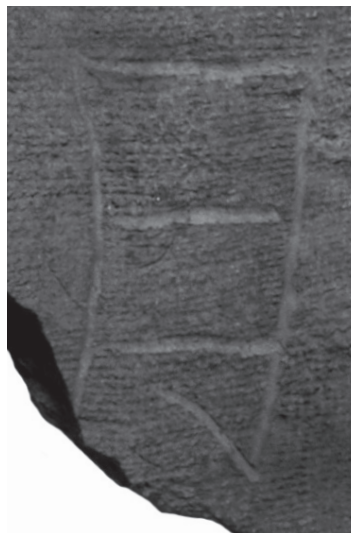
1 図面34-1
都 (へラ書)
SI197 88-KD01 凸面



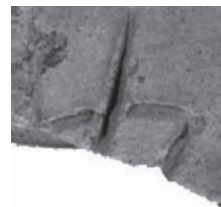
2 図面34-2
都 (へラ書)
SI197 88-KD02 凸面



3 図面38-6
不明 (へラ書)
SI197 88-KD21 凹面



4 図面42-6
月 (へラ書)
遺構外 92-KC01 凹面



5 図面44-7
豊 (へラ書)
遺構外 102-KD02 凹面

武蔵国分寺跡発掘調査概報 37

—昭和 50～55 年度 僧寺寺院地内等の調査—

発行日	平成 23 年 3 月 31 日
編著者	国分寺市遺跡調査団 © (団長 坂詰 秀一)
発行所	国分寺市遺跡調査会 国分寺市教育委員会 〒185-0023 国分寺市西元町 1-13-10 (武蔵国分寺跡資料館内)
印刷所	TEL 042-300-0073 (株)菰田印刷

令和 4 年 (2022) 3 月 2 日 デジタル版作成